

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話AⅠ	林 秀娟	1学期	1	1	1
			1 - 1			
	中国語初級会話AⅠ	林 秀娟	1学期	1	1	2
			1 - 2			
	中国語初級会話AⅠ	林 秀娟	1学期	1	1	3
			1 - 3			
	中国語初級会話AⅡ	林 秀娟	2学期	1	1	4
			1 - 1			
	中国語初級会話AⅡ	林 秀娟	2学期	1	1	5
			1 - 2			
	中国語初級会話AⅡ	林 秀娟	2学期	1	1	6
			1 - 3			
	中国語初級会話BⅠ	篠原 征子	1学期	1	1	7
			1 - 1			
	中国語初級会話BⅠ	葉 言材	1学期	1	1	8
			1 - 3			
	中国語初級会話BⅠ	篠原 征子	1学期	1	1	9
			1 - 2			
	中国語初級会話BⅡ	篠原 征子	2学期	1	1	10
			1 - 1			
中国語初級会話BⅡ	葉 言材	2学期	1	1	11	
		1 - 3				
中国語初級会話BⅡ	篠原 征子	2学期	1	1	12	
		1 - 2				
中国語中級会話AⅠ	葉 言材	1学期	2	1	13	
		2 - 1				
中国語中級会話AⅠ	馬 鳳如	1学期	2	1	14	
		2 - 2				
中国語中級会話AⅠ	馬 鳳如	1学期	2	1	15	
		2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級会話AII 葉 言材	2学期	2	1	16
		2 - 1			
	中国語中級会話AII 馬 鳳如	2学期	2	1	17
		2 - 2			
	中国語中級会話AII 馬 鳳如	2学期	2	1	18
		2 - 3			
	中国語中級会話BI 王 曉芳	1学期	2	1	19
		2 - 1			
	中国語中級会話BI 王 曉芳	1学期	2	1	20
		2 - 2			
	中国語中級会話BI 王 曉芳	1学期	2	1	21
		2 - 3			
	中国語中級会話BII 王 曉芳	2学期	2	1	22
		2 - 1			
	中国語中級会話BII 王 曉芳	2学期	2	1	23
		2 - 2			
	中国語中級会話BII 王 曉芳	2学期	2	1	24
		2 - 3			
	中国語講読I 板谷 俊生	1学期	2	2	25
		2 - 1			
中国語講読I 板谷 俊生	1学期	2	2	26	
	2 - 2				
中国語講読I 板谷 俊生	1学期	2	2	27	
	2 - 3				
中国語講読II 板谷 俊生	2学期	2	2	28	
	2 - 1				
中国語講読II 板谷 俊生	2学期	2	2	29	
	2 - 2				
中国語講読II 板谷 俊生	2学期	2	2	30	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級作文I 陳 振華	1学期	2	2	31
		2 - 1			
	中国語中級作文I 陳 振華	1学期	2	2	32
		2 - 2			
	中国語中級作文I 陳 振華	1学期	2	2	33
		2 - 3			
	中国語中級作文II 陳 振華	2学期	2	2	34
		2 - 1			
	中国語中級作文II 陳 振華	2学期	2	2	35
		2 - 2			
	中国語中級作文II 陳 振華	2学期	2	2	36
		2 - 3			
	中国語上級会話A I 宋 健華	1学期	3	2	37
		3 - 1			
	中国語上級会話A I 宋 健華	1学期	3	2	38
		3 - 2			
	中国語上級会話A II 宋 健華	2学期	3	2	39
		3 - 1			
	中国語上級会話A II 宋 健華	2学期	3	2	40
		3 - 2			
中国語上級作文I 大連交換教員	1学期	3	2	41	
	3 - 1				
中国語上級作文I 大連交換教員	1学期	3	2	42	
	3 - 2				
中国語上級作文II 大連交換教員	2学期	3	2	43	
	3 - 1				
中国語上級作文II 大連交換教員	2学期	3	2	44	
	3 - 2				
中国語リスニングI 馬 叢慧	1学期	2	1	45	
	2 - 1				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語リスニングI	馬 叢慧	1学期	2	1	46
				2 - 2		
	中国語リスニングI	馬 叢慧	1学期	2	1	47
				2 - 3		
	中国語リスニングII	馬 叢慧	2学期	2	1	48
				2 - 1		
	中国語リスニングII	馬 叢慧	2学期	2	1	49
				2 - 2		
	中国語リスニングII	馬 叢慧	2学期	2	1	50
				2 - 3		
	中国語リスニングIII	王 雲燕	1学期	3	1	51
				3 - 1		
中国語リスニングIII	王 雲燕	1学期	3	1	52	
			3 - 2			
中国語リスニングIV	王 雲燕	2学期	3	1	53	
			3 - 1			
中国語リスニングIV	王 雲燕	2学期	3	1	54	
			3 - 2			
■演習科目	研究演習 1 A	板谷 俊生	1学期	3	2	55
				3年		
	研究演習 2 A	金縄 初美	1学期	3	2	56
				3年		
	研究演習 3 A	佐藤 昭	1学期	3	2	
				3年		
	研究演習 4 A	白石 麻保	1学期	3	2	57
			3年			
研究演習 5 A	中野 将	1学期	3	2		
			3年			
研究演習 6 A	西 香織	2学期	3	2	58	
			3年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 7 A	1学期	3	2	59
	堀地 明	3年			
	研究演習 8 A	1学期	3	2	60
	山本 進	3年			
	研究演習 9 A	1学期	3	2	61
	葉 言材	3年			
	研究演習 1 B	2学期	3	2	62
	板谷 俊生	3年			
	研究演習 2 B	2学期	3	2	63
	金縄 初美	3年			
	研究演習 3 B	2学期	3	2	
	佐藤 昭	3年			
	研究演習 4 B	2学期	3	2	64
	白石 麻保	3年			
	研究演習 5 B	2学期	3	2	
	中野 将	3年			
	研究演習 6 B	2学期	3	2	65
	西 香織	3年			
研究演習 7 B	2学期	3	2	66	
堀地 明	3年				
研究演習 8 B	2学期	3	2	67	
山本 進	3年				
研究演習 9 B	2学期	3	2	68	
葉 言材	3年				
卒業研究演習 1 A	1学期	4	2	69	
板谷 俊生	4年				
卒業研究演習 2 A	1学期	4	2	70	
金縄 初美	4年				
卒業研究演習 3 A	1学期	4	2	71	
佐藤 昭	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習 4 A 白石 麻保	1学期	4	2	72
		4年			
	卒業研究演習 5 A 中野 将	1学期	4	2	
		4年			
	卒業研究演習 7 A 堀地 明	1学期	4	2	73
		4年			
	卒業研究演習 8 A 山本 進	1学期	4	2	74
		4年			
	卒業研究演習 9 A 葉 言材	1学期	4	2	75
		4年			
	卒業研究演習 1 B 板谷 俊生	2学期	4	2	76
		4年			
	卒業研究演習 2 B 金縄 初美	2学期	4	2	77
		4年			
	卒業研究演習 3 B 佐藤 昭	2学期	4	2	78
		4年			
	卒業研究演習 4 B 白石 麻保	2学期	4	2	79
		4年			
卒業研究演習 5 B 中野 将	2学期	4	2		
	4年				
卒業研究演習 7 B 堀地 明	2学期	4	2	80	
	4年				
卒業研究演習 8 B 山本 進	2学期	4	2	81	
	4年				
卒業研究演習 9 B 葉 言材	2学期	4	2	82	
	4年				
■選択科目 ■専門科目	時事中国語講読I 白石 麻保	1学期	2	2	83
		2年			
	時事中国語講読II 白石 麻保	2学期	2	2	84
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国の政治外交I 下野 寿子	1学期	2	2	85
		2年			
	中国の政治外交II 下野 寿子	2学期	2	2	86
		2年			
	中国文化論 板谷 秀子	2学期	2	2	87
		2年			
	日中文化比較 板谷 秀子	1学期	2	2	88
		2年			
	比較中国思想 連 清吉	集中	2	2	89
		2年			
	中国社会経済史I 山本 進	1学期	2	2	90
		2年			
	中国社会経済史II 山本 進	2学期	2	2	91
		2年			
	中国経済論I 白石 麻保	1学期	2	2	92
		2年			
	中国経済論II 白石 麻保	2学期	2	2	93
		2年			
	文学作品講読A 渡辺 茂彦	1学期	3	2	94
		3年			
文学作品講読B 渡辺 茂彦	2学期	3	2	95	
	3年				
中国歴史社会研究I 山本 進	1学期	3	2	96	
	3年				
中国歴史社会研究II 山本 進	2学期	3	2	97	
	3年				
ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	98	
	3年				
ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	99	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国の社会 堀地 明	1学期	3	2	100
		3年			
	東アジア経済論 尹 明憲	2学期	3	2	101
		3年			
	卒業論文 未定		4	8	102
		4年			
■関連科目	地域研究入門(朝鮮半島) 総田 芳憲	2学期	2	2	103
		2年			
	地域研究入門(東南アジア) 篠崎 香織	2学期	2	2	104
		2年			
	英米文化概論I 久木 尚志	1学期	2	2	105
		2年			
	英米文化概論II 中野 博文	2学期	2	2	106
		2年			
	国際関係論I 小尾 美千代	1学期	3	2	107
		3年			
	国際関係論II 藤井 大輔	2学期	3	2	108
		3年			
	アメリカの政治III 田宮 晴彦	1学期	3	2	109
		3年			
	アメリカの政治IV 田宮 晴彦	2学期	3	2	110
		3年			
	東アジア地域秩序論I 金 鳳珍	1学期	3	2	111
		3年			
東アジア地域秩序論II 金 鳳珍	2学期	3	2	112	
	3年				
国際経済論I 魏 芳	1学期	3	2	113	
	3年				
国際経済論II 魏 芳	2学期	3	2	114	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	アジア地域統合論	2学期	3	2	115
	篠崎 香織	3年			
	韓国・北朝鮮の政治外交I	1学期	3	2	116
	総田 芳憲	3年			
	韓国・北朝鮮の政治外交II	2学期	3	2	117
	総田 芳憲	3年			
	国際法I	1学期	3	2	118
	二宮 正人	3年			
	国際法II	2学期	3	2	119
	二宮 正人	3年			
	世界経済論I	2学期	3	2	120
	尹 明憲	3年			
	世界経済論II	2学期	3	2	121
	尹 明憲	3年			
	途上国開発論	1学期	4	2	122
	三宅 博之	4年			
アメリカ経済	2学期	4	2	123	
山崎 好裕	4年				
アメリカの社会I	1学期	4	2	124	
藤永 康政	4年				
アメリカの社会II	2学期	4	2	125	
藤永 康政	4年				
国際貿易論I	1学期	4	2	126	
水戸 康夫	4年				
国際貿易論II	2学期	4	2	127	
水戸 康夫	4年				
■基礎教育科目	地域研究入門 (中国)	1学期	1	2	128
	下野 寿子	1年			
	中国近現代史I	1学期	1	2	129
	堀地 明	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■基礎教育科目	中国近現代史II 堀地 明	2学期	1	2	130
		1年			
	中国語学概論I 一木 達彦	1学期	1	2	131
		1年			
	中国語学概論II 一木 達彦	2学期	1	2	132
		1年			
中国語音声学I 佐藤 昭	1学期	1	2	133	
	1年				
中国語音声学II 佐藤 昭	2学期	1	2	134	
	1年				
■自由選択科目	異文化研究A 未定		1	2	135
		1年			
	異文化研究B 未定		1	2	136
		1年			
異文化演習A 未定		1	2	137	
	1年				
異文化演習B 未定		1	2	138	
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	139
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	140
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	141
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	142
		2年			
発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	143	
	1年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	144	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■教職に関する科目 ■必修科目	教育制度	1学期	2	2	145
	見玉 弥生	2年			
	中国語科教育法I	1学期	2	2	146
	小川 郁夫	2年			
	中国語科教育法II	2学期	2	2	147
	小川 郁夫	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	148
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	149
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	150
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	151
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	152
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	153
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	154
	大塚 一徳	2年			
教育工学	2学期	2	2	155	
大塚 一徳	2年				
教職総合演習	2学期	3	2	156	
楠 凡之 他	3年				
教育実習 1	2学期	3	2	157	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	158	
見玉 弥生 他	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	159	
見玉 弥生 他	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	160
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	161
		2年			
■選択科目	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	162
		2年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	163
		1年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	164
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	2	2	165
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	166
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	167
		2年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	168
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	169
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	170
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	171
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	172
		1年			
教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	173	
	1年				
可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	174	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	175
		2年			
	文化と政治 重信 幸彦	2学期	2	2	176
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	177
		2年			
	共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	178
		2年			
	戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	179
		2年			
	生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	180
		1年			
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	181	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	182
		1年			
	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	183
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	184
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	185
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	186
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	187
		1年			
フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	188	
	1年				
フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	189	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	190	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	191	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	192	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	193	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	194	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	195	
		1年				
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	196	
		1年				
	自己管理論		2学期	1	2	197
			1年			
	キャリア・デザイン 真鍋 和博		1学期	1	2	198
			1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆		1学期	1	2	199
			1年			
キャリア・デザイン 真鍋 和博		1学期	1	2	200	
		1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆		1学期	1	2	201	
		1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博		2学期	1	2	202	
		1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博		2学期	1	2	203	
		1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博		2学期	1	2	204	
		1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	205
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	206
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	207
		2年			
	大学論・学問論 小野 憲昭 他	1学期	1	2	208
		1年			
	法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	209
		1年			
	社会調査 稲月 正	2学期	1	2	210
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	211
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	212
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	213
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	214
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	215	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	216	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	217	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	218	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	219	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズⅠ(バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	220
		1年			
	フィジカル・エクササイズⅡ(バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	221
		1年			
	フィジカル・エクササイズⅡ(バドミントン) 原田 守治	2学期	1	1	222
		1年			
	フィジカル・エクササイズⅡ(バスケットボール) 原田 守治	2学期	1	1	223
		1年			
	フィジカル・エクササイズⅡ(バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	224
		1年			
	フィジカル・エクササイズⅡ(バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	225
		1年			
フィジカル・エクササイズⅡ(サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	226	
	1年				
フィジカル・エクササイズⅡ(バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	227	
	1年				
フィジカル・エクササイズⅡ(サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	228	
	1年				
フィジカル・エクササイズⅡ(女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	229	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習Ⅰ 日高 京子	1学期	1	2	230
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 小林 道彦	1学期	1	2	231
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 重信 幸彦	1学期	1	2	232
		1年			
教養基礎演習Ⅰ 徳永 政夫	1学期	1	2	233	
	1年				
教養基礎演習Ⅰ 稲月 正	1学期	1	2	234	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	235
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	236
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	237
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	238
	二宮 正人	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	239
	高西 敏正	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	240
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	241
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	242
	重信 幸彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	243
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	244
	稲月 正	1年			
教養基礎演習II	2学期	1	2	245	
小野 憲昭	1年				
教養基礎演習II	1学期	1	2	246	
戸蒔 仁司	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	247	
伊原木 大祐	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	248	
二宮 正人	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	249	
高西 敏正	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 日高 京子	1学期	2	2	250
		2年			
	教養演習 A I 小林 道彦	1学期	2	2	251
		2年			
	教養演習 A I 重信 幸彦	1学期	2	2	252
		2年			
	教養演習 A I 戸蒔 仁司	1学期	2	2	253
		2年			
	教養演習 A I 稲月 正	1学期	2	2	254
		2年			
	教養演習 A I 伊原木 大祐	1学期	2	2	255
		2年			
	教養演習 A II 日高 京子	2学期	2	2	256
		2年			
	教養演習 A II 小林 道彦	2学期	2	2	257
		2年			
教養演習 A II 重信 幸彦	2学期	2	2	258	
	2年				
教養演習 A II 戸蒔 仁司	1学期	2	2	259	
	2年				
教養演習 A II 稲月 正	2学期	2	2	260	
	2年				
教養演習 A II 伊原木 大祐	2学期	2	2	261	
	2年				
教養演習 B I 日高 京子	1学期	3	2	262	
	3年				
教養演習 B I 小野 憲昭	1学期	3	2	263	
	3年				
教養演習 B I 小林 道彦	1学期	3	2	264	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	265
	重信 幸彦	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	266
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	267
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	268
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	269
	日高 京子	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	270
	小野 憲昭	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	271
	小林 道彦	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	272
	重信 幸彦	3年			
	教養演習BⅡ	1学期	3	2	273
	戸蒔 仁司	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2	274	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	275	
伊原木 大祐	3年				
プロジェクト演習Ⅰ	2学期	2	2	276	
見館 好隆	2年				
プロジェクト演習Ⅱ	1学期	3	2	277	
見館 好隆	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1	2	278
	竹川 大介 他	1年			
	動物のみかた	2学期	1	2	279
	竹川 大介	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	280
		1年			
	自然史へのいざない 重信 幸彦 他	2学期	1	2	281
		1年			
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	282
		1年			
	現代人のこころ 小松 佐穂子	1学期	1	2	283
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	284
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	285
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	286
		1年			
	ものがたりと人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	287
		1年			
文化と表象 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	288	
	1年				
言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	289	
	1年				
芸術と人間 波瀾 剛	1学期	1	2	290	
	1年				
文学を読む 岩本 真理子 他	1学期	1	2	291	
	1年				
戦争と人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	292	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	293	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	294	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	295
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	296
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	297
		1年			
	共生の作法 山本 光英 他	2学期	1	2	298
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	299
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	300
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	301
		1年			
	つながりの人間学 児玉 弥生 他	2学期	1	2	302
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	303
		1年			
	現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	304
	1年				
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	305	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	306	
	1年				
国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	307	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	308	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	309	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	310
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	311
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	312
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	313
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	314
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	315
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	316
		1年			
	都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	317
		1年			
	ものと人間の歴史 重信 幸彦 他	1学期	1	2	318
		1年			
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	319	
	1年				
教養特講I 伊藤 解子	2学期	1	2	320	
	1年				
教養特講II 中道 壽一 他	2学期	1	2	321	
	1年				
教養特講III 山崎 勇治	2学期	1	2	322	
	1年				
教養特講IV 日高 京子	2学期	1	2	323	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	324
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	西洋史 晴谷 憲洋	1学期	1	2	325
		1年			
	東洋史 内田 直文	2学期	1	2	326
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	327
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	328
		1年			
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	329	
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	330	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	331	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	332	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	333
		1年			
	データ処理 棚次 奎介	1学期	1	2	334
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	335
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	336
		2年			
情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	337	
	2年				
情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	338	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	339	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	340
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語1 (総合) 浅野 雅樹	1学期	1	1	341
		1 - 1			
	中国語1 (総合) 浅野 雅樹	1学期	1	1	342
		1 - 2			
	中国語1 (総合) 浅野 雅樹	1学期	1	1	343
		1 - 3			
	中国語2 (総合) 浅野 雅樹	2学期	1	1	344
		1 - 1			
	中国語2 (総合) 浅野 雅樹	2学期	1	1	345
		1 - 2			
	中国語2 (総合) 浅野 雅樹	2学期	1	1	346
		1 - 3			
	中国語3 (音声中心) 平田 直子	1学期	1	1	347
		1 - 1			
	中国語3 (音声中心) 平田 直子	1学期	1	1	348
		1 - 2			
	中国語3 (音声中心) 平田 直子	1学期	1	1	349
		1 - 3			
	中国語4 (音声中心) 平田 直子	2学期	1	1	350
		1 - 1			
中国語4 (音声中心) 平田 直子	2学期	1	1	351	
	1 - 2				
中国語4 (音声中心) 平田 直子	2学期	1	1	352	
	1 - 3				
中国語5 (文法中心) 金縄 初美	1学期	1	1	353	
	1 - 1				
中国語5 (文法中心) 金縄 初美	1学期	1	1	354	
	1 - 2				

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語5 (文法中心)	1学期	1	1	355
	金縄 初美	1 - 3			
	中国語6 (文法中心)	2学期	1	1	356
	金縄 初美	1 - 1			
	中国語6 (文法中心)	2学期	1	1	357
	金縄 初美	1 - 2			
	中国語6 (文法中心)	2学期	1	1	358
	金縄 初美	1 - 3			
	中国語7 (総合)	1学期	2	1	359
	金縄 初美	2 - 1			
	中国語7 (総合)	1学期	2	1	360
	一木 達彦	2 - 2			
中国語7 (総合)	1学期	2	1	361	
一木 達彦	2 - 3				
中国語8 (総合)	2学期	2	1	362	
西 香織	2 - 1				
中国語8 (総合)	2学期	2	1	363	
西 香織	2 - 2				
中国語8 (総合)	2学期	2	1	364	
西 香織	2 - 3				
■第二外国語	英語I	1学期	1	1	365
	下條 かおり	中 1 - A			
	英語I	1学期	1	1	366
	酒井 秀子	中 1 - B			
	英語II	2学期	1	1	367
	安丸 雅子	中 1 - A			
英語II	2学期	1	1	368	
酒井 秀子	中 1 - B				
英語III	1学期	1	1	369	
ダニー・ミン	中 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語III トリスタン・ファー・ショールズ	1学期	1	1	370
		中 1 - B			
	英語IV ダニー・ミン	2学期	1	1	371
		中 1 - A			
	英語IV トリスタン・ファー・ショールズ	2学期	1	1	372
		中 1 - B			
	英語V 渡邊 嘉則	1学期	2	1	373
		中 2 - A			
	英語V 木梨 安子	1学期	2	1	374
		中 2 - B			
	英語VI 渡邊 嘉則	2学期	2	1	375
		中 2 - A			
	英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	376
		中 2 - B			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	377
		中 2 - A			
英語VII ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	378	
	中 2 - B				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	379	
	中 2 - A				
英語VIII ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	380	
	中 2 - B				
英語IX 永末 康介	1学期	3	1	381	
	英中国 3 年				
英語X 葛西 宏信	2学期	3	1	382	
	英中国 3 年				
英語XI ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	383	
	英中国 3 年				
英語XII Stephanie A.Houghton	2学期	3	1	384	
	英中国 3 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I 金 貞愛	1学期	1	1	385
		中 1 年			
	朝鮮語II 金 貞愛	2学期	1	1	386
		中 1 年			
	朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	387
		中 1 年			
	朝鮮語IV 金 貞淑	2学期	1	1	388
		中 1 年			
	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	389
		中 2 年			
	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	390
		中 2 年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	391
		中 2 年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	392
		中 2 年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	393
		英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	394
		英中国済営比人 3 年			
上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	395	
	英中国済営比人 3 年				
上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	396	
	英中国済営比人 3 年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	397	
	中国 1 年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	398	
	中国 1 年				
ロシア語III ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	399	
	中国 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	400
		中国 1年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	401
		中国 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	402
		中国 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーフ	1学期	2	1	403
		中国 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	404
		中国 2年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	405
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	406
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	407
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	408
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	409
		中国 2年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	410	
	中国 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	411	
	中国 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	412	
	中国 2年				
フランス語Ⅰ 坂田 由紀	1学期	1	1	413	
	中国 1年				
フランス語Ⅱ 坂田 由紀	2学期	1	1	414	
	中国 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語Ⅲ	1学期	1	1	415
	山下 広一	中国 1年			
	フランス語Ⅳ	2学期	1	1	416
	山下 広一	中国 1年			
	フランス語Ⅴ	1学期	2	1	417
	中川 裕二	中国 2年			
	フランス語Ⅵ	2学期	2	1	418
	中川 裕二	中国 2年			
	フランス語Ⅶ	1学期	2	1	419
	山下 高之	中国 2年			
	フランス語Ⅷ	2学期	2	1	420
	山下 高之	中国 2年			
	スペイン語Ⅰ	1学期	1	1	421
	青木 文夫	中国 1年			
	スペイン語Ⅱ	2学期	1	1	422
	青木 文夫	中国 1年			
	スペイン語Ⅲ	1学期	1	1	423
	辻 博子	中国 1年			
スペイン語Ⅳ	2学期	1	1	424	
辻 博子	中国 1年				
スペイン語Ⅴ	1学期	2	1	425	
辻 光博	中国 2年				
スペイン語Ⅵ	2学期	2	1	426	
辻 光博	中国 2年				
スペイン語Ⅶ	1学期	2	1	427	
辻 博子	中国 2年				
スペイン語Ⅷ	2学期	2	1	428	
辻 博子	中国 2年				
■留学生特別科目	日本語 A	1学期 (ペア)	1	2	429
	小林 浩明	留学生 1年			

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	430
		留学生 1年			
	日本語 B 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	431
		留学生 1年			
	日本語 C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	432
		留学生 1年			
	日本語 D 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	433
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1学期	1	2	434
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) B 山崎 勇治	2学期	1	2	435
		留学生 1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話A I	1学期	1	1	436
	林 秀娟	1年夜間主			
	中国語初級会話A II	2学期	1	1	437
	林 秀娟	1年夜間主			
	中国語初級会話B I	1学期	1	1	438
	馬 叢慧	1年夜間主			
	中国語初級会話B II	2学期	1	1	439
	馬 叢慧	1年夜間主			
	中国語中級会話A I	1学期	2	1	440
	王 雲燕	2年夜間主			
	中国語中級会話A II	2学期	2	1	441
	王 雲燕	2年夜間主			
	中国語中級会話B I	1学期	2	1	442
	馮 雅蓮	2年夜間主			
	中国語中級会話B II	2学期	2	1	443
	馮 雅蓮	2年夜間主			
	中国語中級作文I	1学期	2	2	444
	陳 振華	2年夜間主			
中国語中級作文II	2学期	2	2	445	
陳 振華	2年夜間主				
中国語上級会話A I	1学期	3	2	446	
宋 健華	3年夜間主				
中国語上級会話A II	2学期	3	2	447	
宋 健華	3年夜間主				
中国語上級作文I	1学期	3	2	448	
大連交換教員	3年夜間主				
中国語上級作文II	2学期	3	2	449	
大連交換教員	3年夜間主				
■演習科目	研究演習 5 A	1学期	3	2	
	中野 将	3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 7 A 堀地 明	1学期	3	2	450
		3年			
	研究演習 5 B 中野 将	2学期	3	2	
		3年			
	研究演習 7 B 堀地 明	2学期	3	2	451
		3年			
	卒業研究演習 3 A 佐藤 昭	1学期	4	2	452
		4年			
	卒業研究演習 5 A 中野 将	1学期	4	2	
		4年			
	卒業研究演習 7 A 堀地 明	1学期	4	2	453
		4年			
	卒業研究演習 3 B 佐藤 昭	2学期	4	2	454
		4年			
卒業研究演習 7 B 堀地 明	2学期	4	2	455	
	4年				
■選択科目 ■専門科目	中国文学史I 中尾 健一郎	1学期	2	2	456
		2年			
	中国文学史II 中尾 健一郎	2学期	2	2	457
		2年			
	中国の政治外交I 下野 寿子	1学期	2	2	458
		2年			
	中国の政治外交II 下野 寿子	2学期	2	2	459
		2年			
	中国経済論I 白石 麻保	1学期	2	2	460
		2年			
中国経済論II 白石 麻保	2学期	2	2	461	
	2年				
漢文学 植崎 洋一郎	1学期	2	2	462	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	文学作品講読A 渡辺 茂彦	1学期	3	2	463
	3年				
	文学作品講読B 渡辺 茂彦	2学期	3	2	464
	3年				
	ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	465
	3年				
ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	466	
3年					
卒業論文 未定			4	8	467
4年					
■関連科目	地域研究入門(東南アジア) 篠崎 香織	2学期	2	2	468
	2年				
	国際経済論I 魏 芳	1学期	3	2	469
	3年				
	国際経済論II 魏 芳	2学期	3	2	470
	3年				
	韓国・北朝鮮の政治外交I 総田 芳憲	1学期	3	2	471
	3年				
	韓国・北朝鮮の政治外交II 総田 芳憲	2学期	3	2	472
	3年				
	国際法I 中川 智治	1学期	3	2	473
	3年				
	国際法II 中川 智治	2学期	2	2	474
	2年				
国際貿易論I 立石 揚志	1学期	4	2	475	
4年					
国際貿易論II 立石 揚志	2学期	4	2	476	
4年					
■基礎教育科目	中国語学概論I 一木 達彦	1学期	1	2	477
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■基礎教育科目	中国語学概論II 一木 達彦	2学期	1	2	478
		1年			
■自由選択科目	異文化研究A 未定		1	2	479
		1年			
	異文化研究B 未定		1	2	480
		1年			
	異文化演習A 未定		1	2	481
		1年			
	異文化演習B 未定		1	2	482
		1年			
■教職に関する科目	中国語科教育法III 小川 郁夫	1学期	2	2	483
		2年			
	中国語科教育法IV 小川 郁夫	2学期	2	2	484
		2年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	485
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	486
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	487
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	488
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	489
		2年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	490
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	491
		3年			
教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	492	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	道徳教育の研究	1学期	2	2	493
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	494
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	495
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	496
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	497
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	498
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	499
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	500
	大塚 一徳	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	501
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	502
	黒田 耕司	3年			
教育実習 1	2学期	3	2	503	
黒田 耕司	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	504	
見玉 弥生	4年				
教育実習 2	1学期	4	2	505	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	506	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	507	
見玉 弥生	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	508
		2年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	509
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	510
		2年			
■選択科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	511
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	512
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	513
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	514
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	515
		2年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	516
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	517
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	518
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	519
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	520
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	521
		1年			
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	522	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	523
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	524
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	525
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	526
		1年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 日高 京子	1学期	1	2	527
		1年			
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	528
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭	1学期	1	2	529
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	530
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	531
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	532
		1年			
	現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	533
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	534
	1年				
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	535	
	1年				
国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	536	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	537	
	1年				

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	538	
	1年					
	都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	539	
	1年					
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	540	
	1年					
	■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	541
		1年				
		西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	542
1年						
東洋史 内田 直文		2学期	1	2	543	
1年						
社会学 稲月 正		1学期	1	2	544	
1年						
人文地理学 吉津 直樹		2学期	1	2	545	
1年						
土地地理学 野井 英明		1学期	1	2	546	
1年						
地誌学 吉津 直樹		1学期	1	2	547	
1年						
倫理学 伊原木 大祐		2学期	1	2	548	
1年						
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	549	
	1年					
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	550	
1年						
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語1 (総合) 未定	1学期	1	1		
	1年夜間主					
	中国語2 (総合) 未定	2学期	1	1		
	1年夜間主					

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語3 (音声中心)	1学期	1	1		
	未定	1年夜間主				
	中国語4 (音声中心)	2学期	1	1		
	未定	1年夜間主				
	中国語5 (文法中心)	1学期	1	1		
	未定	1年夜間主				
	中国語6 (文法中心)	2学期	1	1		
	未定	1年夜間主				
	中国語7 (総合)	西 香織	2学期	2	1	551
			2年夜間主			
	中国語8 (総合)	西 香織	2学期	2	1	552
			2年夜間主			
■第二外国語	英語I	伊藤 晃	1学期	1	1	553
			中夜 1年			
	英語II	杉山 智子	2学期	1	1	554
			中夜 1年			
	英語III	アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	555
			中夜 1年			
	英語IV	アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	556
			中夜 1年			
	英語V	漆原 朗子	1学期	2	1	557
			中夜 2年			
	英語VI	漆原 朗子	2学期	2	1	558
			中夜 2年			
英語VII	クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	559	
		中夜 2年				
英語VIII	クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	560	
		中夜 2年				
朝鮮語I	チャン ユンヒャン	1学期	1	1	561	
		中夜 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語II	2学期	1	1	562
	チャン ユンヒャン	中夜 1年			
	朝鮮語III	1学期	1	1	563
	金 光子	中夜 1年			
	朝鮮語IV	2学期	1	1	564
	金 光子	中夜 1年			
	ロシア語I	1学期	1	1	565
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ロシア語II	2学期	1	1	566
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ロシア語III	1学期	1	1	567
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ロシア語IV	2学期	1	1	568
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ドイツ語I	1学期	1	1	569
	山下 哲雄	中国夜 1年			
	ドイツ語II	2学期	1	1	570
	山下 哲雄	中国夜 1年			
	ドイツ語III	1学期	1	1	571
	山下 哲雄	中国夜 1年			
ドイツ語IV	2学期	1	1	572	
山下 哲雄	中国夜 1年				
フランス語I	1学期	1	1	573	
山下 高之	中国夜 1年				
フランス語II	2学期	1	1	574	
山下 高之	中国夜 1年				
フランス語III	1学期	1	1	575	
水本 弘文	中国夜 1年				
フランス語IV	2学期	1	1	576	
水本 弘文	中国夜 1年				

外国語学部 中国学科 (2009年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I	1学期	1	1	577
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語II	2学期	1	1	578
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	579
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語IV	2学期	1	1	580
	岡住 正秀	中国夜 1年			

中国語初級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音練習 【中国と中国語について】【単母音、声調】
- 2回 発音練習 【子音、複合母音】
- 3回 発音練習 【鼻母音、声調の変化など】
- 4回 暗誦練習 【第1課～第3課の内容】
- 5回 会話練習 【自己紹介】
- 6回 会話練習 【私の家庭・両親】
- 7回 暗誦練習 【第4課～第5課の内容】
- 8回 会話練習 【友達】
- 9回 会話練習 【私の家】
- 10回 暗誦練習 【第6課～第7課の内容】
- 11回 会話練習 【通学】
- 12回 会話練習 【お茶とお酒】
- 13回 暗誦練習 【第8課の内容】
- 14回 会話練習 【休日】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音練習 【中国と中国語について】【単母音、声調】
- 2回 発音練習 【子音、複合母音】
- 3回 発音練習 【鼻母音、声調の変化など】
- 4回 暗誦練習 【第1課～第3課の内容】
- 5回 会話練習 【自己紹介】
- 6回 会話練習 【私の家庭・両親】
- 7回 暗誦練習 【第4課～第5課の内容】
- 8回 会話練習 【友達】
- 9回 会話練習 【私の家】
- 10回 暗誦練習 【第6課～第7課の内容】
- 11回 会話練習 【通学】
- 12回 会話練習 【お茶とお酒】
- 13回 暗誦練習 【第8課の内容】
- 14回 会話練習 【休日】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話AⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音練習 【中国と中国語について】【単母音、声調】
- 2回 発音練習 【子音、複合母音】
- 3回 発音練習 【鼻母音、声調の変化など】
- 4回 暗誦練習 【第1課～第3課の内容】
- 5回 会話練習 【自己紹介】
- 6回 会話練習 【私の家庭・両親】
- 7回 暗誦練習 【第4課～第5課の内容】
- 8回 会話練習 【友達】
- 9回 会話練習 【私の家】
- 10回 暗誦練習 【第6課～第7課の内容】
- 11回 会話練習 【通学】
- 12回 会話練習 【お茶とお酒】
- 13回 暗誦練習 【第8課の内容】
- 14回 会話練習 【休日】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 暗誦練習 【第9課～第10課の内容】
- 2回 会話練習 【電話をかけて休暇をとる】
- 3回 会話練習 【診察を受ける】
- 4回 暗誦練習 【第11課～第12課の内容】
- 5回 会話練習 【入院】
- 6回 会話練習 【旅行記】
- 7回 暗誦練習 【第13課～第14課の内容】
- 8回 会話練習 【意外なこと】
- 9回 会話練習 【テレビ番組】
- 10回 暗誦練習 【第15課～第16課の内容】
- 11回 会話練習 【書留郵便】
- 12回 会話練習 【月賦】
- 13回 暗誦練習 【第17課の内容】
- 14回 会話練習 【梅雨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 暗誦練習 【第9課～第10課の内容】
- 2回 会話練習 【電話をかけて休暇をとる】
- 3回 会話練習 【診察を受ける】
- 4回 暗誦練習 【第11課～第12課の内容】
- 5回 会話練習 【入院】
- 6回 会話練習 【旅行記】
- 7回 暗誦練習 【第13課～第14課の内容】
- 8回 会話練習 【意外なこと】
- 9回 会話練習 【テレビ番組】
- 10回 暗誦練習 【第15課～第16課の内容】
- 11回 会話練習 【書留郵便】
- 12回 会話練習 【月賦】
- 13回 暗誦練習 【第17課の内容】
- 14回 会話練習 【梅雨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 暗誦練習 【第9課～第10課の内容】
- 2回 会話練習 【電話をかけて休暇をとる】
- 3回 会話練習 【診察を受ける】
- 4回 暗誦練習 【第11課～第12課の内容】
- 5回 会話練習 【入院】
- 6回 会話練習 【旅行記】
- 7回 暗誦練習 【第13課～第14課の内容】
- 8回 会話練習 【意外なこと】
- 9回 会話練習 【テレビ番組】
- 10回 暗誦練習 【第15課～第16課の内容】
- 11回 会話練習 【書留郵便】
- 12回 会話練習 【月賦】
- 13回 暗誦練習 【第17課の内容】
- 14回 会話練習 【梅雨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編） 石川 泰成 等 （中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説【中国と中国語について】
- 第2回 発音【母音】
- 第3回 発音【子音】
- 第4回 発音【声調など】
- 第5回 発音の総合練習
- 第6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 第7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 第8回 総合練習
- 第9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 第10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 第11回 総合練習
- 第12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 第13回 第6課【過去の経験など】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編） 石川 泰成 等 中国書店（2010年3月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説【中国と中国語について】
- 第2回 発音【母音】
- 第3回 発音【子音】
- 第4回 発音【声調など】
- 第5回 発音の総合練習
- 第6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 第7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 第8回 総合練習
- 第9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 第10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 第11回 総合練習
- 第12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 第13回 第6課【過去の経験など】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編） 石川 泰成 等 （中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説【中国と中国語について】
- 第2回 発音【母音】
- 第3回 発音【子音】
- 第4回 発音【声調など】
- 第5回 発音の総合練習
- 第6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 第7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 第8回 総合練習
- 第9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 第10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 第11回 総合練習
- 第12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 第13回 第6課【過去の経験など】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編）石川 泰成 等（中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課 【完全否定と部分否定】
- 第2回 第8課 【助動詞、前置詞】
- 第3回 総合練習
- 第4回 第9課 【結果補語、存現文】
- 第5回 第10課 【方向補語、“把”構文、複文1】
- 第6回 総合練習
- 第7回 第11課 【様態補語、程度補語、複文2】
- 第8回 第12課 【比較の表現、複文3】
- 第9回 総合練習
- 第10回 第13課 【可能補語、使役表現】
- 第11回 第14課 【“被”構文、複文4】
- 第12回 総合練習
- 第13回 第15課、復習 【複文5】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編）石川 泰成 等 中国書店（2010年3月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課 【完全否定と部分否定】
- 第2回 第8課 【助動詞、前置詞】
- 第3回 総合練習
- 第4回 第9課 【結果補語、存現文】
- 第5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 第6回 総合練習
- 第7回 第11課 【様態補語、程度補語、複文2】
- 第8回 第12課 【比較の表現、複文3】
- 第9回 総合練習
- 第10回 第13課 【可能補語、使役表現】
- 第11回 第14課 【“被”構文、複文4】
- 第12回 総合練習
- 第13回 第15課、復習 【複文5】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編）石川 泰成 等（中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課 【完全否定と部分否定】
- 第2回 第8課 【助動詞、前置詞】
- 第3回 総合練習
- 第4回 第9課 【結果補語、存現文】
- 第5回 第10課 【方向補語、“把”構文、複文1】
- 第6回 総合練習
- 第7回 第11課 【様態補語、程度補語、複文2】
- 第8回 第12課 【比較の表現、複文3】
- 第9回 総合練習
- 第10回 第13課 【可能補語、使役表現】
- 第11回 第14課 【“被”構文、複文4】
- 第12回 総合練習
- 第13回 第15課、復習 【複文5】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第一課	長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
第2回	発表	
第3回	第二課	故宮【従】【如果】【動詞+着】
第4回	発表	
第5回	第三課	敦煌莫高窟【連～都】【終子】【為了】
第6回	発表	
第7回	第四課	秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
第8回	発表	
第9回	第五課	黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
第10回	第六課	九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
第11回	発表	
第12回	第七課	孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
第13回	第八課	ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 馬 鳳如 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第一課	長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
第2回	発表	
第3回	第二課	故宮【従】【如果】【動詞+着】
第4回	発表	
第5回	第三課	敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
第6回	発表	
第7回	第四課	秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
第8回	発表	
第9回	第五課	黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
第10回	第六課	九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
第11回	発表	
第12回	第七課	孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
第13回	第八課	ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 馬 鳳如 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第一課	長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
第2回	発表	
第3回	第二課	故宮【従】【如果】【動詞+着】
第4回	発表	
第5回	第三課	敦煌莫高窟【連～都】【終子】【為了】
第6回	発表	
第7回	第四課	秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
第8回	発表	
第9回	第五課	黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
第10回	第六課	九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
第11回	発表	
第12回	第七課	孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
第13回	第八課	ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 葉言材 / ye yancai / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成する為、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第九課	峨眉山と楽山大仏【相当于】【按照】
第2回	発表	
第3回	第十課	麗江【一~就...】【像~一樣】
第4回	発表	
第5回	第十一課	蘇州の古典的園林【正如】【和~一樣】【就是說】
第6回	発表	
第7回	第十二課	天壇公園【曾經】【即使】【属于】
第8回	発表	
第9回	第十三課	頤和園【使~】【通過】【怎麼】
第10回	発表	
第11回	第十四課	龍門石窟【值得】【对】
第12回	発表	
第13回	第十五課	雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 馬 鳳如 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成する為、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第九課	峨眉山と楽山大仏【相当于】【按照】
第2回	発表	
第3回	第十課	麗江【一~就...】【像~一樣】
第4回	発表	
第5回	第十一課	蘇州の古典的園林【正如】【和~一樣】【就是說】
第6回	発表	
第7回	第十二課	天壇公園【曾經】【即使】【属于】
第8回	発表	
第9回	第十三課	頤和園【使~】【通過】【怎麼】
第10回	発表	
第11回	第十四課	龍門石窟【值得】【对】
第12回	発表	
第13回	第十五課	雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 馬 鳳如 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成する為、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第九課	峨眉山と楽山大仏【相当于】【按照】
第2回	発表	
第3回	第十課	麗江【一~就...】【像~一樣】
第4回	発表	
第5回	第十一課	蘇州の古典的園林【正如】【和~一樣】【就是說】
第6回	発表	
第7回	第十二課	天壇公園【曾經】【即使】【属于】
第8回	発表	
第9回	第十三課	頤和園【使~】【通過】【怎麼】
第10回	発表	
第11回	第十四課	龍門石窟【值得】【对】
第12回	発表	
第13回	第十五課	雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明するといったより高度な内容の文章を用い、会話力の向上だけでなく、日中交流史などの知識も増やすことを目標とする。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 志賀島 - 金印 (福岡) 【金印】 【志賀島】 【国宝】
- 第2回 発表
- 第3回 第2章 太宰府 - 観世音戒壇院 (福岡) 【観世音寺】 【戒壇】 【鑑真】
- 第4回 発表
- 第5回 第3章 宗像 - 沖ノ島の唐三彩 【唐三彩】 【沖ノ島】 【門戸】
- 第6回 発表
- 第7回 第4章 福岡 - 年越し蕎麦と謝国明 【承天寺】 【謝国明】 【年越しそば】
- 第8回 発表
- 第9回 第5章 九州地方 - 栄西と脊振茶 【栄西】 【お茶】 【佐賀】
- 第10回 発表
- 第11回 第6章 金立町 - 徐福伝説の里 (佐賀) 【徐福】 【金立山】 【千布】
- 第12回 発表
- 第13回 第7章 佐賀 - 多久孔廟 【多久市】 【釈采】 【儒教】
- 第14回 発表
- 第15回 第8章 白杵 - 白杵石仏 (大分) 【白杵】 【石仏】 【宇佐八幡】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明するといったより高度な内容の文章を用い、会話力の向上だけでなく、日中交流史などの知識も増やすことを目標とする。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 志賀島 - 金印 (福岡) 【金印】 【志賀島】 【国宝】
- 第2回 発表
- 第3回 第2章 太宰府 - 観世音戒壇院 (福岡) 【観世音寺】 【戒壇】 【鑑真】
- 第4回 発表
- 第5回 第3章 宗像 - 沖ノ島の唐三彩 【唐三彩】 【沖ノ島】 【門戸】
- 第6回 発表
- 第7回 第4章 福岡 - 年越し蕎麦と謝国明 【承天寺】 【謝国明】 【年越しそば】
- 第8回 発表
- 第9回 第5章 九州地方 - 栄西と脊振茶 【栄西】 【お茶】 【佐賀】
- 第10回 発表
- 第11回 第6章 金立町 - 徐福伝説の里 (佐賀) 【徐福】 【金立山】 【千布】
- 第12回 発表
- 第13回 第7章 佐賀 - 多久孔廟 【多久市】 【釈采】 【儒教】
- 第14回 発表
- 第15回 第8章 白杵 - 白杵石仏 (大分) 【白杵】 【石仏】 【宇佐八幡】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明するといったより高度な内容の文章を用い、会話力の向上だけでなく、日中交流史などの知識も増やすことを目標とする。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 志賀島 - 金印 (福岡) 【金印】 【志賀島】 【国宝】
- 第2回 発表
- 第3回 第2章 太宰府 - 観世音戒壇院 (福岡) 【観世音寺】 【戒壇】 【鑑真】
- 第4回 発表
- 第5回 第3章 宗像 - 沖ノ島の唐三彩 【唐三彩】 【沖ノ島】 【門戸】
- 第6回 発表
- 第7回 第4章 福岡 - 年越し蕎麦と謝国明 【承天寺】 【謝国明】 【年越しそば】
- 第8回 発表
- 第9回 第5章 九州地方 - 栄西と脊振茶 【栄西】 【お茶】 【佐賀】
- 第10回 発表
- 第11回 第6章 金立町 - 徐福伝説の里 (佐賀) 【徐福】 【金立山】 【千布】
- 第12回 発表
- 第13回 第7章 佐賀 - 多久孔廟 【多久市】 【釈采】 【儒教】
- 第14回 発表
- 第15回 第8章 白杵 - 白杵石仏 (大分) 【白杵】 【石仏】 【宇佐八幡】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語会話能力と共に双方の歴史、文化に関する知識も高めることを目標としたい。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第9章 長崎 - 空海の足跡【円福寺】【空海】【香山】
- 第2回 発表
- 第3回 第10章 平戸 - 鄭成功誕生の地(長崎)【鄭成功】【平戸】【見誕生石】
- 第4回 発表
- 第5回 第11章 長崎 - 朱舜水と安東省庵【朱舜水】【安東省庵】【孔子像】
- 第6回 発表
- 第7回 第12章 長崎 - ペーロン競漕【ペーロン】【屈原】【長崎】
- 第8回 発表
- 第9回 第13章 長崎 - 新地と中華街【蔵島】【唐館】【新地倉庫】
- 第10回 発表
- 第11回 第14章 長崎 - 眼鏡橋【眼鏡橋】【藤原林七】【石橋】
- 第12回 発表
- 第13回 第15章 坊津 - 遣唐使の港(鹿児島)【唐の港】【入唐道】【遣唐使】
- 第14回 発表
- 第15回 16章 秋目 - 鑑真渡来の地(鹿児島)【鑑真渡来】【奈良】【律宗】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語会話能力と共に双方の歴史、文化に関する知識も高めることを目標としたい。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第9章 長崎 - 空海の足跡【円福寺】【空海】【香山】
- 第2回 発表
- 第3回 第10章 平戸 - 鄭成功誕生の地(長崎)【鄭成功】【平戸】【見誕生石】
- 第4回 発表
- 第5回 第11章 長崎 - 朱舜水と安東省庵【朱舜水】【安東省庵】【孔子像】
- 第6回 発表
- 第7回 第12章 長崎 - ペーロン競漕【ペーロン】【屈原】【長崎】
- 第8回 発表
- 第9回 第13章 長崎 - 新地と中華街【蔵島】【唐館】【新地倉庫】
- 第10回 発表
- 第11回 第14章 長崎 - 眼鏡橋【眼鏡橋】【藤原林七】【石橋】
- 第12回 発表
- 第13回 第15章 坊津 - 遣唐使の港(鹿児島)【唐の港】【入唐道】【遣唐使】
- 第14回 発表
- 第15回 16章 秋目 - 鑑真渡来の地(鹿児島)【鑑真渡来】【奈良】【律宗】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語会話能力と共に双方の歴史、文化に関する知識も高めることを目標としたい。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第9章 長崎 - 空海の足跡【円福寺】【空海】【香山】
- 第2回 発表
- 第3回 第10章 平戸 - 鄭成功誕生の地(長崎)【鄭成功】【平戸】【見誕生石】
- 第4回 発表
- 第5回 第11章 長崎 - 朱舜水と安東省庵【朱舜水】【安東省庵】【孔子像】
- 第6回 発表
- 第7回 第12章 長崎 - ペーロン競漕【ペーロン】【屈原】【長崎】
- 第8回 発表
- 第9回 第13章 長崎 - 新地と中華街【蔵島】【唐館】【新地倉庫】
- 第10回 発表
- 第11回 第14章 長崎 - 眼鏡橋【眼鏡橋】【藤原林七】【石橋】
- 第12回 発表
- 第13回 第15章 坊津 - 遣唐使の港(鹿児島)【唐の港】【入唐道】【遣唐使】
- 第14回 発表
- 第15回 16章 秋目 - 鑑真渡来の地(鹿児島)【鑑真渡来】【奈良】【律宗】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国文学史概論
- 2回 巴金『一件小事』（1）
- 3回 巴金『一件小事』（2）
- 4回 巴金『一件小事』（3）
- 5回 巴金『一件小事』（4）
- 6回 朱自清『背影』（1）
- 7回 朱自清『背影』（2）
- 8回 朱自清『背影』（3）
- 9回 魯迅『故郷』（1）
- 10回 魯迅『故郷』（2）
- 11回 魯迅『故郷』（3）
- 12回 魯迅『故郷』（4）
- 13回 魯迅『故郷』（5）
- 14回 魯迅『故郷』（6）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
（2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国文学史概論
- 2回 巴金『一件小事』（1）
- 3回 巴金『一件小事』（2）
- 4回 巴金『一件小事』（3）
- 5回 巴金『一件小事』（4）
- 6回 朱自清『背影』（1）
- 7回 朱自清『背影』（2）
- 8回 朱自清『背影』（3）
- 9回 魯迅『故郷』（1）
- 10回 魯迅『故郷』（2）
- 11回 魯迅『故郷』（3）
- 12回 魯迅『故郷』（4）
- 13回 魯迅『故郷』（5）
- 14回 魯迅『故郷』（6）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
（2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国文学史概論
- 2回 巴金『一件小事』（1）
- 3回 巴金『一件小事』（2）
- 4回 巴金『一件小事』（3）
- 5回 巴金『一件小事』（4）
- 6回 朱自清『背影』（1）
- 7回 朱自清『背影』（2）
- 8回 朱自清『背影』（3）
- 9回 魯迅『故郷』（1）
- 10回 魯迅『故郷』（2）
- 11回 魯迅『故郷』（3）
- 12回 魯迅『故郷』（4）
- 13回 魯迅『故郷』（5）
- 14回 魯迅『故郷』（6）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
（2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの演劇運動史を俯瞰し、代表的劇作家曹禺および彼の代表的戯曲『雷雨』を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国演劇・話劇運動史概論
- 2回 曹禺『雷雨』(1)
- 3回 曹禺『雷雨』(2)
- 4回 曹禺『雷雨』(3)
- 5回 曹禺『雷雨』(4)
- 6回 曹禺『雷雨』(5)
- 7回 曹禺『雷雨』(6)
- 8回 曹禺『雷雨』(7)
- 9回 曹禺『雷雨』(8)
- 10回 曹禺『雷雨』(9)
- 11回 曹禺『雷雨』(10)
- 12回 曹禺『雷雨』(11)
- 13回 曹禺『雷雨』(12)
- 14回 曹禺『雷雨』(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの演劇運動史を俯瞰し、代表的劇作家曹禺および彼の代表的戯曲『雷雨』を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国演劇・話劇運動史概論
- 2回 曹禺『雷雨』(1)
- 3回 曹禺『雷雨』(2)
- 4回 曹禺『雷雨』(3)
- 5回 曹禺『雷雨』(4)
- 6回 曹禺『雷雨』(5)
- 7回 曹禺『雷雨』(6)
- 8回 曹禺『雷雨』(7)
- 9回 曹禺『雷雨』(8)
- 10回 曹禺『雷雨』(9)
- 11回 曹禺『雷雨』(10)
- 12回 曹禺『雷雨』(11)
- 13回 曹禺『雷雨』(12)
- 14回 曹禺『雷雨』(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語講読II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの演劇運動史を俯瞰し、代表的劇作家曹禺および彼の代表的戯曲『雷雨』を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について説明する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国演劇・話劇運動史概論
- 2回 曹禺『雷雨』(1)
- 3回 曹禺『雷雨』(2)
- 4回 曹禺『雷雨』(3)
- 5回 曹禺『雷雨』(4)
- 6回 曹禺『雷雨』(5)
- 7回 曹禺『雷雨』(6)
- 8回 曹禺『雷雨』(7)
- 9回 曹禺『雷雨』(8)
- 10回 曹禺『雷雨』(9)
- 11回 曹禺『雷雨』(10)
- 12回 曹禺『雷雨』(11)
- 13回 曹禺『雷雨』(12)
- 14回 曹禺『雷雨』(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(2/3以上の出席がなければ期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。毎回小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の補語を習得する。

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第3課 你們打掃得真干淨 【程度補語1】
- 2回 第4課 太陽晒得我直出汗 【程度補語2】
- 3回 第5課 姐姐打完電話了 【結果補語1】
- 4回 第6課 我要早日学好漢語 【結果補語2】
- 5回 第7課 体操代表隊回来了 【簡單方向補語】
- 6回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 7回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 8回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 9回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 10回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 11回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 12回 第11課 我拿得了這個皮箱 【可能補語2】
- 13回 第12課 母親去旅游了一个月 【時量補語】
- 14回 第13課 這篇文章難了一点兒,我得多看兩遍 【數量補語】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度、期末試験で総合的に評価します（平常の学習状況：40% 期末試験：60%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の補語を習得する。

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第3課 你們打掃得真干淨 【程度補語1】
- 2回 第4課 太陽晒得我直出汗 【程度補語2】
- 3回 第5課 姐姐打完電話了 【結果補語1】
- 4回 第6課 我要早日学好漢語 【結果補語2】
- 5回 第7課 体操代表隊回来了 【簡單方向補語】
- 6回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 7回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 8回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 9回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 10回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 11回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 12回 第11課 我拿得了這個皮箱 【可能補語2】
- 13回 第12課 母親去旅游了一个月 【時量補語】
- 14回 第13課 這篇文章難了一点兒,我得多看兩遍 【數量補語】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度、期末試験で総合的に評価します（平常の学習状況：40% 期末試験：60%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の補語を習得する。

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第3課 你們打掃得真干淨 【程度補語1】
- 2回 第4課 太陽晒得我直出汗 【程度補語2】
- 3回 第5課 姐姐打完電話了 【結果補語1】
- 4回 第6課 我要早日学好漢語 【結果補語2】
- 5回 第7課 体操代表隊回来了 【簡單方向補語】
- 6回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 7回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 8回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 9回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 10回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 11回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 12回 第11課 我拿得了這個皮箱 【可能補語2】
- 13回 第12課 母親去旅游了一个月 【時量補語】
- 14回 第13課 這篇文章難了一点兒,我得多看兩遍 【數量補語】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度、期末試験で総合的に評価します（平常の学習状況：40% 期末試験：60%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の兼語文、存現文、受身文、「把」の構文など文法、文型を習得する

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第14課	我去問問	【連動文】
2回 第15課	他們請我欣賞古典音樂	【兼語文】
3回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
4回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
5回 第17課	哥哥把那輛旧車賣了	【“把”を用いる文1】
6回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
7回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
8回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
9回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
10回 第20課	觀眾被精彩的表演吸引住了	【“被”を用いる文】
11回 第22課	猪肉比牛肉便宜	【“比”を用いた比較文】
12回 第23課	今年的雨水没有去年那么多	【“有/没有”を用いた比較文】
13回 第1課	她送我一束花	【二重目的語】
14回 第2課	參觀菊花展覽的人真多	【動賓構造・主述構造】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席： 20% 平常点： 20% 期末試験： 60%
出席、平常点、学習態度、期末試験で総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の兼語文、存現文、受身文、「把」の構文など文法、文型を習得する

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第14課	我去問問	【連動文】
2回 第15課	他們請我欣賞古典音樂	【兼語文】
3回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
4回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
5回 第17課	哥哥把那輛旧車賣了	【“把”を用いる文1】
6回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
7回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
8回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
9回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
10回 第20課	觀眾被精彩的表演吸引住了	【“被”を用いる文】
11回 第22課	猪肉比牛肉便宜	【“比”を用いた比較文】
12回 第23課	今年的雨水没有去年那么多	【“有/没有”を用いた比較文】
13回 第1課	她送我一束花	【二重目的語】
14回 第2課	參觀菊花展覽的人真多	【動賓構造・主述構造】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席： 20% 平常点： 20% 期末試験： 60%
出席、平常点、学習態度、期末試験で総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の兼語文、存現文、受身文、「把」の構文など文法、文型を習得する

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第14課 我去問問	【連動文】
2回 第15課 他們請我欣賞古典音樂	【兼語文】
3回 第16課 牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
4回 第16課 牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
5回 第17課 哥哥把那輛旧車賣了	【“把”を用いる文1】
6回 第18課 您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
7回 第18課 您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
8回 第19課 今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
9回 第19課 今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
10回 第20課 觀眾被精彩的表演吸引住了	【“被”を用いる文】
11回 第22課 猪肉比牛肉便宜	【“比”を用いた比較文】
12回 第23課 今年的雨水没有去年那么多	【“有/没有”を用いた比較文】
13回 第1課 她送我一束花	【二重目的語】
14回 第2課 參觀菊花展覽的人真多	【動賓構造・主述構造】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席： 20% 平常点： 20% 期末試験： 60%
出席、平常点、学習態度、期末試験で総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

標準語の発音是正、朗読、暗唱、リスニングと会話の訓練を強化し、中国語の「聞く」、「話す」の能力、総合的なコミュニケーションの能力を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶 (1)
- 2回 挨拶 (2)
- 3回 電話をかける
- 4回 結婚式 (1)
- 5回 結婚式 (2)
- 6回 お祝いに行く
- 7回 祝賀会
- 8回 プレゼントする
- 9回 宴会に出席する
- 10回 接客
- 11回 お見舞いの言葉 (1)
- 12回 お見舞いの言葉 (2)
- 13回 葬式 (1)
- 14回 葬式 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 (小テスト含む) ... 20% 暗唱・スピーチ発表... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

標準語の発音是正、朗読、暗唱、リスニングと会話の訓練を強化し、中国語の「聞く」、「話す」の能力、総合的なコミュニケーションの能力を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶 (1)
- 2回 挨拶 (2)
- 3回 電話をかける
- 4回 結婚式 (1)
- 5回 結婚式 (2)
- 6回 お祝いに行く
- 7回 祝賀会
- 8回 プレゼントする
- 9回 宴会に出席する
- 10回 接客
- 11回 お見舞いの言葉 (1)
- 12回 お見舞いの言葉 (2)
- 13回 葬式 (1)
- 14回 葬式 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 (小テスト含む) ... 20% 暗唱・スピーチ発表... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期の続き、中国語の「聞く」、「話す」の能力の向上をめざす。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族(1)
- 2回 家族(2)
- 3回 近所づき合い
- 4回 夫婦仲
- 5回 交際のマナー(1)
- 6回 交際のマナー(2)
- 7回 パーティー(1)
- 8回 パーティー(2)
- 9回 同窓会(1)
- 10回 同窓会(2)
- 11回 買い物(1)
- 12回 買い物(2)
- 13回 金や物を借りに行く
- 14回 公衆道徳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む)...20% 暗唱・スピーチ発表...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期の続き、中国語の「聞く」、「話す」の能力の向上をめざす。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族(1)
- 2回 家族(2)
- 3回 近所づき合い
- 4回 夫婦仲
- 5回 交際のマナー(1)
- 6回 交際のマナー(2)
- 7回 パーティー(1)
- 8回 パーティー(2)
- 9回 同窓会(1)
- 10回 同窓会(2)
- 11回 買い物(1)
- 12回 買い物(2)
- 13回 金や物を借りに行く
- 14回 公衆道徳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む)...20% 暗唱・スピーチ発表...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的とする。中国語の作文能力(記事・レポート・論文・等)をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』(白帝社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック(バベル・プレス)
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』(中華書店)
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1回 第1課 他不是去看电影, 而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2回 第2課 咱们一边走, 一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3回 第3課 高原的气候变化很大, 有时晴, 有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4回 第4課 她姐姐的孩子既聪明, 又用功。 [並列関係の複文4]
- 5回 第5課 或者去广州, 或者去上海, 咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6回 第6課 首先我们应当学好基础课, 然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7回 第7課 因为今天很冷, 所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8回 第8課 茶不但是很好的饮料, 而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9回 第9課 虽然雨下得很大, 但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10回 第10課 如果每天坚持运动, 就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 11回 第11課 除了打篮球以外, 他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 12回 第12課 这片土地除了修建住宅, 就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 13回 第13課 为了节省时间, 您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 14回 第14課 代表团一下飞机, 就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(テキストの作文課題)に対する評価40% 平常の学習状況 10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文I【昼】

担当者名 大連交換教員 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的にする。中国語の作文能力（記事・レポート・論文・等）をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（バベル・プレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1回 第1課 他不是去看电影，而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2回 第2課 咱们一边走，一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3回 第3課 高原的气候变化很大，有时晴，有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4回 第4課 她姐姐的孩子既聪明，又用功。 [並列関係の複文4]
- 5回 第5課 或者去广州，或者去上海，咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6回 第6課 首先我们应当学好基础课，然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7回 第7課 因为今天很冷，所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8回 第8課 茶不但是很好的饮料，而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9回 第9課 虽然雨下得很大，但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10回 第10課 如果每天坚持运动，就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 11回 第11課 除了打篮球以外，他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 12回 第12課 这片土地除了修建住宅，就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 13回 第13課 为了节省时间，您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 14回 第14課 代表团一下飞机，就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（テキストの作文課題）に対する評価40% 平常の学習状況 10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文Ⅱ【昼】

担当者名 大連交換教員 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的にする。中国語の作文能力（記事・レポート・論文・等）をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（バベル・プレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1 回 第15課 今年冬天连大阪都这么冷，何况北海道。 [選択関係の複文3]
- 2 回 第16課 只要你的意见正确，我就改正。 [条件関係の複文1]
- 3 回 第17課 只有你去请他，他才肯来。 [条件関係の複文2]
- 4 回 第18課 无论刮风还是下雪，他早晨都要去散步。 [条件関係の複文3]
- 5 回 第19課 即使失败，也不要灰心。 [譲歩関係の複文1]
- 6 回 第20課 尽管文章短小，还是很有分量的。 [譲歩関係の複文2]
- 7 回 第21課 既然来了，你就多住几天。 [因果関係の複文2]
- 8 回 第22課 父亲不但不反对，反而鼓励我去中国留学。 [累加関係の複文4]
- 9 回 第23課 你果然对水墨画感兴趣，应该下功夫去掌握它。 [仮定関係の複文2]
- 1 0 回 第24課 明天我还有事，不然我可以陪你去博物馆。 [仮定関係の複文3]
- 1 1 回 第25課 我不知道他来东京，不然我早就去看他了。 [逆接関係の複文2]
- 1 2 回 第26課 他不仅会写钢笔字，就是毛笔字也写得很好。 [累加関係の複文5]
- 1 3 回 第27課 各种电器应该注意保养，以延长使用寿命。 [目的関係の複文2]
- 1 4 回 第28課 这种电视之所以受欢迎，是因为它物美价廉。 [因果関係の複文3]
- 1 5 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（テキストの作文課題）に対する評価40% 平常の学習状況10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文II 【昼】

担当者名 大連交換教員 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的にする。中国語の作文能力(記事・レポート・論文・等)をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』(白帝社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック(バベル・プレス)
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』(中華書店)
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1回 第15課 今年冬天连大阪都这么冷,何况北海道。 [選択関係の複文3]
- 2回 第16課 只要你的意见正确,我就改正。 [条件関係の複文1]
- 3回 第17課 只有你去请他,他才肯来。 [条件関係の複文2]
- 4回 第18課 无论刮风还是下雪,他早晨都要去散步。 [条件関係の複文3]
- 5回 第19課 即使失败,也不要灰心。 [譲歩関係の複文1]
- 6回 第20課 尽管文章短小,还是很有分量的。 [譲歩関係の複文2]
- 7回 第21課 既然来了,你就多住几天。 [因果関係の複文2]
- 8回 第22課 父亲不但不反对,反而鼓励我去中国留学。 [累加関係の複文4]
- 9回 第23課 你果然对水墨画感兴趣,应该下功夫去掌握它。 [仮定関係の複文2]
- 10回 第24課 明天我还有事,不然我可以陪你去博物馆。 [仮定関係の複文3]
- 11回 第25課 我不知道他来东京,不然我早就去看他了。 [逆接関係の複文2]
- 12回 第26課 他不仅会写钢笔字,就是毛笔字也写得很好。 [累加関係の複文5]
- 13回 第27課 各种电器应该注意保养,以延长使用寿命。 [目的関係の複文2]
- 14回 第28課 这种电视之所以受欢迎,是因为它物美价廉。 [因果関係の複文3]
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(テキストの作文課題)に対する評価40% 平常の学習状況10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 买东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 买东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 3回 第二課 看病 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 看病 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 5回 第三課 去餐厅吃饭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 去餐厅吃饭 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 7回 第四課 问路 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 问路 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 9回 第五課 寄东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 寄东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 11回 第六課 旅游 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 旅游 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 13回 第七課 修理 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 修理 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 买东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 买东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 3回 第二課 看病 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 看病 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 5回 第三課 去餐厅吃饭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 去餐厅吃饭 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 7回 第四課 问路 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 问路 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 9回 第五課 寄东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 寄东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 11回 第六課 旅游 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 旅游 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 13回 第七課 修理 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 修理 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 买东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 买东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 3回 第二課 看病 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 看病 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 5回 第三課 去餐厅吃饭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 去餐厅吃饭 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 7回 第四課 问路 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 问路 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 9回 第五課 寄东西 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 寄东西 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 11回 第六課 旅游 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 旅游 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 13回 第七課 修理 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 修理 四、听课文做练习 五、泛听练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1回 第八课 休闲娱乐 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 第八课 休闲娱乐 | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 第九课 谈学习 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 第九课 谈学习 | 四、听课文做练习 |
| 5回 第九课 谈学习 | 五、泛听练习 |
| 6回 第十课 家庭 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 第十课 家庭 | 四、听课文做练习 |
| 8回 第十课 家庭 | 五、泛听练习 |
| 9回 第十一课 北京见闻 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 第十一课 北京见闻 | 四、听课文做练习 |
| 11回 第十一课 北京见闻 | 五、泛听练习 |
| 12回 第十二课 社会问题 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 第十二课 社会问题 | 四、听课文做练习 |
| 14回 第十二课 社会问题 | 五、泛听练习 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1回 第八课 休闲娱乐 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 第八课 休闲娱乐 | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 第九课 谈学习 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 第九课 谈学习 | 四、听课文做练习 |
| 5回 第九课 谈学习 | 五、泛听练习 |
| 6回 第十课 家庭 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 第十课 家庭 | 四、听课文做练习 |
| 8回 第十课 家庭 | 五、泛听练习 |
| 9回 第十一课 北京见闻 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 第十一课 北京见闻 | 四、听课文做练习 |
| 11回 第十一课 北京见闻 | 五、泛听练习 |
| 12回 第十二课 社会问题 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 第十二课 社会问题 | 四、听课文做练习 |
| 14回 第十二课 社会问题 | 五、泛听练习 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校、買物、病院など様々な場面を設定した、対話や短文の形式を用い、それを聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1回 第八课 休闲娱乐 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 第八课 休闲娱乐 | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 第九课 谈学习 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 第九课 谈学习 | 四、听课文做练习 |
| 5回 第九课 谈学习 | 五、泛听练习 |
| 6回 第十课 家庭 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 第十课 家庭 | 四、听课文做练习 |
| 8回 第十课 家庭 | 五、泛听练习 |
| 9回 第十一课 北京见闻 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 第十一课 北京见闻 | 四、听课文做练习 |
| 11回 第十一课 北京见闻 | 五、泛听练习 |
| 12回 第十二课 社会问题 | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 第十二课 社会问题 | 四、听课文做练习 |
| 14回 第十二课 社会问题 | 五、泛听练习 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングⅢ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高編』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングⅢ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks
『汉语听力速成 提高編』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
使用しない。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
 - 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
 - 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
 - 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
 - 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
 - 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
 - 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングⅣ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高編』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語リスニングⅣ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks
『汉语听力速成 提高編』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
使用しない。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
 - 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
 - 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
 - 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
 - 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
 - 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
 - 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
 - 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
 - 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
 - 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
 - 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
 - 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
 - 13回 第十二课 健康 三、热身练习
 - 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国近代の幕開けから五・四新文化運動を経て、魯迅の死に至るまでの、中国の主に文学・芸術界の状況を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近代・現代文学芸術に影響を与えた19世紀末から20世紀初頭にかけての思想家・哲学者・文学者の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」の紹介、西洋近代文学の受容と5・4運動後の思想的分化の解説等を中国代表的作家および代表的作品の紹介・解説を中心にテーマを絞って講義していく。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 藤井省三『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房1997年)
- 藤井省三『魯迅事典』(三省堂2002年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国近代の幕開けと中国文学について。【梁啓超】【嚴復】【林琴南】
- 2回 魯迅の日本留学。【呐喊自序】【藤野先生】
- 3回 魯迅と辛亥革命。【光復会】【秋瑾】
- 4回 陳独秀と啓蒙雑誌。【新青年】【デモクラシー】【サイエンス】
- 5回 胡適と陳独秀。【八不主義】【文学革命】
- 6回 『新青年』の同人たちとその思想。【周作人】【錢玄同】
- 7回 魯迅と五・四新文化運動。【呐喊自序】【狂人日記】
- 8回 『新青年』の空中分解。【問題と主義論争】
- 9回 苦悶彷徨する魯迅。【呐喊から彷徨へ】
- 10回 五・四退潮期と元『新青年』の同人たちのその後
- 11回 「文学研究会」の結成と活動について。【小説月報】【茅盾】
- 12回 「創造社」の結成と活動について。【郭沫若】【郁達夫】
- 13回 革命文学論争と中国左翼作家連盟について。【魯迅】【太陽社】【創造社】
- 14回 国防文学論争と魯迅の死について。【魯迅と内山完三】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 (課題学習含む) ...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多くの資料を読み、レポートを提出してもらおうのでしっかり準備して授業に臨んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 2 A 【昼】

担当者名
/Instructor

金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：中国における民族文化について理解する

漢族及び少数民族の民間伝承、儀礼、風習を学ぶことによって、多角的視野から多様な中国文化を理解することを目的とする。また現代中国における文化に関する諸問題についても理解を深める。

教科書 /Textbooks

『世界史リブレット61 中国史のなかの諸民族』川本 芳昭著 山川出版社 2009年
『中華風情大観』 王錫齡 編 中国民間文芸出版社 1990年。適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族の分類と分布、人口についての概要
- 2回 少数民族の自然基盤、歴史
- 3回 漢族文化の概論
- 4回 漢族の風習
- 5回 西南地区少数民族の文化(概論)
- 6回 西南地区少数民族の風習
- 7回 西南地区少数民族の風習
- 8回 西北地区少数民族の文化(概論)
- 9回 西北地区少数民族の風習
- 10回 西北地区少数民族の風習
- 11回 東北地区少数民族の文化(概論)
- 12回 東北地区少数民族の風習
- 13回 民族伝統文化の継承と近代化
- 14回 文化変容とアイデンティティ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50% 疑問点・問題の所在・感想などの提出...30% 受講態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は指定された中国語の文献を和訳してくることが求められる。毎回授業の最後に授業内容に関する課題と疑問点、問題の所在、感想などを提出してもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 4 A 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回～ テキスト輪読、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 6 A 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより深める。

教科書 /Textbooks

資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

現代中国語で書かれた文学作品(小説)や映像作品を用いて、毎授業のはじめに発音チェック、意味確認等を行なう。その後、文法や表現上の疑問、問題を受講者それぞれが見つけ解決していく。さらに、日本語との対照を行い、共通点、相違点を見つける訓練を行なう。

- 1回 対照研究とは何か(概説)
- 2回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決1
- 3回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決2
- 4回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決3
- 5回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決4
- 6回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決5
- 7回 文学作品講読(『我是保姆』李蘭著、人民文学出版社)と問題点の発見・解決6
- 8回 まとめ
- 9回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決1
- 10回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決2
- 11回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決3
- 12回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決4
- 13回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決5
- 14回 映像作品鑑賞(『洗澡』張楊監督、西安電影制片廠)と問題点の発見・解決6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題...80% 出席・受講態度等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では言語学の知識が必要となる。授業でも取り上げるが、受講前までに基本的な言語学の知識を身につけておくことが望ましい。参考文献等を紹介するので、受講前に読んでおきたい場合は、担当者まで問い合わせること。
(注)本年度のみ2学期に開講する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 7 A 【昼】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>

2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前中期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

春名徹『北京—都市の記憶』(岩波新書、2008)

倉沢進・李国慶『北京—皇都の歴史と空間』(中公新書、2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行むけのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 3回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 4回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 5回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 6回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 7回 倉沢進・李国慶『北京』
- 8回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 9回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 10回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 11回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 12回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 13回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 14回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 15回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論、学期末のレポートによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 8 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私の演習は他の教員の演習とは異なり、課題処理能力(例えば特定の文章を読解するなど)を涵養するのではなく、課題発見能力の涵養を目指す。解りやすく言えば、研究テーマを自分で考えさせるのが授業のねらいである。分野は特に限定しないが、私がアドバイスできる範囲内でテーマを選定してくれると指導しやすい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当分はあれこれ試行錯誤の繰り返しとなるであろう。できれば、2学期(8B)に入るまでにテーマを探し出して欲しい。

成績評価の方法 /Assessment Method

テーマが決まれば成績を与える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国や東アジアに関する書籍をできるだけ多く読んでおくこと。中国語しかやっていない学生は、テーマを探すのに苦労すると思う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の新聞・雑誌・映像などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深めながら、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 毎回発表と討論を行うほか、時には海外研修と調査も行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(50%)・平常点(50%)により総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国映画演劇研究。初回は中国映画の歴史を概説し、それ以降は特に陳凱歌や張芸謀監督に代表されるいわゆる中国映画第5世代監督と呼ばれる監督およびその作品について解説し、さらに彼等に続く第6世代監督と呼ばれる監督-賈樟柯監督等の解説をし、中国の初期の映画から最近までの映画を通して中国の文化・社会を理解するのがねらいである。後半は清末の京劇改革運動から中国近代演劇の父と称される曹禺の登場を経て、戦後演劇家に転進した老舍等、代表的な作家・作品に焦点を当てながら解説する。そして最後に同時代につなげるために中国不条理劇の旗手高行健の作品を解説する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「京劇」(加藤徹 中央公論新社2002年)
- 「中国話劇通史」(葛一虹 文化芸術出版社1990年)
- 「中国映画史」(森川和代 平凡社1987年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国映画史概説。
- 2回 張芸謀「生きる」①中国現代史を描く
- 3回 張芸謀「生きる」②中国現代史を描く
- 4回 陳凱歌「霸王別記」①中国京劇の歴史
- 5回 陳凱歌「霸王別記」②中国京劇の歴史
- 6回 賈樟柯「長江哀歌」三峡ダムに消える中国歴史と中国現代社会
- 7回 章家瑞「雲南の少女ルオマの初恋」中国少数民族の過去と現在
- 8回 京劇について。
- 9回 京劇改革運動について。
- 10回 初期話劇について。
- 11回 イブセン劇の受容について。
- 12回 夏衍の演劇について。
- 13回 曹禺の演劇について。
- 14回 高行健の演劇について。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題発表含む) ...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多くの資料を読み、レポートを提出してもらうので、しっかり準備して授業に臨んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：神話故事を通じて中国文化を探る
漢族や少数民族の神話故事の熟読を通じて中国文化の深層構造を読み説き、中国を理解することを目指す。さらに「漢族と少数民族の関わり」「中国民族文化と日本の関わり」等の問題を検討する。

教科書 /Textbooks

中国民間故事精品文庫『中国神話故事』 馬昌儀 編 中国広播電視出版社 1995年。
適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国の神話伝承についての概要
- 2回 漢族の神話伝承と文化
- 3回 漢族の神話伝承と文化
- 4回 回族の神話伝承と文化
- 5回 チベット族の神話伝承と文化
- 6回 チベット族の神話伝承と文化
- 7回 ミャオ族の神話伝承と文化
- 8回 イ族の神話伝承と文化
- 9回 ナン族の神話伝承と文化
- 10回 チワン族の神話伝承と文化
- 11回 朝鮮族の神話伝承と文化
- 12回 漢族文化と少数民族の関わり
- 13回 民族文化と日本文化
- 14回 多様な文化の共存
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 50 % 発表内容 ... 30 % 出席状況 ...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は中国神話故事の文献を和訳して授業中に発表することが求められる。毎回授業の最後には問題点、疑問点、感想などを提出してもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 4 B 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回～ テキスト輪読、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 6 B 【昼】

担当者名 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。特に、当該分野の学術論文（日本語及び中国語で書かれたもの）を読み、中国語の語法等についての理解を深め、日中両言語の比較・対照の方法を身につける。

教科書 /Textbooks

資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、担当者を決め、語法や日中言語対照に関する論文を読み進める。研究演習 6 A で出た諸問題に関連するテーマの論文を探し、担当者を決めて読み進める。

- 1回 学術論文の読み方（概論）
- 2回 日本語で書かれた学術論文（1）の講読
- 3回 日本語で書かれた学術論文（2）の講読
- 4回 日本語で書かれた学術論文（2）の講読
- 5回 日本語で書かれた学術論文（3）の講読
- 6回 日本語で書かれた学術論文（3）の講読
- 7回 日本語で書かれた学術論文（4）の講読
- 8回 日本語で書かれた学術論文（4）の講読
- 9回 日本語で書かれた学術論文（5）の講読
- 10回 日本語で書かれた学術論文（5）の講読
- 11回 中国語で書かれた学術論文（1）の講読
- 12回 中国語で書かれた学術論文（1）の講読
- 13回 中国語で書かれた学術論文（2）の講読
- 14回 中国語で書かれた学術論文（2）の講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題... 80% 出席・受講態度等... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では言語学の知識が必要となる。授業でも取り上げるが、受講前までに基本的な言語学の知識を身につけておくことが望ましい。あらかじめ図書館にある関連文献の位置、文献の検索方法等も確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 7 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>
2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前半期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇どの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

北京史に関する中文文献(コピーして配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行向けのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 北京史に関する中文文献の輪読
- 3回 北京史に関する中文文献の輪読
- 4回 北京史に関する中文文献の輪読
- 5回 北京史に関する中文文献の輪読
- 6回 北京史に関する中文文献の輪読
- 7回 北京史に関する中文文献の輪読
- 8回 北京史に関する中文文献の輪読
- 9回 北京史に関する中文文献の輪読
- 10回 北京史に関する中文文献の輪読
- 11回 北京史に関する中文文献の輪読
- 12回 北京史に関する中文文献の輪読
- 13回 北京史に関する中文文献の輪読
- 14回 北京史に関する中文文献の輪読
- 15回 北京史に関する中文文献の輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論、学期末のレポートによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 8 B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

研究演習8Aで選択した各自の研究テーマについて、調査・分析の方法(スキル)を学ぶ。例えば、中国中世史に関する研究テーマを選んだら、漢文の読解が必要なので、史料講読をさせる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に異なる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、発表や講読を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

スキル学習の進み具合に応じて評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

歴史や文学を選択すると中国語とは大きく異なる「漢文」の学習が必要となる可能性が高い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 9 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の引き続き、中国語の新聞・雑誌・映像などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深めながら、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 毎回発表と討論を行うほか、時には海外研修と調査も行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(50%)・平常点(50%)により総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国演劇研究を通して中国理解を深める。中国の逐次刊行物の中からプロの作家が書いたシナリオを選び、その原書講読および翻訳に始まり、日本語字幕作成、舞台稽古、そして劇場の舞台に立ち中国語劇を発表する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『劇本』
- 『中国戯劇』
- 『新劇本』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国演劇史概説
- 第2回 原書講読①
- 第3回 原書講読②
- 第4回 原書講読③
- 第5回 原書講読④
- 第6回 原書講読⑤
- 第7回 原書講読⑥
- 第8回 原書講読⑦
- 第9回 原書講読⑧
- 第10回 原書講読⑨
- 第11回 原書講読⑩
- 第12回 原書講読⑪
- 第13回 原書講読⑫
- 第14回 原書講読⑬
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生一人ひとりが積極的に、且つ各々の創造性の探求に自発的・意欲的に取り組み、新しい形での大学4年間の集大成とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 2 A 【昼】

担当者名
/Instructor

金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：民族文化から中国文化を観る

文化の研究において重要となる基本的視点や概念を学習した上で、物質文化・社会文化などの視点から中国文化への理解を深め、現代中国を文化的側面から捉えることを目指す。

教科書 /Textbooks

『民族文化学』 潘定智 著 貴州民族出版社 1994年 プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化と民族文化(文化とは何か、民族文化とは何かを考える)
- 2回 飲食文化
- 3回 飲食文化
- 4回 服飾文化
- 5回 服飾文化
- 6回 建築文化
- 7回 建築文化
- 8回 交通・運輸
- 9回 物質文化まとめ
- 10回 経済制度
- 11回 婚姻家庭制度
- 12回 儀礼
- 13回 社会文化のまとめ
- 14回 民族文化と現代社会との関わり
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 授業での発表内容や受講態度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者は指定された中国語文献の和訳を予習し授業で発表することが求められる。
各発表に教員が説明を加え、その後問題点や疑問点を討論する形で授業をすすめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 A 【昼】

担当者名 佐藤 昭 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国方言音研究。この授業では、主に、中国各地の「方言なまり」の混じった話し言葉（会話）を録音テープで聞き、ヒアリング練習をするとともに、各地方言音の特徴を考察する。

教科書 /Textbooks

テキストはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 詹伯慧著、樋口靖訳『現代漢語方言』、光生館、1983年
- 『民族の世界史』、第5巻「漢民族と中国社会」、山川出版社、1983年
- 『中国語なまりングコース』華北・華中・華南編、中国語情報サービス、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと打ち合わせ
- 2回～ ①各地の「方言なまり」の混じった話し言葉を録音テープで聞き、内容を理解する。
- ②ついて、各地方言音の標準語との違いと特徴を考察する。
華北の方言なまり（北京・山西・内蒙古・山東・西安など）
華中の方言なまり（上海・安徽・湖北・湖南・四川など）
華南の方言なまり（福建・広東・香港・貴州・江西など）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題・発表... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 4 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「現代中国の経済分析」「現代中国経済分野での卒業論文等作成」を目的とする。
本講義はテキスト輪読、及び現代中国経済分野での卒業研究報告を並行する。
・現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・現代中国経済分野で卒論等の執筆を目指し、随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生と相談の上、決定する。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 ~ テキスト輪読ないしは卒業研究・卒論中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①は中国の社会と歴史を深く理解するべく、レジユメを作成し報告・討論。
②は中国史（政治・経済・社会の分野）及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

入江曜子『溥儀』岩波新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。
出席... % 報告と討論... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 8 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本・中国・韓国におけるナショナリズムの言説について研究する。また中国や韓国の留学生が日本をどう捉えているのかについて考える。

教科書 /Textbooks
なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
ナショナリズム色の強い各種資料の分析や、学生・社会人等に対する意識調査(アンケート)などを行う。毎回、進捗状況を報告し、教員より指示を受ける。

成績評価の方法 /Assessment Method
報告の内容を総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
[Blank area for preparation and review content]

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
その都度指示する。

履修上の注意 /Remarks
[Blank area for remarks]

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
[Blank area for instructor message]

キーワード /Keywords
[Blank area for keywords]

卒業研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。時には、中国語の映像教材も使用。

現代中国語の表現と中国人社会

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 毎回発表と討論を行うほか、時には海外研修と調査も行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度 (50%) ・ 平常点 (50%) により総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国演劇研究を通して中国理解を深める。中国の逐次刊行物の中からプロの作家が書いたシナリオを選び、その原書講読および翻訳に始まり、日本語字幕作成、舞台稽古、そして劇場の舞台に立ち中国語劇を発表する。原書講読、立ち稽古の開始、大道具・小道具・衣装の制作、音楽・音響収集、日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成、卒業公演と銘打って中国語劇を上演する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『劇本』
- 『中国戯劇』
- 『新劇本』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第14回 原書講読、立ち稽古の開始、大道具・小道具・衣装の制作、音楽・音響収集、日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第15回 卒業公演と銘打って中国語劇を上演する

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の発表...50% 研究成果発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生一人ひとりが積極的に、且つ各々の創造性の探求に自発的・意欲的に取り組み、新しい形での大学4年間の集大成とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 2 B 【昼】

担当者名
/Instructor

金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでの演習、講義での学習をふまえ、各自テーマを決めて発表する。互いの発表を聞いてディスカッションすることにより、中国文化への理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国における文化に関する諸問題について (概要)
- 2回 現代中国における文化に関する諸問題について
- 3回 発表とディスカッションについての説明とテーマ設定
- 4回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 5回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 6回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 7回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 8回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 9回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 10回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 11回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 12回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 13回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 13回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 14回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表内容と受講態度 ...50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は発表テーマを各自で決めて授業で発表することが求められる。教員が各発表テーマに補足説明を加えた後、問題点や疑問点を討論する形で授業をすすめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 B 【昼】

担当者名 佐藤 昭 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語歴史音韻研究。古代の音韻研究のための言語資料および現代の各地方言資料を活用して、現代から古代へさかのぼる音韻の歴史を考察する。

教科書 /Textbooks

佐藤昭『中国語音史-中古音から現代音まで』 白帝社、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ラムゼイ『中国の諸言語---歴史と現況』 大修館書店、1990年
- 李思敬『音韻のはなし---中国音韻学の基本知識』 光生館、1987年
- 大島正二『唐代の人は漢詩をどう詠んだか-中国音韻学への誘い』 岩波書店、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと打ち合わせ
- 2回~ テキストおよび言語資料の輪読、方言資料を用いての音韻調査
研究発表など

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題・発表... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 4 B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「現代中国の経済分析」「現代中国経済分野での卒業論文等作成」を目的とする。
本講義はテキスト輪読、及び現代中国経済分野での卒業研究報告を並行する。
・現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジユメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・現代中国経済分野で卒論等の執筆を目指し、随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生と相談の上、決定する。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 ~ テキスト輪読ないしは卒業研究・卒論中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 B 【昼】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①は中国の社会と歴史を深く理解するべく、レジユメを作成し報告・討論。
②は中国史（政治・経済・社会の分野）及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

入江曜子『溥儀』岩波新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。

出席... % 報告と討論... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 8 B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本・中国・韓国におけるナショナリズムの言説について研究する。また中国や韓国の留学生が日本をどう捉えているのかについて考える。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ナショナリズム色の強い各種資料の分析や、学生・社会人等に対する意識調査(アンケート)などを行う。毎回、進捗状況を報告し、教員より指示を受ける。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容を総合評価する。2年間の演習の成果を卒業レポートとしてまとめさせ、評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その都度指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 9 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の引き続き、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・思想・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。時には、中国語の映像教材も使用。

現代中国語の表現と中国人社会

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 毎回発表と討論を行うほか、時には海外研修と調査も行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度 (50%) ・ 平常点 (50%) により総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
2年次配当科目のため、当初は基本的な中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指していく。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002) 「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002) 「中国報道の読み方」 岩波アクティブ新書 ￥700 この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論(1)
- 3回 文献輪読及び説明, 議論(2)
- 4回 文献輪読及び説明, 議論(3)
- 5回 文献輪読及び説明, 議論(4)
- 6回 文献輪読及び説明, 議論(5)
- 7回 文献輪読及び説明, 議論(6)
- 8回 文献輪読及び説明, 議論(7)
- 9回 文献輪読及び説明, 議論(8)
- 10回 文献輪読及び説明, 議論(9)
- 11回 文献輪読及び説明, 議論(10)
- 12回 文献輪読及び説明, 議論(11)
- 13回 文献輪読及び説明, 議論(12)
- 14回 文献輪読及び説明, 議論(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・レポート提出 10% 輪読・発表等授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
2年次配当科目のため、当初は基本的な中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指していく。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002) 「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002) 「中国報道の読み方」 岩波アクティブ新書 ￥700 この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論(1)
- 3回 文献輪読及び説明, 議論(2)
- 4回 文献輪読及び説明, 議論(3)
- 5回 文献輪読及び説明, 議論(4)
- 6回 文献輪読及び説明, 議論(5)
- 7回 文献輪読及び説明, 議論(6)
- 8回 文献輪読及び説明, 議論(7)
- 9回 文献輪読及び説明, 議論(8)
- 10回 文献輪読及び説明, 議論(9)
- 11回 文献輪読及び説明, 議論(10)
- 12回 文献輪読及び説明, 議論(11)
- 13回 文献輪読及び説明, 議論(12)
- 14回 文献輪読及び説明, 議論(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・レポート提出 10% 輪読・発表等授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 中国概観～中華民族の偉大な復興
- 3回 エリート革命から人民戦争へ
- 4回 揺れる新国家建設
- 5回 中国独自の社会主義への挑戦
- 6回 プロレタリア文化大革命
- 7回 革命と近代化の確執
- 8回 改革開放・近代化へ邁進
- 9回 六四事件
- 10回 毛沢東と鄧小平
- 11回 大国化する中国の光と影
- 12回 21世紀中国～毛沢東と鄧小平を超えて
- 13回 中国の政治経済構造の構築と変化
- 14回 社会主義市場経済の帰結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の外交政策・対外関係・香港台湾の位置づけについて史的・総合的に学ぶ。国内政治・政策の変化あるいは国際環境の変化が中国外交に与えた影響について、主要国との二国間関係を中心に検討する。また、国共内戦後の中華民国の歩みと民主化について解説し、中台関係について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年
その他、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 中国の外交方針と国内政治
- 3回 中国外交と国際環境の変化
- 4回 日中関係I
- 5回 日中関係II
- 6回 米中関係I
- 7回 米中関係II
- 8回 台湾と中華民国～蒋介石時代
- 9回 台湾と中華民国～民主化へ
- 10回 台湾問題と米中関係
- 11回 香港・東南アジアと中国
- 12回 ロシア・中央アジアと中国
- 13回 WTOと中国
- 14回 大国外交
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の文化を俯瞰し、多面的にアプローチする。
各自の関心を一点に絞り、レポートを作成する。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「中国文化百華全集」(農文協)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日中文化交流史概念 レポート課題作成について
- 2回 多民族国家としての中国①
- 3回 多民族国家としての中国②
- 4回 漢字の文化圏①
- 5回 漢字の文化圏②
- 6回 三大宗教の伝来と現況①
- 7回 三大宗教の伝来と現況②
- 8回 音楽史概略①
- 9回 音楽史概略②
- 10回 芸術面の日中交流の一側面①京劇と歌舞伎
- 11回 芸術面の日中交流の一側面②新劇
- 12回 映画史概略①
- 13回 映画史概略②
- 14回 各自のテーマ研究①
- 15回 各自のテーマ研究②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 20 % レポート作成 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題のミニレポートについて調査し、記述する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日中食文化の比較と各自の職歴の把握

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 食歴とは?“食”の起源 課題レポートの作成について
- 2 回 中国伝来の食材
- 3 回 主食の穀物 日中比較①
- 4 回 主食の穀物 日中比較②
- 5 回 肉食の比較 肉食の歴史①
- 6 回 肉食の比較 肉食の歴史②
- 7 回 茶の伝来と歴史①
- 8 回 茶の伝来と歴史②
- 9 回 調味料の日中比較①
- 10 回 調味料の日中比較②
- 11 回 野菜と果物 日中比較①
- 12 回 野菜と果物 日中比較②
- 13 回 薬膳とは?①
- 14 回 薬膳とは?②
- 15 回 現在の食の問題点

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20 % レポート作成... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題のミニレポートについて調査し、記述する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

担当者名 /Instructor 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代から近代にかけて中国文化の受容を平易に説明し、日本的中国学理解の在り方を究明する。講義では京都の中国研究者の主張を説明しながら中国文明の本質を明白にしようとする。

教科書 /Textbooks

配付資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古川幸次郎編『東洋学の創始者たち』講談社、1976年10月
礪波護編『京大東洋学の百年』京都大学出版会、2002年5月

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (「 」はキーワード)
- 1回 授業説明：日本における中国文化の受容「受容」「選別」「融合」「創出」
 - 2回 中国文化は漢字文化(宮崎市定)「漢字」「漢字文化」
 - 3回 漢字と漢字文化圏「六書」「当用漢字」「漢字文化圏」
 - 4回 中国文学は中国文明の核(狩野直喜)「儒雅」「風神」
 - 5回 文字の魔術：詩文のリズム、メロディー、ハーモニー(古川幸次郎)「韻律」「対句」
 - 6回 唐詩の世界：中国人の心象風景の描写「賦比興」「緻密」「飛躍」
 - 7回 戦国は中国思想の黄金時代(貝塚茂樹)「百家争鳴」「稷下論議」「布衣卿相」
 - 8回 儒家と道家は中国思想の二本柱(金谷治)「人間社会」「人間学」「自然凝視」
 - 9回 孔子の思想：論語字義「仁」「学」「君子」
 - 10回 子所雅言：儒家の人間学「古典素養」「社会実用」
 - 11回 自然無為：老子の発想の転換「自然無為」「水」「柔弱」
 - 12回 万物斉同：荘子説話の主人公「自然凝視」「本来の生き方」「再生」「多様性」
 - 13回 小国寡民：東洋の理想郷「安居楽俗」「桃源郷」「山水画」「原風景」「終身雇用」
 - 14回 通変史観：中国人の歴史意識(内藤湖南)「通」「変」「独断」
 - 15回 史記の世界：身振りの文学(宮崎市定)「都市文化」「事実と物語」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況：50% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配付する資料をよく読み込んでおくこと。また、授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史I【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第3回 桃園の誓い(中国の農村部における定期市と地方政治について学ぶ)
第4回～第8回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
第9回～第10回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済の違いを学ぶ)
第11回～第14回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『大長今(チャングムの誓い)』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と明国・倭寇との関係に触れられた部分などを素材として、中世東アジア社会の繋がりについて論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第6回 中国・朝鮮社会と日本社会との相違点
- 第7回～第9回 中国から朝鮮・日本への食材や棉花などの流入
- 第10回～第12回 東シナ海を取り巻く中国・朝鮮・日本の国際関係
- 第13回～第14回 前近代の医療制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「東洋史」を履修していることが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の流れとそれに伴う中国経済・社会の変容をトピック別に解説し、中国経済が現在に至った経緯について理解を深めます。これによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解しそれらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者から配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
- ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年 ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 計画経済システム下の中国経済【経済体制】【開発】
- 3回 改革開放路線の選択(1)【比較優位】【労働集約型産業】
- 4回 改革開放路線の選択(2)【比較優位】【労働集約型産業】
- 5回 農業・農村改革(1)【インセンティブ】【請負制】
- 6回 農業・農村改革(2)【インセンティブ】【農村工業化】
- 7回 農業・農村改革(3)【土地請負制】【三農問題】
- 8回 企業改革(1)【国有企業】【規制緩和】
- 9回 企業改革(2)【非国有企業】【予算制約】【所有権改革】
- 10回 企業改革(3)【株式上場企業】【民営企業】
- 11回 金融改革(1)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 12回 金融改革(2)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 13回 金融改革(3)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 14回 財政改革【税】【中央】【地方】
- 15回 まとめと解説

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論IIでは、経済改革に伴う各経済制度の変容と経済の構造的変化について理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者から配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
- ②南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年 ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 これまでの経済政策の流れ(1)【財政政策】【金融政策】
 - 3回 これまでの経済政策の流れ(2)【財政政策】【金融政策】
 - 4回 通貨・為替制度の変遷(1)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 5回 通貨・為替制度の変遷(2)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 6回 通貨・為替制度の変遷(3)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 7回 金融政策と金融システム(1)【銀行】【中央銀行】
 - 8回 金融政策と金融システム(2)【銀行】【中央銀行】
 - 9回 金融政策と金融システム(3)【銀行】【中央銀行】
 - 10回 労働市場の動向(1)【余剰労働力】【労働力不足】【賃金】
 - 11回 労働市場の動向(2)【賃金】【契約法】
 - 12回 貿易・直接投資の役割【輸出依存型】【資本移動】
 - 13回 持続的成長への課題(1)【効率性】【エネルギー】
 - 14回 持続的成長への課題(2)【効率性】【エネルギー】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読A 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺 茂彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

改革開放期の小説（短編または中編）を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。小説を読むことは、現代中国の今を生きる人々の内面の世界に立ち入ることになるので、中国理解のためにも有益な授業となる。

教科書 /Textbooks

コピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国当代文学概説
- 2回 裘山山<愛情传奇> (1)
- 3回 裘山山<愛情传奇> (2)
- 4回 裘山山<愛情传奇> (3)
- 5回 裘山山<愛情传奇> (4)
- 6回 裘山山<愛情传奇> (5)
- 7回 范小青<准点到达> (1)
- 8回 范小青<准点到达> (2)
- 9回 范小青<准点到达> (3)
- 10回 范小青<准点到达> (4)
- 11回 范小青<准点到达> (5)
- 12回 范小青<准点到达> (6)
- 13回 范小青<准点到达> (7)
- 14回 范小青<准点到达> (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業での発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

全員参加の輪読形式なので予習は欠かせない。辞書にない言葉は、中国語のGoogleやYahooで検索するとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読B 【昼】

担当者名 渡辺 茂彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

改革開放期の小説（短編または中篇）を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。文学作品講読Aを履修し、さらに小説を読み続けたいという人の参加を想定しているが、文講A未履修者も歓迎する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 何玉茹<天外之音> (1)
- 2回 何玉茹<天外之音> (2)
- 3回 何玉茹<天外之音> (3)
- 4回 何玉茹<天外之音> (4)
- 5回 何玉茹<天外之音> (5)
- 6回 何玉茹<天外之音> (6)
- 7回 迟子建<草原> (1)
- 8回 迟子建<草原> (2)
- 9回 迟子建<草原> (3)
- 10回 迟子建<草原> (4)
- 11回 迟子建<草原> (5)
- 12回 迟子建<草原> (6)
- 13回 迟子建<草原> (7)
- 14回 迟子建<草原> (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業での発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

全員参加の輪読形式なので予習は欠かせない。辞書にない言葉は、中国語GoogleやYahooで検索するとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回1話のドラマを見せ、そこに描かれたエピソードを元に講義を進める。授業の最後10分は台湾で放送された時、HPに掲載されたあらすじ(中国語繁体字文)数行の和訳をさせ、中国語の学習も行う。前期で見せるドラマは1-5回、8-9回及び18-24回を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普遍的な思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前期と同様、毎回1話のドラマを見せ、そこに描かれたエピソードを元に講義を進める。授業の最後10分は台湾で放送された時、HPに掲載されたあらすじ(中国語繁体字)数行の和訳をさせ、中国語の学習も行う。ドラマの範囲は33-38回及び41,44,48,52,53,54回を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBC T上級級に短期間で合格することを目的とする。
講義全体のキーワード：ビジネス専門用語、BC T受験の内容と特徴。

教科書 /Textbooks

中国政府公認『BC Tビジネス中国語検定試験要綱』を使用する。
(日本BC T事務局 セリングビジョン株式会社出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BC T試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。他のBC T問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語・ヒアリングテスト練習
- 3回 単語・閲読テスト練習I
- 4回 単語・閲読テスト練習II
- 5回 単語・ヒアリングテスト練習
- 6回 単語・閲読テスト練習I
- 7回 単語・閲読テスト練習II
- 8回 単語・ヒアリングテスト練習
- 9回 単語・閲読テスト練習I
- 10回 単語・閲読テスト練習II
- 11回 単語・ヒアリングテスト練習
- 12回 単語・閲読テスト練習I
- 13回 単語・閲読テスト練習II
- 14回 単語・ヒアリングテスト練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、出席状況15%、単語テスト42%、定期試験43%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語B【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBC T上級級に短期間で合格することを目的とする。
講義全体のキーワード：ビジネス専門用語、BC T受験の内容と特徴。

教科書 /Textbooks

中国政府公認『BC Tビジネス中国語検定試験要綱』を使用する。
(日本BC T事務局 セリングビジョン株式会社出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期(B)
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BC T問題集を学習する。
「ヒアリング・閲読」と「会話・作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
他のBC T問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語・ヒアリングテスト練習
- 3回 単語・閲読テスト練習I
- 4回 単語・閲読テスト練習II
- 5回 単語・ヒアリングテスト練習
- 6回 単語・閲読テスト練習I
- 7回 単語・閲読テスト練習II
- 8回 単語・ヒアリング練習
- 9回 会話テスト練習I
- 10回 会話テスト練習II
- 11回 会話テスト練習III
- 12回 会話テスト練習IV
- 13回 作文テスト練習I
- 14回 作文テスト練習II
- 15回 まどめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、出席状況15%、単語テスト42%、定期試験43%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の社会【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の社会に関して、伝統-変革-変容の視点から理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国の社会へのアプローチ
- 2回 伝統的中国社会①-家族と宗族
- 3回 同上の続き
- 2回 伝統的中国社会②-日中社会の比較
- 5回 同上の続き
- 6回 伝統的中国社会③-都市と同業同郷団体
- 7回 伝統的中国社会④-農村社会と国家権力、華北の事例
- 8回 伝統的中国社会の変革①-中国共産党の土地改革
- 9回 同上の続き
- 10回 伝統的中国社会の変革②-農業集団化とその終焉
- 11回 同上の続き
- 12回 伝統的中国社会の変革③-都市
- 13回 現代中国社会の変容①-国有企業改革と労働市場・社会保障制度の変容
- 14回 現代中国社会の変容②-経済成長と格差
- 15回 中国の時事問題に関する討論

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...% 期末レポート...%
必要に応じて数回レポートを課す。期末レポートで成績評価を予定しているが、授業時に正式に通知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、発展著しい東アジア地域の経済動向を学習し、日本と東アジアとの今後の経済関係がどうあるべきかを考えてみることである。この授業では、まず東アジア経済を概観する。次に、経済発展の「成功」と「挫折」を経験してきた韓国に焦点を当てて、その発展過程を見る。そして、東アジアで現れている経済統合や地方間の国際交流などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済データで見る東アジア経済の現状
- 2回 世界の中の東アジア 【戦後の国際経済体制】【1970年代以上の国際分業】
【ブラザ合意】
- 3回 東アジア工業化戦略 【1次産品輸出】【輸入代替工業化】【輸出志向工業化】
【雁行形態型発展】
- 4回 技術の蓄積 【人的資本】【外国からの技術移転】【研究開発推進】
- 5回 開発主義と開発独裁 【政府の役割】【開発独裁】【開発政策の制度化】
- 6回 成長の前史 【植民地解放後】【経済援助】【朝鮮戦争】
- 7回 1960年代の韓国経済 【輸出志向工業化】【経済開発5カ年計画】
- 8回 1970年代の韓国経済 【重化学工業化】【重工業化宣言】【セマウル運動】【財閥】
- 9回 1980年代の韓国経済 【構造調整】【三低現象】【ソウルオリンピック】【台湾との比較】
- 10回 1990年代の韓国経済 【文民政権】【世界化・先進国化】【OECD加盟】
- 11回 アジア通貨危機の経緯 【21世紀型危機】【資本自由化】【通貨アタック】
- 12回 韓国におけるIMF危機 【総合金融会社】【IMF救済融資】
- 13回 通貨危機に対する国際的対応策 【コンディショナリティ】【ASEAN+3】【通貨スワップ】
- 14回 東アジアにおける経済統合の動向 【ASEAN】【APEC】【日本の戦略】【地方の取組】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 学期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

専門教育科目
選択科目
専門科目

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 4年次
/Year

単位 8単位
/Credits

学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代朝鮮の国際関係、韓国と北朝鮮という分断国家の成立、そして、その後、冷戦期、冷戦後の両国の国際関係について理解を深めることを狙いとする。近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であり、その経緯を学ぶことで、国際政治に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

- 鈴木英夫・吉井哲編著『歴史にみる日本と韓国・朝鮮』明石書店、1999年
 - 姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
- (注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋<文春文庫>、2000年。その他、授業で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 近代日本と朝鮮①：アヘン戦争、日清戦争など
- 3回 近代日本と朝鮮②：日露戦争、韓国併合など
- 4回 日本の朝鮮植民地支配①：植民地経営政策など
- 5回 日本の朝鮮植民地支配②：反日運動、在日朝鮮人問題など
- 6回 日本の朝鮮植民地支配③：皇民化政策など
- 7回 日本の朝鮮植民地支配④：戦争への朝鮮人動員など
- 8回 戦後、冷戦期の朝鮮半島①：分断国家の誕生など
- 9回 戦後、冷戦期の朝鮮半島②：朝鮮戦争など
- 10回 戦後、冷戦期の朝鮮半島③：日韓国交正常化、韓国の経済発展など
- 11回 戦後、冷戦期の朝鮮半島④：日韓歴史問題、日朝関係など
- 12回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島①：韓国の民主化、冷戦終焉の韓国・北朝鮮への影響など
- 13回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島②：北朝鮮の大量破壊兵器開発問題
- 14回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島③：日朝関係(拉致問題、国交正常化問題など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (東南アジア) 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在11カ国で構成される東南アジアについて、各国の現在の概況と歴史を理解する。また、東南アジアを事例とした政治学、経済学、文化人類学など様々なディシプリンにおける代表的な研究をおさえ、東南アジアから世界を見る視点を養う。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回~4回東南アジア国家のプロフィール
- 5回 歴史的背景(1)港市国家の形成と外来文明との接触【港市国家、インド文明】
- 6回 歴史的背景(2)交易の時代【朝貢貿易、華人/ムスリム商人、イスラム教の受容】
- 7回 歴史的背景(3)植民地時代【帝国主義、徴税請負制、アジア間貿易】
- 8回 歴史的背景(4)脱植民地・国民国家形成の時代【独立、革命、交渉】
- 9回 ナシヨナリズム、エスニシテイ【「想像の共同体」】
- 10回 政治体制と民主主義【開発独裁、権威主義、民主化、ポリテイカル・エコノミー】
- 11回 宗教と社会【仏教、イスラム教、キリスト教】
- 12回 ムラの論理から人類をとらえる【モラル・エコノミー論、劇場国家論】
- 13回 文学・文化・芸能
- 14回 東南アジアと日本【からゆきさん、南進論、福田ドクトリン、日系企業進出】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライドを適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【伝統の創造】【帝国】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスの家族関係は危機にある【王室】【フォーリガン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。ピューリタニズム、共和主義、自由主義、民主主義、保守主義といった政治文化から、人種差別、女性差別といった人権を侵害するものまで取り扱う。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス【アメリカとは何か】
- 第2回現代アメリカ社会の概観【現代アメリカ社会】
- 第3回英領アメリカ社会の文化【ピューリタニズム】【新世界】【無垢性】
- 第4回独立革命と共和主義【自由】【共和主義】
- 第5回19世紀アメリカの形成と民主主義【民主化】【フロンティア】
- 第6回自由主義社会と市場革命【超越主義】【プラグマティズム】
- 第7回南北戦争と奴隷制問題【奴隷制】
- 第8回フェミニズムの諸相【フェミニズム】
- 第9回20世紀アメリカ社会の形成【移民】【都市化】【産業化】
- 第10回大衆社会と消費文化【ジャズエイジ】【大衆社会】【消費文化】
- 第11回世界戦争と人権意識【世界戦争】
- 第12回公民権運動と権利革命【黒人運動】【若者文化】
- 第13回保守主義とは何か【保守主義】
- 第14回21世紀アメリカの文化【現代アメリカ社会】
- 第15回授業の総括

。

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治I,II, III, IVであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ社会を総体として理解できるようになります

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論について学習する。国際関係を分析する上で基本的かつ重要な概念を理解し、各自が国際関係を多様な角度からとらえられるような分析視角を習得することがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

主に以下の文献を利用する。
山田高敬・大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年。
原彬久(編)『国際関係学 講義(第3版)』有斐閣、2006年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○John Baylis and Steve Smith (eds.) The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, 4th ed. Oxford University Press, 2008.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際関係学の誕生と展開【理想主義】、【現実主義】、【理論】
- 2回 国際社会の特徴【政治】、【アナーキー】、【主権国家】
- 3回 国際関係の分析視角【リベラリズム】、【リアリズム】、【コンストラクティビズム】
- 4回 国際政治体制の変遷【冷戦】、【歴史の終焉】、【文明の衝突】、【ポスト冷戦】
- 5回 政治体制と国際安全保障【安全保障のジレンマ】、【相互確証破壊】
- 6回 安全保障問題(1)：大量破壊兵器の管理【NPT】、【PTBT】、【CTBT】
- 7回 安全保障問題(2)：人間の安全保障【人道的介入】、【国際テロ】
- 8回 リアリズム【パワー】、【勢力均衡】、【集団安全保障】
- 9回 ネオ・リアリズム【ウォルツ】、【囚人のジレンマ】、【相対利得問題】
- 10回 リベラリズムとネオ・リベラリズム【国際レジーム】、【民主主義平和論】
- 11回 国際経済体制【ブレトンウッズ体制】、【IMF】、【IBRD】、【GATT】、【WTO】
- 12回 国際協力をめぐる理論【サミット】、【G7/8/20】
- 13回 コンストラクティビズム【観念的要素】、【社会構造】、【相互構築性】
- 14回 地域統合・地域経済協力【EU】、【FTA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト・参考文献の講読は授業内容を理解する上で必要不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観する。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析する。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養う。

教科書 /Textbooks

宮脇昇・庄司真理子編著『グローバル公共政策(改訂版)』晃洋書房、2010年。
池尾靖志編著『平和学をつくる』晃洋書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済—「グローバル・イシュー」の解説と資料』
有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 暴力と平和【直接的暴力】、【構造的暴力】、【文化的暴力】
- 第2回 国際システムの展開【集団安全保障】【集団的自衛権】
- 第3回 ポスト冷戦期の国際システム【国内紛争】
- 第4回 9・11後の世界【テロとの戦い】
- 第5回 大量兵器不拡散レジーム【核不拡散レジーム】、【包括的核実験禁止条約】
- 第6回 小型武器問題とNGOの活躍【クラスター爆弾禁止条約】、【対地雷禁止条約】
- 第7回 累積債務問題【石油危機】、【構造調整】
- 第8回 貧困問題【南北問題】、【人間開発】
- 第9回 持続可能な開発【ブルントラント委員会】、【リオ・サミット】
- 第10回 地球温暖化防止レジーム【京都議定書】、【ポスト京都議定書】
- 第11回 人権の主流化【国連人権理事会】
- 第12回 国際人道法違反とそれへの対応【民族浄化】、【国際刑事裁判所】
- 第13回 ジェンダーの視点で捉える暴力【ジェンダー・エンパワーメント】
- 第14回 私たちの暮らしと国際関係【フェア・トレード】、【100円ショップ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際関係を学ぶ上で最低限必要な心構えとして、日頃からネット上ではなく、紙媒体の新聞に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅲ【昼】

担当者名 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か，国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか，こうした問題を，建国期から19世紀前半までのアメリカ外交の展開を中心に，外交思想，政策決定過程，人物に焦点をあてて概説する

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 4回 外交とは何か、ヨーロッパの「古典」外交、アメリカ外交とイデオロギー
- 5回 - 7回 アメリカ外交の原型 - 反英抗争と独立革命 -
- 8回 - 10回 ジャクソン期における政治転換
- 9回 - 12回 孤立主義と膨張主義の形成
- 13回 - 14回 南北戦争への道
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅳ【昼】

担当者名 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か，国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか，こうした問題を，19世紀半ばからのアメリカ外交の展開を中心に，外交思想，政策決定過程，人物に焦点をあてて概説する。またその際，我が国との関わりについても，折に触れて考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 19世紀アメリカ外交の「二つの顔」
- 4回 - 6回 日米外交の黎明
- 7回 対ラテンアメリカ外交
- 8回 - 9回 世界強国への道
- 10回 - 12回 20世紀のアメリカ外交への視点 - 第一次世界大戦とウィルソンの国際主義 -
- 13回 - 14回 第2次世界大戦
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1学期に、「アメリカの政治Ⅲ」を受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論I 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア地域秩序の過去と現在を論じ、将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望すること。この講義I(前期)の授業では、東アジア三国(日本、中国、朝鮮・韓国)の伝統(前近代)と近代の「地域秩序」を考察する。教科書の第1章は東アジアの「伝統的」国際秩序(華夷秩序)を取り扱っているが、それを通して華夷秩序の原理・実像を再解釈し、その「近代的」変容を検討する。そして近代以降の東アジア地域秩序の現状を考察する。講義全体のキーワードは、【アジアからの視点】【文明論的な視点】。

教科書 /Textbooks

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007、2600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 濱下武志編『東アジア世界の地域ネットワーク』山川出版社、1999
- 茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997
- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』九州大学出版会、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。

1回	テキストの概説、授業の方針		
2~3回	第I部の第1章	4~5回	第I部の第2章
6~7回	第I部の第3章	8~9回	第I部の第4章
10~11回	第II部の第5章	12回	第II部の第6章
13回	第II部の第7章	14回	第II部の第8章
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、2~3回のレポート、授業への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア地域秩序の現代を論じ、将来の東アジア地域秩序を構想すること。この講義II(後期)の授業では、前期の講義Iを土台にし、現代東アジア国際政治の形成と展開を考察する。教科書の終章では「グローバル化時代の東アジア」を取り扱っているが、それを通して「東アジア共同体論」をも検討する。講義全体のキーワードは、【アジアからの視点】【文明論的な視点】【東アジア共同体】。

教科書 /Textbooks

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007、2600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 濱下武志編『東アジア世界の地域ネットワーク』山川出版社、1999
- 茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997
- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』九州大学出版会、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。

- 1回 前期の講義Iの概説
- 2～3回 第III部の第9章 4～5回 第III部の第10章
- 6～7回 第III部の第11章 8～9回 第III部の第12章
- 10～14回 第III部の終章と補足(「東アジア共同体論」)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、2～3回のレポート、授業への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、ASEAN (東南アジア諸国連合) を中心テーマとする。ASEANは、東南アジア諸国間の相互信頼の醸成と、大国に翻弄されることなく東南アジアの将来を方向づけることにおいて、大きな役割を果たしてきた。今日では、アジア太平洋の地域秩序の形成における中核的存在である。ASEANの展開を抑えることで、東南アジアおよびアジア太平洋の国際関係を学ぶ。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 ASEAN前夜(1) 地域協力機構の構想【ASA(東南アジア連合)】
- 4回 ASEAN前夜(2) 地域紛争解決の試み【マフィリンド、サバ領有権問題、対決政策】
- 5回 ASEANの成立【ASEAN設立宣言(バンコク宣言)】
- 6回 域外国に対するASEANの団結【ASEAN-EEC協力条約、合成ゴム問題】
- 7回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(1)【ベトナム戦争】
- 8回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(2)【カンボジア紛争】
- 9回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大【ASEANテン】
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み【AFTA】
- 11回 ASEANの国際経済秩序形成への参画【APEC】
- 12回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画【ARF】
- 13回 「東アジア共同体」への関わり【ASEAN+3、EAS】
- 14回 日本・ASEAN関係【EPA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。日韓関係に関しては、主に、靖国問題、従軍慰安婦問題、強制連行問題、教科書問題などの歴史問題について検討し、日朝関係に関しては、国交正常化問題、拉致問題、安全保障問題について検討する。尚、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題に関しては、「韓国・北朝鮮の政治外交II」で更に詳しく検討する。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房<ちくま新書>、2005年。その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。朝鮮半島と日本との近現代史の概要①
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要②
- 3回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要③
- 4回 冷戦後の日韓関係①：日韓関係の概要
- 5回 冷戦後の日韓関係②：歴史問題①：概要(強制連行問題など)
- 6回 冷戦後の日韓関係③：歴史問題②：従軍慰安婦問題①
- 7回 冷戦後の日韓関係④：歴史問題③：従軍慰安婦問題②
- 8回 冷戦後の日韓関係⑤：歴史問題④：日韓交渉の記録開示からの考察①
- 9回 冷戦後の日韓関係⑥：歴史問題⑤：日韓交渉の記録開示からの考察②
- 10回 冷戦後の日朝関係①：日朝関係の概要
- 11回 冷戦後の日朝関係②：国交正常化交渉の始まりと中断(拉致問題、核問題との関係)
- 12回 冷戦後の日朝関係③：日朝首脳会談
- 13回 冷戦後の日朝関係④：核問題の再燃と拉致問題を巡る日朝関係の悪化
- 14回 冷戦後の日朝関係⑤：日朝関係改善の方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
詳細は第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後本格化した北朝鮮の核兵器や弾道ミサイルなどの大量破壊兵器開発問題に焦点を当て、その背景と、日韓米中露の対応とその問題点を検討し、この問題についての理解を深めるとともに、北東アジアの国際政治についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

○リッツ・ピース・メッセンジャーズ『北朝鮮の核実験をどう見るか』かもがわ出版、2006年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ドン・オーバードーフアー『二つのコリア：国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2002年
○船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。北朝鮮の核開発問題の概要
- 2回 冷戦の終焉と韓国・北朝鮮の国際関係の変化
- 3回 北朝鮮の核開発とミサイル開発問題(第1次核危機の発生)
- 4回 核危機の収束：米朝枠組み合意
- 5回 南北関係と日朝関係の改善：南北首脳会談、日朝首脳会談
- 6回 北朝鮮の核開発問題の再燃(第2次核危機)
- 7回 6カ国協議の始まり
- 8回 米朝対立の悪化と北朝鮮の核実験
- 9回 6カ国協議の進展と中断
- 10回 オバマ政権と第2回目の核実験
- 11回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応①
- 12回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応②
- 13回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応③
- 14回 北朝鮮の核・ミサイル問題の解決方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。「国際法II」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
第I部「国際社会における法律作り」
第2回 条約の締結 第3回 条約の留保
第4回 条約の無効 第5回 中間試験①
第6回 解説と講評&個別指導
第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」
第7回 慣習国際法 第8回 条約と第三国
第9回 条約の国内的効力 第10回 中間試験②
第11回 解説と講評&個別指導
第III部「国際社会における秩序の維持」
第12回 国際責任 第13回 武力行使の禁止と自衛権
第14回 紛争の平和的解決義務と国際司法裁判所(ICJ) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。「国際法I」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第I部「国際法上の国家」
- 第2回 国家と承認制度 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務 第5回 中間試験①
- 第6回 解説と講評&個別指導
- 第II部「陸・海・空と国際法」
- 第7回 陸と国際法 第8回 海と国際法
- 第9回 空と国際法 第10回 中間試験②
- 第11回 解説と講評&個別指導
- 第III部「国際法主体としての個人」
- 第12回 人権の国際的保障 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、貿易、直接投資および多国籍企業、国際通貨・国際金融など世界経済を成り立たせている主要な経済活動分野について学習していく。

教科書 /Textbooks

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松村文武・関下稔・藤原貞雄・田中素香編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 図表で見た世界経済の概観
- 2回 国際貿易システムの課題 1 【19世紀】【戦後】
- 3回 国際貿易システムの課題 2 【WTOの成立と機能】
- 4回 国際貿易システムの課題 3 【WTOの諸課題】【FTA・EPA】
- 5回 国際貿易の基本構造 1 【貿易の基本的原理】【交易条件】
- 6回 国際貿易の基本構造 2 【要素賦存】【産業内貿易】
- 7回 海外直接投資と多国籍企業 1 【直接投資と多国籍企業の現状】【直接投資の目的】
- 8回 海外直接投資と多国籍企業 2 【多国籍企業の行動様式】【M&A】
- 9回 世界経済の中のIT産業 【IT革命の影響】【IT産業の世界展開】
- 10回 国際収支と外国為替 1 【国際収支】【国際収支とマクロバランス】
- 11回 国際収支と外国為替 2 【外国為替市場】【為替レート】
- 12回 金融のグローバル化と国際通貨システム 1 【ブレトンウッズ体制】
【変動相場制への移行】
- 13回 金融のグローバル化と国際通貨システム 2 【国際金融市場】
- 14回 金融のグローバル化と国際通貨システム 3 【金融のグローバル化】【国際金融危機】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、世界経済を構成している発展途上国と先進諸国の経済を概観し、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松村文武・関下稔・藤原貞雄・田中素香編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 南北間格差から見た世界経済の概観
- 2回 グローバル化の中の経済開発問題1 【開発戦略】【ビッグプッシュ】【構造調整】
- 3回 グローバル化の中の経済開発問題2 【途上国間の格差】【人間開発】
- 4回 グローバル・イシューと国際レジーム1 【南北問題】【グローバル化の非対称性】
- 5回 グローバル・イシューと国際レジーム2 【地球環境問題】【環境問題での非対称性】
- 6回 グローバル・イシューと国際レジーム3 【ミレニアム開発目標】
【ワシントン・コンセンサス】【貧困削減レジーム】【グローバルガバナンス】
- 7回 「東アジアの奇跡」とその教訓 【東アジアモデル】【アジア通貨危機】【BRICs】
- 8回 アジアにおける地域経済圏1 【アジア経済の発展】【ガット/WTOと地域統合】
- 9回 アジアにおける地域経済圏2 【AESAN】【APEC】【日本の対アジア戦略】
- 10回 ヨーロッパ経済の現状と課題1 【地域統合の歩み】【ユーロの導入】
- 11回 ヨーロッパ経済の現状と課題2 【ユーロ導入後のヨーロッパ経済】【失業問題】
【ヨーロッパの社会モデル】
- 12回 アメリカ経済の現状と課題 【ニューエコノミー】【サブプライム】
- 13回 国際観光と国際労働力移動1 【国際観光の現状】【新しい国際観光の形態】
【社会的・経済的効果】
- 14回 国際観光と国際労働力移動2 【国際労働力移動の現状】【社会的・経済的効果】
【日本における外国人労働者問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

めまぐるしく変化する現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマはといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。この講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかって欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい
第2回～4回 担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 【バングラデシュ】
第5回～6回 開発論の歴史：成長概念と貧困概念を中心に 【成長】【貧困】【SD】
第7回～8回 開発論の課題：人口増加と資源・環境問題 【人口増加】【環境問題】
第9回～10回 途上国での農村・農業問題 【農村】
第11～12回 世銀の開発方針とNGO 【世銀】【NGO】
第13～14回 途上国での都市問題と社会開発 【都市問題】【社会開発】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...?

授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりと交え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 アメリカの産業と所得 | 2 アメリカの所得分配と社会保障 |
| 3 アメリカ家計の消費と貯蓄 | 4 アメリカの社会階層と失業 |
| 5 アメリカ企業と収益 | 6 アメリカ企業と投資 |
| 7 アメリカ政府と税制 | 8 アメリカの政府支出と財政 |
| 9 アメリカの通貨制度 | 10 アメリカの金融システム |
| 11 アメリカ経済と金利 | 12 アメリカの国際収支 |
| 13 アメリカ経済と為替レート | 14 アメリカ経済と物価 |
| 15 アメリカの経済成長と景気 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績を8割、レポートを2割で評価します。定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはずですよ。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 藤永 康政 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種民族関係について、主に黒人の経験に焦点をあてながら歴史的に概観する。また、歴史的現象のみならず、おおよそ一か月に一回の割合で今日のアメリカの政治社会問題について、それがいかなる歴史的経験に基づいているものなのかを考察しながら、アメリカ社会をより深く理解することを目指す。授業では、適宜映像資料を用いる。また、参考文献や映画等の映像については授業にて指示するが、受講者は機会を見てそれらに触れあっておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波文庫、1991年）：マイケル・エリック・ダイソン著『カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ 格差社会で起きた最悪の災害』（P-Vine Books、2008）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

バラク・オバマ『マイ・ドリーム—バラク・オバマ自伝』（ダイヤモンド社、2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：アメリカにおける黒人の歴史【概説】
- 3回：比較奴隷制史と社会構築論入門
- 4回：アメリカ時事問題1：現代アメリカの社会政治問題解説
- 5回：アメリカ憲法と政治制度
- 6回：アンテベラム南部と南北戦争
- 7回：南部再建期
- 8回：理解度総点検（これまでの総復習：質問とそれらへの応答）
- 9回：アメリカ時事問題2：現代アメリカの社会政治問題解説
- 10回：デュボイス・ワシントン論争—黒人進歩の「戦略」
- 11回：第一次世界大戦と黒人の「生活圏」の変容
- 12回：公民権運動
- 13回：ブラック・ナショナリズムと第三世界
- 14回：「バラク・オバマ」という現象—黒人大統領誕生の歴史的意味
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 60% 小レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜小レポートを求められることがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【昼】

担当者名 藤永 康政 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「1960年代のアメリカ」は、現代アメリカ社会を理解するに必要不可欠である社会政治運動が激しく展開された時代である。本講義ではこの時代の諸運動を歴史的に考察することを通じ、現代アメリカ社会への理解を深めることを目的とする。授業では、適宜映像資料を用いる。また、参考文献や映画等の映像については授業にて指示するが、受講者は機会を見てそれらに触れあっておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）；マイケル・エリック・ダイソン著『カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ 格差社会で起きた最悪の災害』（P-Vine Books、2008）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

トリーシャ・ローズ『ブラック・ノイズ』（みすず書房、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：1960年代論【概説】
- 3回：「長い公民権運動」とアメリカ社会史概論
- 4回：アメリカ時事問題1：現代アメリカの社会政治問題解説
- 5回：人種隔離の今日：ブラウン判決がもたらしたもの
- 6回：黒人の運動と学生の運動の接点
- 7回：ミシシッピの運動の衝撃と「リベラリズムの欺瞞」
- 8回：「ブラック・パワー」：急進化する黒人の運動
- 9回：ベトナム反戦
- 10回：アメリカ時事問題2：現代アメリカの社会政治問題解説
- 11回：「長く暑い夏」：60年代の都市暴動
- 12回：1968年大統領選挙と「白人の巻き返し」
- 13回：アメリカの「文化戦争」
- 14回：ヒップホップのアメリカ
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 60% 小レポート... 30%
平常の学習状況(質問を担当教員に行うことも含む)... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜小レポートを求められることがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、輸入品と関係なしに暮らすことはできない。このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のものは使用しないよう努力する。講義全体のキーワードは、自由貿易と保護貿易である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 自由貿易への批判
- 3回 自由貿易の必要性
- 4回 自由貿易の歴史【A.スミス】【D.リカード】【穀物法】
- 5回 重商主義の問題点
- 6回 絶対優位【A.スミス】【2国2財1生産要素モデル】
- 7回 比較優位【D.リカード】【2国2財1生産要素モデル】
- 8回 比較優位成立の確認
- 9回 貿易利益：計算を用いて
- 10回 貿易利益：図を用いて【無差別曲線】【生産可能性曲線】
- 11回 ヘクシャー＝オリー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 12回 リプチンスキー定理【2国2財2生産要素モデル】
- 13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 14回 ストルパー＝サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのか尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。講義全体のキーワードは、合理的な選択と非合理的な選択である。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルのものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情（中国での反日デモ）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (中国) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

建国から60年を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。授業では、経済格差や少数民族など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会における中国の位置づけについて考える。

教科書 /Textbooks

国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 20世紀の中国を概観するI
- 3回 20世紀の中国を概観するII
- 4回 共産党一党独裁の政治経済体制を概観する
- 5回 13億人国家の経済・社会
- 6回 発展と格差
- 7回 中華民族と少数民族
- 8回 人々の暮らし
- 9回 アジアの中の中国
- 10回 台湾の人々と政治
- 11回 日中関係
- 12回 米中関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 国際社会と中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

池田誠・安井三吉等著『図説中国近現代史(新版)』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)
- 3回 大清帝国素描(2)
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... % ... %
試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前にテキストに目を通して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近現代史II 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

池田誠・安井三吉等著『図説中国近現代史(新版)』(法律文化社)
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)
- 9回 日中全面戦争とアジア太平洋戦争
- 10回 日中全面戦争とアジア太平洋戦争
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 戦後の日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... % ... %
試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論I【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、特に中国語の音声、文字、語彙について論ずる。

教科書 /Textbooks

『中国語学概論』（王占華他編著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、言語学の基礎知識
- 2回 中国語とはどんな言語か(概説)：中国語の特徴、歴史、共通語と方言
- 3回 中国語と日本語
- 4回 中国語の音声1：言語学における音とは
- 5回 中国語の音声2：母音・声調
- 6回 中国語の音声3：複母音・子音
- 7回 中国語の音声4：中国語の音節構造・綴りの規則
- 8回 中国語の音声5：音変化、多音語、異読語
- 9回 音声のまとめ
- 10回 中国語の文字1：文字と言葉
- 11回 中国語の文字2：漢字の起源と変化
- 12回 中国語の文字3：漢字の構造、簡体化と規範化
- 13回 中国語の語彙1：語彙の形成、語の構造、形態素、語
- 14回 中国語の語彙2：語の意味、同音語、異形語、同形語
- 15回 文字・語彙のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・課題...70% 平常点(出席・受講態度等)...30%
出席・課題が全体の3分の1に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は原則として講義形式で行うが、内容によってはグループ討論を取り入れる。また、ほぼ毎回、予習や課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現について論ずる。

教科書 /Textbooks

『中国語学概論』（王占華他編著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語の文法1：文法基礎知識
- 2回 中国語の文法2：中国語の品詞1
- 3回 中国語の文法3：中国語の品詞2
- 4回 中国語の文法4：フレーズと文法関係1
- 5回 中国語の文法5：フレーズと文法関係2
- 6回 中国語の文法6：文1
- 7回 中国語の文法7：文2
- 8回 文法のまとめ
- 9回 中国語の表現1：情報構造
- 10回 中国語の表現2：数量表現
- 11回 中国語の表現3：呼称
- 12回 中国語の表現4：省略
- 13回 中国語の表現5：文のリズム
- 14回 中国語とコンピューター
- 15回 表現のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・課題...70% 平常点(出席・受講態度等)...30%
出席・課題が全体の3分の1に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は原則として講義形式で行うが、内容によってはグループ討論を取り入れる。また、ほぼ毎回、予習や課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音声学I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

はじめて中国語を学ぶ学生を対象に、一般音声学と中国語音声学の基本的事項および中国語の発音法を講義する。中国語の発音が日本語や英語の発音とどのように異なっているかをよく理解する。

教科書 /Textbooks

使用するテキストはないが、毎回講義資料をプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川上 薫 『日本語音声概説』 おうふう、1977年
- 日下 恒夫 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 アルク、2007年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 音声学入門(1) -- 調音器官の名称および発音のメカニズム
- 第2回 音声学入門(2) -- 言語音のローマ字表記と国際音声記号
- 第3回 音声学入門(3) -- 子音の種類(調音点による)とその調音法
- 第4回 音声学入門(4) -- 母音の種類(基本母音を中心に)とその調音法
- 第5回 音声学入門(5) -- アクセント・イントネーション・プロミネンスなど
- 第6回 中国語のピンインローマ字とその表記規則
- 第7回 声母に用いられる子音 -- 無気音と有気音、捲舌音・舌面音・舌尖音など
- 第8回 韻母に用いられる母音 -- とくに単母音と二重母音を中心に
- 第9回 韻母の構成成分(介音・主母音・韻尾)による韻母の分類(四呼など)
- 第10回 中国語の音節一覧表と音節構成(声母と韻母の結合方式)
- 第11回 声調(第1声~第4声)の発音法と第3声の複雑な声調変化について
- 第12回 「一」「不」の特殊な声調変化、A B B・A A B B式形容詞等の声調変化
- 第13回 軽声音節(固有の声調を失った音節)とその語彙的・文法的用法
- 第14回 兒(アル)化音節の作り方と発音法、アル化の語彙的作用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題提出... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

はじめに言語音声一般に関する基礎的、概略的知識を習得する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音声学II 【昼】

担当者名 佐藤 昭 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語音声学Iで学んだ知識を基礎とし、さらに進んで中国語音声学で扱われるさまざまな分野の事項をやや専門的に概説する。また日本人の中国語発音の弱点をも考察する。

教科書 /Textbooks

毎回の講義資料をプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小泉保『音声学入門』 大学書林、1996年
林芳『朗読中国語』 好文出版、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語の音節構造(拍と音節)と中国語の音節構造の比較
- 第2回 中国語の単語アクセント(2字単語と3字単語)と文の区切り方
- 第3回 中国語のイントネーションとストレスアクセント
- 第4回 中国語における「重読」「軽読」という発音現象
- 第5回 語気助詞aの発音といくつかの感嘆詞の発音
- 第6回 中国語の早口ことばによる発音練習と擬声語(擬音語)
- 第7回 中国語(共通語)の標準発音と北京の方言発音
- 第8回 中国の各地方言発音の比較—数詞(1~10)のよみ方を中心に
- 第9回 中国の詩歌(古典詩)の朗読・暗誦と詩の押韻法について
- 第10回 中国語の多音多義字(一字二音を中心に)と異読詞
- 第11回 中国の方言音(1)—広東語の発音と唐詩「春曉」を広東語で読む
- 第12回 中国の方言音(2)—福建語の発音と唐詩「春曉」を福建語で読む
- 第13回 中国の古代漢字音(唐代音)と日本漢字音(呉音・漢音)の関係
- 第14回 中国語の古代音と現代音—古今の発音の相違、言語音の変遷について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題提出... 30% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語の音声だけでなく、日本語の音声、英語の音声にも興味と関心を持ってもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化研究 A 【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化研究B 【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化演習 A 【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化演習B 【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 小川 郁夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語学習の動機付け、及び入門・初級教育における発音指導について検討する。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲持続に大きな影響力を持つ。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学力習得を左右する。講義ではまず学習者をいかにして楽しく積極的な学習に導くかについて考え、その後に発音指導をどのような順序でどのように行うかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語入門教授法』(長谷川良一著、東方書店)
- 『中学校学習指導要領：外国語』『高等学校学習指導要領：外国語』(文部科学省)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【中国語科教育法】【発音教育】
- 2回 中国語という言葉について【中国語概説】
- 3回 日本における中国語教育の現状【高校中国語】
- 4回 学習指導要領について【学習指導要領】、中国語学習の動機付け【動機付け】
- 5回 発音指導の順序と方法【発音概説】、学習指導案について【学習指導案】
- 6回 声調に関する問題点【声調】
- 7回 基本母音に関する問題点【基本母音】
- 8回 子音に関する問題点【子音】
- 9回 中国語音節全表に関する問題点【音節全表】
- 10回 変調に関する問題点【変調】
- 11回 声調に関する模擬授業【話し方】
- 12回 基本母音に関する模擬授業【板書】
- 13回 子音に関する模擬授業【アイコンタクト】
- 14回 変調に関する模擬授業【教室の雰囲気】
- 15回 まとめ：模擬授業の検討会【検討会】、レポート作成指導【レポート作成法】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)50%、 レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法II 【昼】

担当者名 /Instructor 小川 郁夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語学習におけるピンインの役割、ピンインによる分かち書きの方法、及び初級教育における文法指導について検討する。中国語の初級学習者にとってピンインの果たす役割は大きい。しかし、ピンインは様々な問題点を含んでいる。講義ではまずピンインに関する問題点を取り上げ、その後に初級教育においてどのような文法事項をどのように指導するかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論 [改訂版] 』(王占華他編著、駿河台出版社)
- 『中学校学習指導要領：外国語』『高等学校学習指導要領：外国語』(文部科学省)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【ピンイン】【文法教育】
- 2回 ピンインの概説【漢語ピンイン方案】
- 3回 ピンインの諸問題【漢語ピンイン正詞法基本規則】
- 4回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む①【語の認定】
- 5回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む②【轻声表示】
- 6回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む③【大文字】
- 7回 ピンイン表記の練習【分かち書き】
- 8回 初級教育で扱う文法事項の選定と指導方法【文法概説】
- 9回 文法教育に関する問題点【初級文法】
- 10回 年間授業計画表について【年間授業計画表】
- 11回 “是”を用いる文の模擬授業【新たな動機付け】
- 12回 “在”を用いる文の模擬授業【生徒の意欲持続】
- 13回 数詞を用いる文の模擬授業【アイコンタクト】
- 14回 “過”を用いる文の模擬授業【教室の雰囲気】
- 15回 まとめ：模擬授業の検討会【検討会】、レポート作成指導【レポート作成法】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)50%、 レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】 【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】 【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】 【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】 【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】 【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】 【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】 【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】 【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】 【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】 【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】 【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】 【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」をことさらに語るには、どのような効力があるのだろうか。誰が何時、何を「文化」と名づけて、どのように語り、どのような意味と価値を生み出したのか。そこにどのような政治的な効力があるのかをよみとり、「文化と政治」という問題を検討したい。

具体的には、①日本の国民国家形成期である明治期、②総力戦の体制を構築した昭和初期、そして③現代の文化財保護等における、「文化」という名づけと、多様な「資源化」の政治を検討する。

また講義期間中に、外部講師による講義で、日本以外のフィールドを扱うことを予定している。

ビジョン科目「人間と文化」を前提に講義するので「人間と文化」を履修していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

必要な資料は講義中にプリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「文化」を語るとは？【文化】【国民国家】
- 2回～5回 国民国家・日本の形成と「文化」の政治 : 「美術」と「文学」という近代
【明治期・日本】【内国勸業博覧会】【言文一致】【国民文学】
- 6回～9回 動員の政治と「文化」 : 大政翼賛会文化部の活動から【地方文化運動】
- 10回～13回 資源として「文化」・商品としての「文化」 【文化財保護行政】【観光】
- 14回 文化について学ぶとは
- 15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート80% 授業内小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 中溝 幸夫 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼球運動研究の基礎知識：読みと眼球運動(1)：(中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているか：読みと眼球運動(2)：(中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか：言語活動の認知神経科学入門(中溝)
- 第5回 未定
- 第6回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得(漆原)
- 第7回 ことばはどのように失われるのか：脳科学と失語症・失文法(漆原)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子(日高)
- 第9回 特別講義(外部講師)
- 第10回 概念と言葉：概念におけるプロトタイプ効果など(ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か：隠喩論(ストラック)
- 第12回 両義性と仄めかし：アイコン性、phonaesthemesなど(ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性(杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論(杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...16%×5
5名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～8回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体のイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。
この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察しつつ、「生活世界」と「自己」のつながりをさらに掘り下げて分析する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本の身体のイメージI
- 3回 日本の身体のイメージII
- 4回 古代ギリシャの身体観I
- 5回 古代ギリシャの身体観II
- 6回 キリスト教共同体と身体I
- 7回 キリスト教共同体と身体II
- 8回 文学作品の中の身体
- 9回 近代社会の勃興と心身二元論
- 10回 現象学的身体論
- 11回 日本の身体のイメージIII
- 12回 現代社会と身体問題の変容I
- 13回 現代社会と身体問題の変容II
- 14回 現代社会と身体問題の変容III
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。事前の準備はとくに必要ないが、抽象的な議論が苦手な人には登録を勧めない。
なお、受講者の理解度をモニターすることで、内容を平易なものに変える可能性がある。その場合にはスケジュールどおりにならないことをあらかじめ了承願いたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 梶 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。講義全体のキーワードは「働くこと」「成長の秘訣」「将来のキャリア」です。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路を絞り込んでいる人は、どんな準備をすれば良いかが理解できます。将来の自分の進路がイメージできない人は、世の中の仕事の現実を知るチャンスです。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロフェッショナル人材の講演【働くこと】【成長の秘訣】【将来のキャリア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポート60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※第1回と最終回以外すべて社会人ゲストによる公演です(事情によりビデオになる場合あり)。
- ※講演する社会人が所属する企業や仕事に関して必ず予習をしてください。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※2009年度企業：ジェイコム北九州、安川電機、門司港ホテル、TOTOインフォム、コクヨ、山口銀行。2010年度は公務員や教員、起業家、大企業の第一線で活躍する女性、地元で家庭と両立する女性などにも来て頂こうと思っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学論・学問論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 矢田 俊文 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから大学生活を送る新入生に対し、大学とはなにか、大学で何を学び、新しい時代をどのように生き抜くべきかについて、真剣に考える機会を提供することを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「知の時代」と学問・大学
- 3回 戦後大学史 新制大学と学生急増の時代
- 4回 戦後大学史 18歳人口減少と大学改革の時代
- 5回 北九州市立大学の改革 中期計画と大学運営
- 6回 北九州市立大学の改革 教育改革1 学部学科再編
- 7回 北九州市立大学の改革 教育改革2 学生生活支援
- 8回 北九州市立大学の改革 地域貢献
- 9回 大学生活を始めるにあたって-大学生活から学んだもの-
- 10回 企業に入り社会人となって
- 11回 企業とは何か-企業経営から学んだこと-
- 12回 世界を知る
- 13回 世界から学ぶ
- 14回 社会人となるための心構え-新しい時代を生き抜くために-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の感想文... 20% 総括レポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法が存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か【意味世界】、【解釈】
- 第2回 量的調査と質的調査【量的データ】、【質的データ】
- 第3回 調査と研究の進め方【記述の問い】、【説明の問い】
- 第4回 社会調査を企画する【個別面接調査】、【留置調査】、【郵送調査】
- 第5～8回 ワーディングと調査票の作成【ダブル・バーレル】、【キャリア・オーバー効果】、【パーソナル - インパーソナル】
- 第8～9回 サンプリング【母集団】、【標本】、【無作為抽出法】、【標本誤差】
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成【コーディング】、【カラム設計】、【データ・クリーニング】
- 第11回 分布と統計量【単純集計】、【代表値】、【分散】、【標準偏差】、【分位数】
- 第12回 検定の考え方【帰無仮説】、【第1種、第2種の誤り】
- 第13～14回 クロス表と相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」(1学期)と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

谷・山本編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

H.ザイセル『数字で語る 社会統計学入門』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト入手して授業に参加のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、生命科学に関する基礎的な知識を身につける。関連図書・文献を読み、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(1)
- 3回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(2)
- 4回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン。
- 2回 図書館の使い方。
- 3回 ノートの取り方。
- 4~5回 本の読み方。
- 6~10回 レジュメの作り方。
- 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
- 14回 総論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習I」は半期完結型の授業です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合は、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション(1)
- 2回 " (2)
- 3回 " (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 " (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション(1)
- 11回 " (2)
- 12回 " (3)
- 13回 " (4)
- 14回 " (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
 I(1学期)では、まず各自が「テーマ」を決める。さらに、その「テーマ」について「問い」をたてる。平行して、社会的な考え方、文献資料の調べ方等についても学ぶ。さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。
 報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
 その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2～5回 社会的なものの方・考え方 - 『知的複眼思考法』
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7～8回 情報収集の仕方(図書館データベース、国立国会図書館等の使い方)
- 第9回 「問い」のたてかた
- 第10～14回 実例 - 『「二ート」って言うな』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 課題... 40% 参加度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
 文献を読んでくこと、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに思想史上の古典に関する知識）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

教科書 /Textbooks

初回に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 西洋古典の教養について
- 3回 聖書に関する基礎知識I
- 4回 聖書に関する基礎知識II
- 5回 古代ギリシャを見直すI
- 6回 古代ギリシャを見直すII
- 7回 読解と討論I
- 8回 読解と討論II
- 9回 読解と討論III
- 10回 読解と討論IV
- 11回 読解と討論V
- 12回 課題テーマに関する発表I
- 13回 課題テーマに関する発表II
- 14回 課題テーマに関する発表III
- 15回 課題テーマに関する発表IV

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員ができるだけ多くの発言および発表の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
また、授業内で参照する資料に関しては、各自図書館でコピーしてくる必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 スキルチェック①
第3回 スキルチェック②	第4回 バレーボールとは
第5回 状況判断とポイント	第6回 戦術理解：レセプションフォーメーション&サービス
第7回 戦術理解：アタックフォーメーション	第8回 戦術理解：アタック&ブロックガードフォーメーション
第9回 戦術理解：ブロックインフォーメーション	第10回 戦術理解：ブロックシステム
第11回 ゲーム分析：対象チームのフォーメーション特徴	第12回 ゲーム分析：レセプション⇒攻撃のパターン・特徴
第13回 ゲーム分析：ディグ⇒攻撃のパターン・特徴	第14回 ケーススタディ
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことがあります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。

また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、教養基礎演習Iに引き続いて関連図書・文献を読み、科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身に付ける。身近な科学記事を選んで、研究内容についての自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年、池田清彦「寿命はどこまで延ばせるか？」PHP研究所2009年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (1)
- 3回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (2)
- 4回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介 (1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介 (2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介 (3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介 (4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介 (5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介 (6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表を含む) ... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン。
- 2回 図書館の使い方。
- 3回 ノートの取り方。
- 4~5回 本の読み方。
- 6~10回 レジュメの作り方。
- 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
- 14回 総論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
 便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習II」は半期完結型の授業です。「教養基礎演習I」をとっていない学生の履修を希望します。ご注意下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks
受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合は、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 " (2) 期間
- 11回 " (3) 金額
- 12回 " (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成
- 14回 " (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
 II(2学期)では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
 Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2~6回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第6回 第1回論文検討会
- 第7~11回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第10回 第2回論文検討会
- 第11~14回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第15回 論文報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15%課題(報告レジюмеと論文)...70%参加度...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
 文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることにある。1学期の内容に続く発展的テーマをめぐって討論を重ねたあと、参加者各人には特定のテーマ・関心に基づいたプレゼンテーションを行なってもらう。

教科書 /Textbooks

プリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 哲学論文の読み方I
- 3回 哲学論文の読み方II
- 4回 文学作品への思想的アプローチI
- 5回 文学作品への思想的アプローチII
- 6回 読解と討論I
- 7回 読解と討論II
- 8回 読解と討論III
- 9回 課題テーマに関する発表I
- 10回 課題テーマに関する発表II
- 11回 課題テーマに関する発表III
- 12回 課題テーマに関する発表IV
- 13回 課題テーマに関する発表V
- 14回 課題テーマに関する発表VI
- 15回 課題テーマに関する発表VII

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員に対して十分な発表の機会を確保するため、受講者の最大人数は15人までとする。
それを越える場合は受講者数調整をかける。
(※とくに履修制限は設けないが、このゼミは同担当者による「教養基礎演習I」の続きであることに留意されたい。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を、自チームの強化策や相手チームの攻略策の検討などを通じ、応用・実践していただこうと思います。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていただこうと思います。バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 グループ分けと対象チームの選定
第3回 情報の収集①	第4回 情報の収集②
第5回 収集した情報の分析①	第6回 収集した情報の分析②
第7回 収集した情報の分析③	第8回 強化策 / 攻略策の検討①
第9回 強化策 / 攻略策の検討②	第10回 強化策 / 攻略策の検討③
第11回 プレゼン資料の作成①	第12回 プレゼン資料の作成②
第13回 グループ発表①	第14回 グループ発表②
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきたい。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼におきます。

また、学内と離れた場所での野外活動(スキー実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につける。DNA 2重らせん発見を中心とした分子生物学黎明期における研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジェームズ・ワトソン『DNA』上(青木薫訳)講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子研究について基本事項の説明(1)
- 3回 遺伝子研究について基本事項の説明(2)
- 4回 遺伝子研究について基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 A II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 イントロダクション

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になりたいかな、と思っている人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

AIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 希望者による口頭発表I
- 14回 希望者による口頭発表II
- 15回 希望者による口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
授業前の準備事項として、バタイユという思想家がどのような人物なのかを辞書・辞典等で必ず調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につけるとともに、社会における意味を考える。ヒトゲノム計画以降の分子生物学発展期の研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上・下(青木薫訳)、講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲノム研究についての基本事項の説明(1)
- 3回 ゲノム研究についての基本事項の説明(2)
- 4回 ゲノム研究についての基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習AIIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。Iを履修できない場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習AI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習AI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

1学期(AI)に続くAIIでは、AIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15% 報告...15% 論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習 A I のつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習 A I)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 希望者による口頭発表I
- 13回 希望者による口頭発表II
- 14回 希望者による口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、関連図書・文献を通して、生命科学の基礎知識を得ると共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。その中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・染色体についての基本的説明(1)
- 3回 遺伝子・染色体についての基本的説明(2)
- 4回 遺伝子・染色体についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 イントロダクション

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習 A I・II」「教養演習 B II」とセットで履修することを希望します。A I・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。

BIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク-書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
 その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...25% 報告...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 口頭発表I
- 14回 口頭発表II
- 15回 口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
準備として、少なくともバタイユの作品のいずれかに触れておくこと。熱意ある学生の参加を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、教養演習 B II に引き続いて関連図書・文献を読み進め、生命科学や遺伝子研究の基礎を学ぶと共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。また、近年注目されている iPS 細胞についても勉強する。身近な科学記事を選んで、研究内容について自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、八代嘉美『iPS細胞』平凡社2008年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(1)
- 3回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(2)
- 4回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表 ... 30% 期末レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B I、教養特講義 IV もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。BIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習BI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習BI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。

1学期(BI)に続くBIIでは、BIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。

なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 15% 報告... 15% 論文... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習 B I のつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 1 学期 (教養演習 B I) の内容の復習
- 2 回 読解と議論 I
- 3 回 読解と議論 II
- 4 回 読解と議論 III
- 5 回 読解と議論 IV
- 6 回 読解と議論 V
- 7 回 読解と議論 VI
- 8 回 読解と議論 VII
- 9 回 読解と議論 VIII
- 1 0 回 読解と議論 IX
- 1 1 回 読解と議論 X
- 1 2 回 口頭発表 I
- 1 3 回 口頭発表 II
- 1 4 回 口頭発表 III
- 1 5 回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※参加募集は夏休み前などに行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※2学期の履修登録の修正登録期間に忘れずに履修登録してください。
- ※期間限定プロジェクトを除き、翌年度前期の『プロジェクト演習II』も履修登録してください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウエーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習II【昼】

担当者名
/Instructor

見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
※プロジェクトへ参加募集は掲示板に掲示します。なお、参加人数には制限があります。
※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどうのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどうのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどうのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどうのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどうのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・高で習う「数学」とは違い、「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○ サイモン・シン著・青木薫訳 『フェルマーの最終定理』 新潮社 (2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。
ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて楽しいと思われる問題。
- 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
- 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
- 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
- 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
- 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
- 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
- 7回 いろいろな記号の起源、未知数が X になるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
- 8回 究極の折り紙
- 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
- 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
- 11回 「テーマから考えてみよう」
- 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
- 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【moduloの世界】
- 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
- 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3コマ以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思惟構造を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）【ユダヤ教】
- 5回 一神教について2（キリスト教の成立）【キリスト教】【イスラム教】
- 6回 一神教と日本の宗教風土【牧畜文化】【稲作漁撈文化】【都市国家】
- 7回 仏教について1（インドの仏教）【シャカ】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 8回 仏教について2（中国の仏教）【儒教】【道教】【殺生戒】
- 9回 仏教について3（日本の仏教）【本覚思想】【戒律】
- 10回 神道について1（古代の神道）【禊祓】【罪と穢】
- 11回 神道について2（神道と東アジアの宗教）【皇帝祭祀】【神祇令】
- 12回 日本の宗教風土1（神と仏）【神仏習合】【神仏隔離】
- 13回 日本の宗教風土2（祖先崇拜）【盆と彼岸】【寺檀制度】
- 14回 日本の宗教風土3（近代から現代へ）【神仏分離】【政教分離】【新宗教】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポート含む）...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
5～6回のレポートを課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものがたりと人間【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ものがたり」とは、決して「文学」の問題に限られるものではない。神話から文芸、噂話さらには日々のニュースまで、言語をあやつる人間は、「ものがたり」という行為を通して出来事や<世界>、「歴史」を了解し、そしてそこで生きる「自己」像を創り上げてきた。つまり、「私」とは何か、という問いまで、「ものがたり」として存在していることを意味する。この科目は、人間の限界と可能性を、「ものがたり」をキーワードにしながら、文学、文化、歴史、心理、法学など多様な学の知を横断しながら考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料等は、講義中にプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものがたりとは何か (重信) 【語る】【語り手】
 - 2回～3回 ものがたりの生成 (重信) 【うわさ】
 - 4回～6回 ものがたりと歴史 (重信) 【物語文】
 - 7回 ものがたりと「落語」(小野) 【声】【場】
 - 8回 ものがたりと「法律」(小野) 【法廷】【声と説得】
 - 9回～10回 ものがたりに心理学から考える (税田) 【発達】
 - 11回～13回 ものがたりの論理 :文学テキストから (木下) 【第一の語り手】
 - 14回 まとめ :ものがたりの力 (重信)
 - 15回 質問日
- (以上はあくまでも予定であり、各回の講義タイトル、内容が変更される場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語、授業途中の出入りを厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名
/Instructor

真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は二部構成となっており、前半では表象論の基礎的問題を扱い、後半では日本の近世までに制作された美術作品について扱う。
前半は、まず表象概念の説明をアニメ、演劇などをとりあげておこなう。そののちに、「戦争」というテーマのもとに銅像、語り芸、映画などの例をとりあげて、表象研究の意義について考える。
後半は、映像やアニメに日本の近世以前の美術作品が借用されている例を紹介する。どの場面にこういった作品が描き込まれているかを受講者に見出してもらい、それらの作品の概要について確認して行く。それによって、現代の我々の生活の中には、その気になれば、歴史的美術作品の断片が数多く見出せることを実感してもらおう。前半は主に真鍋が、後半は主に五月女が担当する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回【表象論事始め】理論①
- 2回 理論②
- 3回 表象の分析① - 『ハウルの動く城』をとりあげて -
- 4回 表象の分析② - 『おくりびと』をとりあげて -
- 5回【テーマ研究】戦争と表象①
- 6回 戦争と表象②
- 7回 戦争と表象③
- 8回 前半のまとめ
- 9回【映像・アニメに見出せる日本の絵画】映像Aの出題編
- 10回 映像Aの解答編①
- 11回 映像Aの解答編②・映像Bの出題編
- 12回 映像Bの解答編・アニメAの出題編
- 13回 アニメAの解答編・アニメBの出題編
- 14回 アニメBの解答編
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 中間・期末テスト ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半においては、毎回コメントカードを記入して提出してもらおう。
後半においては、毎回課題を出し、その次の回到回答を発表してもらおうので、必ず予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 英語の方言・日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第12回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第13回 コミュニケーション力(漆原)
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...20%×4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- * 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 波瀨 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「芸術」と「現実」とがどのように関わっているのかという点について検討する。具体的には、「現実」を超えた世界を創造する「芸術」と、「現実」を忠実に再現しようとした「芸術」とでは、どちらがより「リアル」なのかについてさまざまな材料を提示する。受講者には、各回の講義を通じて、「芸術」と「現実」との関わり方について理解する機会となることを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、適宜資料を配布。参考文献も適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 芸能とシニール①
- 3回 芸能とシニール②
- 4回 芸術は爆発か?①
- 5回 芸術は爆発か?②
- 6回 シニールリアリズムの物語①
- 7回 シニールリアリズムの物語②
- 8回 ノスタルジの向こう側①
- 9回 ノスタルジの向こう側②
- 10回 映像テキストの読み方①
- 11回 映像テキストの読み方②
- 12回 さまざまな戦後①
- 13回 さまざまな戦後②
- 14回 歴史 / 物語の現在性①
- 15回 歴史 / 物語の現在性②

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および課題... 20% 学期中レポート... 40% 定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
岩本 真理子 / 比較文化学科, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

今年度は、国際政治学・平和学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、ドイツ文化/文学(岩本)、哲学・倫理学(伊原木)、民俗学・文化論(重信)など、異なった専門の教員がオムニバス講義を展開する予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、
定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1)【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2)【国連】
- 4回 人権概念の整理(1)【国家】【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2)【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1)【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2)【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1)【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2)【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1)【国籍】
- 13回 外国人の人権(2)【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキング】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与とししないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達は、家族、近隣そして友人、さまざまに分類しうる人間関係のなかで生き、生かされて、そのなかで多様な葛藤や親密性を経験しながら、他者との関係性を築きあげている。この科目では、「社会」と私達が名づけている関係性を、「社会」という言葉を使わずに「つながり/つながる」をキーワードに、自己と他者との関わりを具体的に問うことからときほぐし、「社会とは何か」を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、ガイダンス 遊びの記憶から
- 2、あそぶ 1 / 教育学 (児玉)
- 3、あそぶ 2 / 民俗学 (重信)
- 4、あそぶ 3 / ワークショップ 序 いる・なごむ・つるむ (加倉井)
- 5、あそぶ 4 / ワークショップ 破 つくる・ためす・あそぶ (加倉井)
- 6、あそぶ 5 / ワークショップ 急 あそぶ・ふりかえる (加倉井)
- 7、あそぶ 6 まとめ (児玉・加倉井・重信)
- 8、たべる 1 / 民俗学 (重信)
- 9、たべる 2 / 食事風景の観察から (児玉・重信)
- 10、たべる 3 / ワークショップ ~五感と共感・分配と葛藤~ (児玉)
- 11、つながる 1 / 近場から街へ (児玉・重信)
- 12、特別講義 つながる 2 / 駄菓子屋という場 (松田道雄)
- 13、特別講義 つながる 3 / 関係性はもう一つの世界をつくる (松田道雄)
- 14、つながる 4 見えない者同志のつながりへ (児玉・加倉井・重信)
- 15、<つながりの人間学>へ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値（4）【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値（5）【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題（3）【種差別】
- 10回 現代における差別の問題（4）【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小レポート含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロニアリズムの思想課題】 【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロニアリズムなのか(1)(2) 【ポストコロニアリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】 【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1回 「開発と統治」をはじめにあたって | 担当：三宅 |
| 2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 | 担当：伊野 |
| 3回 民主化問題を考える視座(2) | 担当：伊野 |
| 4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって【ミャンマー】 | 担当：伊野 |
| 5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動【バングラデシュ】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 7回 途上国と一村一品運動【一村一品運動】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化【グラミン銀行】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動 【韓国】 | 担当：申 |
| 10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策 【環境政策】 | 担当：申 |
| 11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス 【米国】 | 担当：申 |
| 12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 | 担当：三宅 |
| 13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 | 担当：三宅 |
| 14回 もっと詳しく聴きたいアンコールアワー | 担当：指名教員 |
| 15回 まとめ | 担当：三宅 |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % 試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)○長志珠絵『近代日本と国語ナシヨナリズム』(吉川弘文館)○鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 ガイダンス②「日本」という枠組み
 - 3回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 4回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 5回 県名を読む③戊辰戦争
 - 6回 『国語元年』を読む(ビデオ)①文部省説諭
 - 7回 『国語元年』を読む(ビデオ)②統一話し言葉
 - 8回 『国語元年』を読む(ビデオ)③山の手言葉
 - 9回 『国語元年』を読む(ビデオ)④「日本語」から「【国語】」へ
 - 10回 『ラスト・サムライ』を読む
 - 11回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 12回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合は筆記試験100%、受講生100名以下の場合は授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツアメリカ、スペイン、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【移民問題】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考資料等は、プリントにして授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一部 内燃機関の近代 (重信)

- 1、自動車と出会った「明治ニッポン」【内国勲業博覧会】 / 2、内燃機関と身体【職人】
- 3、自動車とカタストロフィ【交通事故】【交通法規】

第二部 都市と自動車 (重信)

- 4、フォードVSシボレー【都市化】 / 5、「円タク」とモダン都市【タクシー】
- 6、加速化と均質化【身体】【時間】 / 7、自動車と都市の政治【交通統制】

第三部 フォーディズムの時代 (中野)

- 8、ヘンリー・フォードとアメリカ【フォード】 / 9、フォード・システムと大衆社会【フォーディズム】 / 10、ポスト・フォーディズムへ

第四部 「家庭」と自動車 (重信)

- 11、「家庭」という価値と自動車【新中間層】【中流幻想】 / 12、マイホームとマイカー【高度成長期】 / 13自動車というメディア【メディア】 / 14自動車と人間 / 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M・ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人はそれぞれの価値観で都市をとらえ評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。しかし、これからの“住みよい”都市づくりには総合的な視点がますます必要です。本講義では、都市間比較の方法をとりながら、多面的に都市をとらえ評価する視点や、都市を知るために役立つ情報活用のあり方などについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

指定しません（資料を配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社（2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）

- 第1回 講義の概説 【評価指標】
- 第2回 都市間比較I 【自然】
- 第3回 都市間比較II 【居住】
- 第4回 都市間比較III 【経済】
- 第5回 都市間比較IV 【インフラ】
- 第6回 都市間比較V 【文化・教育】
- 第7回 都市間比較VI 【健康・安全】
- 第8回 都市間比較VII 【都市イメージ】
- 第9回 都市間比較VII 【総合評価】
- 第10回 「住みよい都市」の検証I【事例研究】
- 第11回 「住みよい都市」の検証II【事例研究】
- 第12回 「住みよい都市」の検証III【事例研究】
- 第13回 「住みよい都市」の検証IV【事例研究】
- 第14回 予備日
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 学期末のレポート... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありませんが、講義を進めるなかで、「あなた方はどう思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 山脇 直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「『住むこと』について考える」
私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。また、「住む」ための「住宅」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。本講義は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・基本的な「住む」という事実を通し、政治・政策・法に関わる学問の実践的意義について理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 はじめに . ~ 「住むこと」がもつ根源性・政治性について ~ 【居住】 【住居】 【住宅】
 - 2回 「住むこと」とは何であったか ~ 住宅政策における「住宅」観 ~ 【持家政策】 【居住政策】
 - 3回 「51C」から「居住福祉」へ ~ 住宅改良の社会史 ~ 【貧民窟】 【51C】 【居住福祉】
 - 4回 居住地によるデモクラシー? 【集合住宅デモクラシー】 【私的政府】 【CID】
 - 5回 社会が育む権利の内実 ~ 法解釈理論の新展開I ~ 【所有】 【総有】 【合有】
 - 6回 交渉で育て続ける契約 ~ 法解釈理論の新展開II ~ 【私的自治】 【関係】 【交渉】
 - 7回 わが国マンションにおける議会政治 【強制競売】 【建替え決議】 【区分所有者集会】
 - 8回 マンション所有権の基本権的性質 【区分所有権】
 - 9回 “困った人たち”の物語 ~ マンション管理狂騒曲 ~ 【マンション管理】
 - 10回 揺れ続けたマンション ~ 阪神淡路大震災被災マンションの建替え ~ 【被災建替え】
 - 11回 不法占拠の“法外”な合法性? ~ ウトロ51番地・伊丹空港に住んだ人々 ~ 【合法性】
 - 12回 集合住宅としての都市の命運
~ チェルノブイリ・九龍城塞・デトロイト・軍艦島と北九州 ~ 【国家】 【経済】 【都市】
 - 13回 いかにして「住む」か ~ コーポラティブ・ハウジングという手法 ~ 【コーポラティブ・ハウジング】
 - 14回 どのように「住む」か ~ コレクティブ・ハウジングという可能性 ~ 【コレクティブ・ハウジング】
 - 15回 おわりに . ~ 居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」 ~ 【合意形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート(2500字程度)の提出も歓迎します。
出席... 30% 定期試験... 70% レポートは、その内容に応じて加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメを読んでおくこと。知識にこだわらず、何が問題であるかを考えて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 誰にも負けない私のイギリス案内と銘うって観光案内をしたい。いわば私の40年にわたるイギリス研究余滴である。もしも本当にイギリスに行きたくなったら私の講義は成功、反対に面白くなかったら私の講義は失敗である。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 エディンバラ地方：自治の大切さ
 - 第2回 明治維新を支えたスコットランド人
 - 第3回 湖水地方；自然保護は住民の運動によってのみ守られる
 - 第4回 世界のケンブリッジ大学-ノーベル賞受賞者との日々
 - 第5回 ケンブリッジ大学留学とインド人家族との交流
 - 第6回 1929年世界恐慌を救ったM・ケインズ-ケインズ革命「雇用・利子および貨幣の一般理論」(1936) が語りかけるもの
 - 第7回 ミュージカル鑑賞でロンドンの夜を楽しもう
 - 第8回 ・大英博物館図書館案内-
 - 第9回 世界最大の図書館案内-『資本論』がなぜいま人気があるのか-『資本論』の世界紹介
 - 第10回 ダウニング街10番地
 - 第11回 イギリスの2大政党政治と日本の政治
 - 第12回 セイント・アイビス；バーナード・リーチと小鹿田焼き窯
 - 第13回 南ウエールズ的首都カーディフ市と北九州市との関係
 - 第14回 花の都バリで乾杯
 - 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回のレポートと定期試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 現代において生命科学は基礎研究のみならず社会に広く浸透・貢献している。本講では「ノーベル賞の生命科学」をテーマとし、生命科学進歩の原動力となった輝かしい研究をオムニバス形式で学び、分子生物学発展の歴史、生命科学研究の面白さ・楽しさを理解するとともに、現代社会を生き抜く力を身につける。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 イントロダクション
- 2回 基本的事項【核酸】、【タンパク質】、【細胞】
- 3回 遺伝子の本体とDNA二重らせん【DNA】、【遺伝子】
- 4回 遺伝子の発現制御【転写】、【RNA】
- 5回 遺伝暗号の解読【翻訳】、【アミノ酸】、【コドン】
- 6回 分断された遺伝子【mRNA】、【スプライシング】
- 7回 塩基配列決定・遺伝子増幅【遺伝子診断】、【DNA鑑定】
- 8回 多様性を生むメカニズム【免疫】、【抗体】
- 9回 がん遺伝子を追え【がん】、【ウイルス】
- 10回 プログラムされた細胞の死【細胞死】、【器官発生】
- 11回 RNAの知られざる働き【遺伝子治療】
- 12回 ES細胞と動物モデル【ES細胞】、【iPS細胞】
- 13回 光るタンパク質とその利用【緑色蛍光タンパク質 (GFP)】
- 14回 染色体末端の問題【がん】、【老化】、【テロメア】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況 (小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|--------------|---|------------------------|
| 第1回 | 憲法の意義 | - | 【国家権力の授権と制限】 |
| 第2回 | 憲法の展開 | - | 【近代から現代、そして未来へ】 |
| 第3回 | 人権総論 | - | 【自由の保障と制約】 |
| 第4回 | 人権各論①（幸福追求権） | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 人権各論②（平等原則） | - | 【人種・性と平等】 |
| 第6回 | 人権各論③（信教の自由） | - | 【信教の自由と政教分離】 |
| 第7回 | 人権各論④（表現の自由） | - | 【プライバシー・名誉・性表現】 |
| 第8回 | 国民主権論 | - | 【国民主権の意義】 |
| 第9回 | 日本の政治制度 | - | 【議院内閣制の本質】 |
| 第10回 | 平和主義論① | - | 【憲法9条の制定・意義】 |
| 第11回 | 平和主義論② | - | 【平和主義の現実と未来】 |
| 第12回 | 平和主義論③ | - | 【憲法9条と裁判所】 |
| 第13回 | 日本憲法史 | - | 【大日本帝国憲法と日本国憲法】 |
| 第14回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況に関して概説する |
| 第15回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況について概説する |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語1 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語1 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』(東方書店)
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』(同学社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語1 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語2 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回～5回 第10課
6回～8回 第11課
9回～12回 第12課
13回～16回 第13課
17回～20回 第14課
21回～24回 第15課
25回～28回 第16課
29回 中間試験
30回～33回 第17課
34回～37回 第18課
38回～41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回～45回 まとめ民族文化と現代社会との関わり

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語2 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回 ~ 5回 第10課
6回 ~ 8回 第11課
9回 ~ 12回 第12課
13回 ~ 16回 第13課
17回 ~ 20回 第14課
21回 ~ 24回 第15課
25回 ~ 28回 第16課
29回 中間試験
30回 ~ 33回 第17課
34回 ~ 37回 第18課
38回 ~ 41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回 ~ 45回 まとめ民族文化と現代社会との関わり

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語2 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 浅野 雅樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回 ~ 5回 第10課
6回 ~ 8回 第11課
9回 ~ 12回 第12課
13回 ~ 16回 第13課
17回 ~ 20回 第14課
21回 ~ 24回 第15課
25回 ~ 28回 第16課
29回 中間試験
30回 ~ 33回 第17課
34回 ~ 37回 第18課
38回 ~ 41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回 ~ 45回 まとめ民族文化と現代社会との関わり

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語3 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語3 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語3 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語4 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回 ~ 5回 第10課
6回 ~ 8回 第11課
9回 ~ 12回 第12課
13回 ~ 16回 第13課
17回 ~ 20回 第14課
21回 ~ 24回 第15課
25回 ~ 28回 第16課
29回 中間試験
30回 ~ 33回 第17課
34回 ~ 37回 第18課
38回 ~ 41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回 ~ 45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語4 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回 ~ 5回 第10課
6回 ~ 8回 第11課
9回 ~ 12回 第12課
13回 ~ 16回 第13課
17回 ~ 20回 第14課
21回 ~ 24回 第15課
25回 ~ 28回 第16課
29回 中間試験
30回 ~ 33回 第17課
34回 ~ 37回 第18課
38回 ~ 41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回 ~ 45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語4 (音声中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回 ~ 5回 第10課
6回 ~ 8回 第11課
9回 ~ 12回 第12課
13回 ~ 16回 第13課
17回 ~ 20回 第14課
21回 ~ 24回 第15課
25回 ~ 28回 第16課
29回 中間試験
30回 ~ 33回 第17課
34回 ~ 37回 第18課
38回 ~ 41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回 ~ 45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語5 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語5 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語 1・3・5 は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語5 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～9回 概説、発音
10回～12回 第1課
13回～15回 第2課
16回～18回 第3課
19回～21回 第4課
22回～24回 第5課
25回 中間試験
26回～29回 第6課
30回～33回 第7課
34回～37回 第8課
38回～41回 第9課
42回 調整日(復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語1・3・5は、連続して進められる授業である。
予習・復習(宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語6 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回～5回 第10課
6回～8回 第11課
9回～12回 第12課
13回～16回 第13課
17回～20回 第14課
21回～24回 第15課
25回～28回 第16課
29回 中間試験
30回～33回 第17課
34回～37回 第18課
38回～41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語6 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回～5回 第10課
6回～8回 第11課
9回～12回 第12課
13回～16回 第13課
17回～20回 第14課
21回～24回 第15課
25回～28回 第16課
29回 中間試験
30回～33回 第17課
34回～37回 第18課
38回～41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語6 (文法中心) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）
相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 復習 (ウォーミングアップ)
2回～5回 第10課
6回～8回 第11課
9回～12回 第12課
13回～16回 第13課
17回～20回 第14課
21回～24回 第15課
25回～28回 第16課
29回 中間試験
30回～33回 第17課
34回～37回 第18課
38回～41回 第19課
42回 調整日 (復習・質問受付)
43回～45回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語2・4・6は、連続して進められる授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』 (東方書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 模擬テスト (注)
- 2回 第20課
- 3回 第20課
- 4回 第20課
- 5回 第20課
- 6回 第21課
- 7回 第21課
- 8回 第21課
- 9回 第21課
- 10回 模擬テスト (注)
- 11回 第22課
- 12回 第22課
- 13回 第22課
- 14回 第22課
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合 (居眠り、携帯操作、私語等) は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語2・4・6から引き続く授業である。
予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト (書き取り) を行なう。

注 中国語検定3級、HSKのテスト (過去問題) やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 模擬テスト(注)
- 2回 第20課
- 3回 第20課
- 4回 第20課
- 5回 第20課
- 6回 第21課
- 7回 第21課
- 8回 第21課
- 9回 第21課
- 10回 模擬テスト(注)
- 11回 第22課
- 12回 第22課
- 13回 第22課
- 14回 第22課
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語2・4・6から引き続く授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

注 中国語検定3級、HSKのテスト(過去問題)やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 模擬テスト(注)
- 2回 第20課
- 3回 第20課
- 4回 第20課
- 5回 第20課
- 6回 第21課
- 7回 第21課
- 8回 第21課
- 9回 第21課
- 10回 模擬テスト(注)
- 11回 第22課
- 12回 第22課
- 13回 第22課
- 14回 第22課
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語2・4・6から引き続く授業である。
予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

注 中国語検定3級、HSKのテスト(過去問題)やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	模擬テスト(注)
2回	第23課
3回	第23課
4回	第23課
5回	第23課
6回	第24課
7回	第24課
8回	第24課
9回	第24課
10回	模擬テスト(注)
11回	第25課
12回	第25課
13回	第25課
14回	第25課
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

注 中国語検定2級、HSKのテスト(過去問題)やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	模擬テスト(注)
2回	第23課
3回	第23課
4回	第23課
5回	第23課
6回	第24課
7回	第24課
8回	第24課
9回	第24課
10回	模擬テスト(注)
11回	第25課
12回	第25課
13回	第25課
14回	第25課
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

注 中国語検定2級、HSKのテスト(過去問題)やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

古川裕『チャイニーズ・プライマー (New Edition) 』（東方書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	模擬テスト(注)
2回	第23課
3回	第23課
4回	第23課
5回	第23課
6回	第24課
7回	第24課
8回	第24課
9回	第24課
10回	模擬テスト(注)
11回	第25課
12回	第25課
13回	第25課
14回	第25課
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト(書き取り)を行なう。

注 中国語検定2級、HSKのテスト(過去問題)やそれに相当するテストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、単語を集中的に学習し、さらにTOEICの問題の学習を通して実用的な英語力を養成し、また、現代小説『Yomogi』を読むことでより深い英語読解力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO [デュオ]3.0』 (出版社 : アイシーピー)
音声CD 『DUO[デュオ]3.0』 (復習用) (出版社 : アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方等の説明とTOEICの問題を利用した簡易テストの実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2」TOEIC Part 1の学習。小説を半ページ訳す。
- 3回 テキスト「Section 3, 4」TOEIC Part 2の学習。小説を半ページ訳す。
- 4回 テキスト「Section 5, 6」TOEIC Part 3の学習。小説を半ページ訳す。
- 5回 テキスト「Section 7, 8」TOEIC Part 4の学習。小説を半ページ訳す。
- 6回 テキスト「Section 9, 10」TOEIC Part 5の学習。小説を半ページ訳す。
- 7回 テキスト「Section 11, 12」TOEIC Part 6の学習。小説を半ページ訳す。
- 8回 テキスト「Section 13,14」TOEIC Part 7の学習。小説を半ページ訳す。
- 9回 復習
- 10回 テキスト「Section 15, 16」TOEIC Listeningの学習。小説を半ページ訳す。
- 11回 テキスト「Section 17, 18」TOEIC Reading の学習。小説を半ページ訳す。
- 12回 テキスト「Section 19, 20」TOEIC Listeningの学習。小説を半ページ訳す。
- 13回 テキスト「Section 21, 22」TOEIC Reading の学習。小説を半ページ訳す。
- 14回 テキスト「Section 23」TOEIC Listening, Readingの学習。小説を半ページ訳す。
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) ... 30% 課題 (中テストを含む) ... 30% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習は必ず行うこと。毎回テキストの小テストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に続き単語を集中的に学習し、さらに、TOEICの学習を通して実用的な英語力を養成し、また、現代小説『Yomogi』を読むことでより深い英語読解力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ]3.0』(出版社:アイシーピー)
音声CD『DUO[デュオ]3.0(復習用)』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICの問題を利用した簡易テストを実施。
- 2回 テキスト「Section 24, 25」TOEIC Part 1の学習。小説を半ページ訳す。
- 3回 テキスト「Section 26, 27」TOEIC Part 2の学習。小説を半ページ訳す。
- 4回 テキスト「Section 28, 29」TOEIC Part 3の学習。小説を半ページ訳す。
- 5回 テキスト「Section 30, 31」TOEIC Part 4の学習。小説を半ページ訳す。
- 6回 テキスト「Section 32, 33」TOEIC Part 5の学習。小説を半ページ訳す。
- 7回 テキスト「Section 34, 35」TOEIC Part 6の学習。小説を半ページ訳す。
- 8回 テキスト「Section 36, 37」TOEIC Part 7の学習。小説を半ページ訳す。
- 9回 復習
- 10回 テキスト「Section 38, 39」TOEIC Listeningの学習。小説を半ページ訳す。
- 11回 テキスト「Section 40, 41」TOEIC Readingの学習。小説を半ページ訳す。
- 12回 テキスト「Section 42, 43」TOEIC Listeningの学習。小説を半ページ訳す。
- 13回 テキスト「Section 44, 45」TOEIC Readingの学習。小説を半ページ訳す。
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...30% 課題(中テストを含む)...30% 期末試験...40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習は必ず行うこと。毎回テキストの小テストを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor トリスタン・ファー・ショールズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーション能力は英語学習においてなくてはならない要素です。ここではコミュニケーションとはどういうことかを探究していきます。英語に興味深い一連の謎解きとし、積極的に携わり、パターンを探し出していきます。学んだことを活かし自分が表現したいことを発信しそれによって更に習得していくことが重要です。また、言いたいことを簡潔化し、描写により理解すること、会話のパートナーと積極的に影響し合うことにより、訳そうとするのではなく思考も英語で行うことに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

Paul, David. Communicate, Book 1. MacMillan, 1994.
Paul, David. Communicate, Workbook 1. MacMillan, 1994.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions; classroom language
- 2回 Introductions; classroom language
- 3回 Introductions; classroom language
- 4回 Likes and dislikes; Adjectives
- 5回 Likes and dislikes; Adjectives
- 6回 Likes and dislikes; Adjectives
- 7回 Locations; Telephoning 1
- 8回 Locations; Telephoning 1
- 9回 Directions; Imperatives
- 10回 Directions; Imperatives
- 11回 There is/There are; Quantities
- 12回 There is/There are; Quantities
- 13回 Have/Want/Would like; Shopping
- 14回 Have/Want/Would like; Shopping
- 15回 Have/Want/Would like; Shopping

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) 授業への参加態度・努力 40% (2) 宿題 40% (3) 試験結果 20%
* 単位取得には上記三項目それぞれすべて60%以上の評価が求められます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は必ずノートに取る。課題のプリントを順に綴るバインダーを準備する。また、英語で国名や主要都市名を調べる等インターネットや手持ちの必要な資料等を用いることも求められる。

授業及び試験への辞書の持ち込みは不可。宿題の際は活用して構いません。

コミュニケーション能力は、意欲的な練習・経験により効果的に築き上げることができます。このコースにおいての参加態度は特に重要となります。評価は、どれだけ英語を使い、積極的にクラスに参加しているかに基づいて行われます。90分間は全て英語で話すことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with learners: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Saslow, J. and Ascher, A., "Top Notch: English for today's world. Student book 3," Pearson Education, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Get to know someone
- 3回 Cultural literacy
- 4回 Discuss how culture changes over time
- 5回 Ask for a recommendation
- 6回 Plan a social event
- 7回 Discuss the customs of another culture
- 8回 Describe holidays and celebrations
- 9回 Report news
- 10回 Prepare for an emergency
- 11回 Describe natural disasters
- 12回 Discuss a new product
- 13回 Evaluate inventions
- 14回 Accept responsibility for mistakes
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on attendance (25%), homework (25%), tests (25%), and effort speaking English in class (25%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor トリスタン・ファー・ショールズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーション能力は英語学習においてなくてはならない要素です。ここではコミュニケーションとはどういうことかを探究していきます。英語を興味深い一連の謎解きとし、積極的に携わり、パターンを探し出していきます。学んだことを活かし自分が表現したいことを発信しそれによって更に習得していくことが重要です。また、言いたいことを簡潔化し、描写により理解すること、会話のパートナーと積極的に影響し合うことにより、訳そうとするのではなく思考も英語で行うことに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

Paul, David. Communicate, Book 1. MacMillan, 1994.
Paul, David. Communicate, Workbook 1. MacMillan, 1994.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Uncountable nouns; At a restaurant
- 2回 Uncountable nouns; At a restaurant
- 3回 Uncountable nouns; At a restaurant
- 4回 Possessives; These / those
- 5回 Possessives; These / those
- 6回 Present Continuous; Telephoning 2
- 7回 Present Continuous; Telephoning 2
- 8回 Fashion; Shopping 2
- 9回 Fashion; Shopping 2
- 10回 Can (ability); Can (possibility)
- 11回 Can (ability); Can (possibility)
- 12回 There is/There are; Quantities
- 13回 Present simple; Occupations
- 14回 Present simple; Occupations
- 15回 Present simple; Occupations

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) 授業への参加態度・努力 40% (2) 宿題 40% (3) 試験結果 20%
* 単位取得には上記三項目それぞれすべて60%以上の評価が求められます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は必ずノートに取る。課題のプリントを順に綴るバインダーを準備する。また、英語で国名や主要都市名を調べる等インターネットや手持ちの必要な資料等を用いることも求められる。

授業及び試験への辞書の持ち込みは不可。宿題の際は活用して構いません。

コミュニケーション能力は、意欲的な練習・経験により効果的に築き上げることができます。このコースにおいての参加態度は特に重要となります。評価は、どれだけ英語を使い、積極的にクラスに参加しているかに基づいて行われます。90分間は全て英語で話すことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。1学期は、TOEICスコア550点以上を目標とする。

教科書 /Textbooks

田中清美 著 「Effective Approaches to the TOEIC Test」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア600レベル)で自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 ~2 各パート問題
- 3回 Unit 3 ~4 各パート問題
- 4回 Unit 5 ~6 各パート問題
- 5回 Unit 7 ~8 各パート問題
- 6回 Unit 9 ~10 各パート問題
- 7回 Unit 11 ~12 各パート問題
- 8回 Unit 13 ~14 各パート問題
- 9回 Unit 15 ~16 各パート問題
- 10回 Unit 17 ~18 各パート問題
- 11回 Unit 19 ~20 各パート問題
- 12回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 13回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 14回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、TOEIC問題プリントを通して、英語力の更なる向上を目指す。TOEICスコア600点以上を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト不使用。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業で配布するプリント以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題を自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
- 3回 "
- 4回 "
- 5回 "
- 6回 "
- 7回 "
- 8回 "
- 9回 "
- 10回 "
- 11回 "
- 12回 "
- 13回 "
- 14回 "
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア550点以上10% (500点未満 - 10%)
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to look at modern topics and how affect us in everyday situations. For example fashion, tourism and movies. The students will be expected to express their opinions through discussion and written journals. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 2 By Andrew E. Bennett Nan'Un-do

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 One laptop per child, pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 2 回 One laptop per child, vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 3 回 Green profits, pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 4 回 Green profits, vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 5 回 Well loved pets, reading, reading passage, questions & writing about article
- 6 回 Well loved pets, vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 7 回 Italy's Fashion Kings reading, reading passage, questions & writing about article
- 8 回 Italy's Fashion Kings vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 9 回 Viral marketing reading, reading passage, questions & writing about article
- 1 0 回 Viral marketing vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 1 1 回 The NBA goes global reading, reading passage, questions & writing about article
- 1 2 回 The NBA goes global vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 1 3 回 The gossip media reading, reading passage, questions & writing about article
- 1 4 回 The gossip media & Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 中2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to look at modern topics and how affect us in everyday situations. For example fashion, tourism and movies. The students will be expected to express their opinions through discussion and written journals. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 2 By Andrew E. Bennett Nan'Un-do

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Replanting the world's Forests pre reading, reading passage, questions & writing
- 2 回 Replanting the world's Forests vocabulary, grammar exercise, listening & discussion
- 3 回 Adventure Tourism pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 4 回 Adventure tourism vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 5 回 The Cannes Film Festival pre reading, reading passage, questions & writing
- 6 回 The Cannes Film Festival vocabulary, grammar exercise, listening & discussion
- 7 回 Giving away billions pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 8 回 Giving away billions vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 9 回 Computer actors pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 1 0 回 Computer actors vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 1 1 回 New York city pre reading, reading passage, questions & writing about article
- 1 2 回 New York city vocabulary building, grammar exercise, listening & discussion
- 1 3 回 Fresh water: A growing crises pre reading, reading passage, questions & writing
- 1 4 回 Fresh water: A growing crises & Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語の読解力を中心に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。授業全体のキーワードは「多読・精読」、「語彙力強化」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末テスト ... 40% 平常の学習状況(小テストなどを含む) ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語Ⅸ～Ⅻはセットで全科目を履修登録するのがのぞましい。[履修ガイド参照]
授業は、学生による発表形式ですすめていく予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々なトピックの英文を読みながら、英語の読解力の向上・語彙の増強を目指す。DVD教材等を使いながら、聴解力向上のための練習も行う。また、クラスでのディスカッションを通して、授業で扱ったトピックについての理解を深めることも目標とする。

教科書 /Textbooks

後日、掲示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング演習
- 3回 リスニング演習
- 4回 リスニング演習
- 5回 リーディング演習
- 6回 リーディング演習
- 7回 リーディング演習
- 8回 リーディング演習
- 9回 リーディング演習
- 10回 リーディング演習
- 11回 リーディング演習
- 12回 リスニング演習
- 13回 リスニング演習
- 14回 リスニング演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ...30% 発表...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業での発表や発表者への質問等、授業への積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course will be to gain a greater understanding of the experiences of foreigners who live in Japan. This will be achieved through the Insights textbook. Using the reading text as a base for discussion and report writing in the class. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Semester 1 Insights by Shaullles and Miyazoe Nan'un-do

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Foreign neighbors, reading, comprehension, summary & composition
- 3回 Kids and culture, reading, comprehension, summary & composition
- 4回 Strong women, reading, comprehension, summary & composition
- 5回 Global shopping, reading, comprehension, summary & composition
- 6回 Meeting strangers, reading, comprehension, summary & composition
- 7回 Calligraphy, reading, comprehension, summary & composition
- 8回 Human touch reading, comprehension, summary & composition
- 9回 Family ties, reading, comprehension, summary & composition
- 10回 Freedom and love reading, comprehension, summary & composition
- 11回 Volunteering, reading, comprehension, summary & composition
- 12回 Kids and violence, reading, comprehension, summary & composition
- 13回 Racism and stupidity, reading, comprehension, summary & composition
- 14回 Review
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Teaching materials (Culture Matters) will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Understanding culture
- 3 回 The concept of the self
- 4 回 Personal v societal obligations
- 5 回 Styles of communication
- 6 回 The concept of time
- 7 回 Culture in the workplace
- 8 回 The locus of control
- 9 回 Social relationships
- 1 0 回 Film review (1)
- 1 1 回 Film review (2)
- 1 2 回 Speeches and discussion
- 1 3 回 Adjusting to a new culture
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking: 50% Writing: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 14回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。
必ず辞書をもって出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。
必ず辞書をもって出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級で学習してきたことをリスニングを通してさらに自信と実践力をつける。実生活での様々な場面に簡単に応用できるよう、比較的平易なものを使用する予定である。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語の第一歩 リスニング』（企画：韓国・国立国語院・韓国語世界化財団、三修社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介
- 3回 レベルテスト
- 4回 位置【物の場所を理解する】
- 5回 時間【日常の行動をリスニングして理解する】
- 6回 買い物【品物を買う】
- 7回 食べ物【食べ物に関する表現を聞き取り、理解する】
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 週末【週末の活動に関する議論を理解する】
- 10回 家族【家族の紹介をリスニングして理解する】
- 11回 約束【約束、約束のキャンセルをリスニングして理解する】
- 12回 道を尋ねる【公共の場所を見つける】【説明を聞く】
- 13回 電話【電話番号を調べる】【電話に応え、メッセージを受け取る】
- 14回 交通【目的地への道順を理解する】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級で学習してきたことをリスニングを通してさらに自信と実践力をつける。実生活での様々な場面に簡単に応用できるよう、比較的平易なものを使用する予定である。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語の第一歩 リスニング』（企画：韓国・国立国語院・韓国語世界化財団、三修社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 天気【天気と日常生活に関する情報を得る】
- 3回 趣味【趣味に関する話し合いを理解する】
- 4回 旅行【お勧めの旅行先の情報を得る】
- 5回 遺失物を探す【形や色の説明を理解する】
- 6回 病気【症状を説明する】【助けを求める】
- 7回 家【家についての説明をリスニングする】
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 衣服【人を認識する】
- 10回 公演【公演や展示会の情報を得る】【チケットの予約とキャンセル】
- 11回 調理の仕方【料理の作り方をリスニングして理解する】【料理の作り方を説明する】
- 12回 自由会話
- 13回 発表
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 中国2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何ですか?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞(1)
- 3回 中性代名詞(2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致(1)
- 10回 時制の一致(2)
- 11回 前置詞と接続詞(時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞(場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞(論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)
 スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)
 スペイン (増田監修: 新潮社)
 スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)
 スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)
 スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11 回 従属節を含む文の理解。
- 12 回 従属節を含む文の理解。
- 13 回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 14 回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習、-ar / -er / -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 S Eの受身と無人称のS E
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 接続法(2)
- 3回 関係詞
- 4回 DVDなどで会話練習
- 5回 会話練習
- 6回 接続法現在完了・過去・過去完了
- 7回 接続法まとめ
- 8回 受身文、感嘆文
- 9回 短編教材(DVDなど)と聞き取り
- 10回 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り
- 11回 短編教材(DVDなど)と会話練習
- 12回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3 論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話A1【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音練習 【中国と中国語について】【単母音、声調】
- 2回 発音練習 【子音、複合母音】
- 3回 発音練習 【鼻母音、声調の変化など】
- 4回 暗誦練習 【第1課～第3課の内容】
- 5回 会話練習 【自己紹介】
- 6回 会話練習 【私の家庭・両親】
- 7回 暗誦練習 【第4課～第5課の内容】
- 8回 会話練習 【友達】
- 9回 会話練習 【私の家】
- 10回 暗誦練習 【第6課～第7課の内容】
- 11回 会話練習 【通学】
- 12回 会話練習 【お茶とお酒】
- 13回 暗誦練習 【第8課の内容】
- 14回 会話練習 【休日】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話AII【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀娟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 暗誦練習 【第9課～第10課の内容】
- 2回 会話練習 【電話をかけて休暇をとる】
- 3回 会話練習 【診察を受ける】
- 4回 暗誦練習 【第11課～第12課の内容】
- 5回 会話練習 【入院】
- 6回 会話練習 【旅行記】
- 7回 暗誦練習 【第13課～第14課の内容】
- 8回 会話練習 【意外なこと】
- 9回 会話練習 【テレビ番組】
- 10回 暗誦練習 【第15課～第16課の内容】
- 11回 会話練習 【書留郵便】
- 12回 会話練習 【月賦】
- 13回 暗誦練習 【第17課の内容】
- 14回 会話練習 【梅雨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (25%) ・ 暗誦 (25%) ・ 発表 (25%) ・ 期末試験 (25%) による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話B1【夜】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編） 石川 泰成 等 （中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説【中国と中国語について】
- 第2回 発音【母音】
- 第3回 発音【子音】
- 第4回 発音【声調など】
- 第5回 発音の総合練習
- 第6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 第7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 第8回 総合練習
- 第9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 第10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 第11回 総合練習
- 第12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 第13回 第6課【過去の経験など】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話BⅡ【夜】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

『五星漢語』（会話編・講読編）石川 泰成 等（中国書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課 【完全否定と部分否定】
- 第2回 第8課 【助動詞、前置詞】
- 第3回 総合練習
- 第4回 第9課 【結果補語、存現文】
- 第5回 第10課 【方向補語、“把”構文、複文1】
- 第6回 総合練習
- 第7回 第11課 【様態補語、程度補語、複文2】
- 第8回 第12課 【比較の表現、複文3】
- 第9回 総合練習
- 第10回 第13課 【可能補語、使役表現】
- 第11回 第14課 【“被”構文、複文4】
- 第12回 総合練習
- 第13回 第15課、復習 【複文5】
- 第14回 復習練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話A1【夜】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第一課	長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
第2回	発表	
第3回	第二課	故宮【従】【如果】【動詞+着】
第4回	発表	
第5回	第三課	敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
第6回	発表	
第7回	第四課	秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
第8回	発表	
第9回	第五課	黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
第10回	第六課	九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
第11回	発表	
第12回	第七課	孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
第13回	第八課	ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(出席を含む)20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話AII【夜】

担当者名 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成する為、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

『中国世界遺産めぐり』 兵頭 和美など 著 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	第九課	峨眉山と樂山大仏【相当于】【按照】
第2回	発表	
第3回	第十課	麗江【一~就...】【像~一樣】
第4回	発表	
第5回	第十一課	蘇州の古典的園林【正如】【和~一樣】【就是說】
第6回	発表	
第7回	第十二課	天壇公園【曾經】【即使】【属于】
第8回	発表	
第9回	第十三課	頤和園【使~】【通過】【怎麼】
第10回	発表	
第11回	第十四課	龍門石窟【值得】【对】
第12回	発表	
第13回	第十五課	雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
第14回	発表	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (出席を含む) 20%、平常点 (暗誦テストを含む) 40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BⅠ【夜】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明するといったより高度な内容の文章を用い、会話力の向上だけでなく、日中交流史などの知識も増やすことを目標とする。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 志賀島 - 金印 (福岡) 【金印】 【志賀島】 【国宝】
- 第2回 発表
- 第3回 第2章 太宰府 - 観世音戒壇院 (福岡) 【観世音寺】 【戒壇】 【鑑真】
- 第4回 発表
- 第5回 第3章 宗像 - 沖ノ島の唐三彩 【唐三彩】 【沖ノ島】 【門戸】
- 第6回 発表
- 第7回 第4章 福岡 - 年越し蕎麦と謝国明 【承天寺】 【謝国明】 【年越しそば】
- 第8回 発表
- 第9回 第5章 九州地方 - 栄西と脊振茶 【栄西】 【お茶】 【佐賀】
- 第10回 発表
- 第11回 第6章 金立町 - 徐福伝説の里 (佐賀) 【徐福】 【金立山】 【千布】
- 第12回 発表
- 第13回 第7章 佐賀 - 多久孔廟 【多久市】 【釈采】 【儒教】
- 第14回 発表
- 第15回 第8章 白杵 - 白杵石仏 (大分) 【白杵】 【石仏】 【宇佐八幡】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級会話BⅡ【夜】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語会話能力と共に双方の歴史、文化に関する知識も高めることを目標としたい。

教科書 /Textbooks

陳雲哲など編著 『中国縁 - 日本で中国を探す』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第9章 長崎 - 空海の足跡【円福寺】【空海】【香山】
- 第2回 発表
- 第3回 第10章 平戸 - 鄭成功誕生の地(長崎)【鄭成功】【平戸】【見誕生石】
- 第4回 発表
- 第5回 第11章 長崎 - 朱舜水と安東省庵【朱舜水】【安東省庵】【孔子像】
- 第6回 発表
- 第7回 第12章 長崎 - ペーロン競漕【ペーロン】【屈原】【長崎】
- 第8回 発表
- 第9回 第13章 長崎 - 新地と中華街【蔵島】【唐館】【新地倉庫】
- 第10回 発表
- 第11回 第14章 長崎 - 眼鏡橋 【眼鏡橋】【藤原林七】【石橋】
- 第12回 発表
- 第13回 第15章 坊津 - 遣唐使の港(鹿児島)【唐の港】【入唐道】【遣唐使】
- 第14回 発表
- 第15回 16章 秋目 - 鑑真渡来の地(鹿児島)【鑑真渡来】【奈良】【律宗】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度20%、平常点(暗誦テストを含む)40%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文I【夜】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の補語を習得する。

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第3課 你們打掃得真干淨 【程度補語1】
- 2回 第4課 太陽晒得我直出汗 【程度補語2】
- 3回 第5課 姐姐打完電話了 【結果補語1】
- 4回 第6課 我要早日学好漢語 【結果補語2】
- 5回 第7課 体操代表隊回来了 【簡單方向補語】
- 6回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 7回 第8課 汽車開進去了 【複合方向補語】
- 8回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 9回 第9課 我猜出這個謎語来了 【複合方向補語の派生的用法】
- 10回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 11回 第10課 他修理得好這台計算機 【可能補語1】
- 12回 第11課 我拿得了這個皮箱 【可能補語2】
- 13回 第12課 母親去旅游了一个月 【時量補語】
- 14回 第13課 這篇文章難了一点兒,我得多看兩遍 【數量補語】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度、期末試験で総合的に評価します（平常の学習状況：40% 期末試験：60%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語中級作文II 【夜】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章（記事・レポート・論文・等）を習得しましょう。
講義全体のキーワードとしては、中国語の兼語文、存現文、受身文、「把」の構文など文法、文型を習得する

教科書 /Textbooks

程美珍・高橋海生著『中国語中級作文』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック（パベル・フレス）
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第14課	我去問問	【連動文】
2回 第15課	他們請我欣賞古典音樂	【兼語文】
3回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
4回 第16課	牌子上写着“禁止吸煙”	【存現文】
5回 第17課	哥哥把那輛旧車賣了	【“把”を用いる文1】
6回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
7回 第18課	您把感想写在留言簿上吧	【“把”を用いる文2】
8回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
9回 第19課	今天的報送来了	【意味上の受身を表す文】
10回 第20課	觀眾被精彩的表演吸引住了	【“被”を用いる文】
11回 第22課	猪肉比牛肉便宜	【“比”を用いた比較文】
12回 第23課	今年的雨水没有去年那么多	【“有/没有”を用いた比較文】
13回 第1課	她送我一束花	【二重目的語】
14回 第2課	參觀菊花展覽的人真多	【動賓構造・主述構造】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席： 20% 平常点： 20% 期末試験： 60%
出席、平常点、学習態度、期末試験で総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に、テキストの「練習問題」を翻訳すること、二週間一回の宿題とする中国語文章を作文すること、また授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話A1【夜】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

標準語の発音是正、朗読、暗唱、リスニングと会話の訓練を強化し、中国語の「聞く」、「話す」の能力、総合的なコミュニケーションの能力を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶(1)
- 2回 挨拶(2)
- 3回 電話をかける
- 4回 結婚式(1)
- 5回 結婚式(2)
- 6回 お祝いに行く
- 7回 祝賀会
- 8回 プレゼントする
- 9回 宴会に出席する
- 10回 接客
- 11回 お見舞いの言葉(1)
- 12回 お見舞いの言葉(2)
- 13回 葬式(1)
- 14回 葬式(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む)...20% 暗唱・スピーチ発表...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話AII【夜】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期の続き、中国語の「聞く」、「話す」の能力の向上をめざす。

教科書 /Textbooks

傅秋爽等『130個該説不該説』河北教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族(1)
- 2回 家族(2)
- 3回 近所づき合い
- 4回 夫婦仲
- 5回 交際のマナー(1)
- 6回 交際のマナー(2)
- 7回 パーティー(1)
- 8回 パーティー(2)
- 9回 同窓会(1)
- 10回 同窓会(2)
- 11回 買い物(1)
- 12回 買い物(2)
- 13回 金や物を借りに行く
- 14回 公衆道徳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む)...20% 暗唱・スピーチ発表...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文I【夜】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的とする。中国語の作文能力(記事・レポート・論文・等)をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』(白帝社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック(バベル・プレス)
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』(中華書店)
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1回 第1課 他不是去看电影,而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2回 第2課 咱们一边走,一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3回 第3課 高原的气候变化很大,有时晴,有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4回 第4課 她姐姐的孩子既聪明,又用功。 [並列関係の複文4]
- 5回 第5課 或者去广州,或者去上海,咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6回 第6課 首先我们应当学好基础课,然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7回 第7課 因为今天很冷,所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8回 第8課 茶不但是很好的饮料,而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9回 第9課 虽然雨下得很大,但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10回 第10課 如果每天坚持运动,就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 11回 第11課 除了打篮球以外,他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 12回 第12課 这片土地除了修建住宅,就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 13回 第13課 为了节省时间,您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 14回 第14課 代表团一下飞机,就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(テキストの作文課題)に対する評価40% 平常の学習状況 10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級作文Ⅱ【夜】

担当者名 大連交換教員 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の意思を適切かつ十分に伝えることができるようにするために、センテンスとセンテンスの接続関係、接続詞及び適切な語句の使い方を学び、豊富な練習問題をこなすことにより複文の接続用法を習得することを目的にする。中国語の作文能力(記事・レポート・論文・等)をさらにレベルにアップしよう。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』(白帝社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニック(バベル・プレス)
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』(中華書店)
劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

先に複文の接続関係を説明する。事前にテキストの問題を解いてもらい授業中前で解いてもらう。

- 1回 第15課 今年冬天连大阪都这么冷,何况北海道。 [選択関係の複文3]
- 2回 第16課 只要你的意见正确,我就改正。 [条件関係の複文1]
- 3回 第17課 只有你去请他,他才肯来。 [条件関係の複文2]
- 4回 第18課 无论刮风还是下雪,他早晨都要去散步。 [条件関係の複文3]
- 5回 第19課 即使失败,也不要灰心。 [譲歩関係の複文1]
- 6回 第20課 尽管文章短小,还是很有分量的。 [譲歩関係の複文2]
- 7回 第21課 既然来了,你就多住几天。 [因果関係の複文2]
- 8回 第22課 父亲不但不反对,反而鼓励我去中国留学。 [累加関係の複文4]
- 9回 第23課 你果然对水墨画感兴趣,应该下功夫去掌握它。 [仮定関係の複文2]
- 10回 第24課 明天我还有事,不然我可以陪你去博物馆。 [仮定関係の複文3]
- 11回 第25課 我不知道他来东京,不然我早就去看他了。 [逆接関係の複文2]
- 12回 第26課 他不仅会写钢笔字,就是毛笔字也写得很好。 [累加関係の複文5]
- 13回 第27課 各种电器应该注意保养,以延长使用寿命。 [目的関係の複文2]
- 14回 第28課 这种电视之所以受欢迎,是因为它物美价廉。 [因果関係の複文3]
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(テキストの作文課題)に対する評価40% 平常の学習状況10% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 7 A 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>
2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前中期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

春名徹『北京—都市の記憶』(岩波新書、2008)
倉沢進・李国慶『北京—皇都の歴史と空間』(中公新書、2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行むけのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 3回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 4回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 5回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 6回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 7回 倉沢進・李国慶『北京』
- 8回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 9回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 10回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 11回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 12回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 13回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 14回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 15回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論、学期末のレポートによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 7 B 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>
2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前中期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

北京史に関する中文文献(コピーして配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行向けのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 北京史に関する中文文献の輪読
- 3回 北京史に関する中文文献の輪読
- 4回 北京史に関する中文文献の輪読
- 5回 北京史に関する中文文献の輪読
- 6回 北京史に関する中文文献の輪読
- 7回 北京史に関する中文文献の輪読
- 8回 北京史に関する中文文献の輪読
- 9回 北京史に関する中文文献の輪読
- 10回 北京史に関する中文文献の輪読
- 11回 北京史に関する中文文献の輪読
- 12回 北京史に関する中文文献の輪読
- 13回 北京史に関する中文文献の輪読
- 14回 北京史に関する中文文献の輪読
- 15回 北京史に関する中文文献の輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論、学期末のレポートによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 A 【夜】

担当者名 佐藤 昭 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国方言音研究。この授業では、主に、中国各地の「方言なまり」の混じった話し言葉（会話）を録音テープで聞き、ヒアリング練習をするとともに、各地方言音の特徴を考察する。

教科書 /Textbooks

テキストはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 詹伯慧著、樋口靖訳『現代漢語方言』、光生館、1983年
- 『民族の世界史』、第5巻「漢民族と中国社会」、山川出版社、1983年
- 『中国語なまりングコース』華北・華中・華南編、中国語情報サービス、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと打ち合わせ
- 2回～ ①各地の「方言なまり」の混じった話し言葉を録音テープで聞き、内容を理解する。
- ②ついで、各地方言音の標準語との違いと特徴を考察する。
華北の方言なまり（北京・山西・内蒙古・山東・西安など）
華中の方言なまり（上海・安徽・湖北・湖南・四川など）
華南の方言なまり（福建・広東・香港・貴州・江西など）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題・発表... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 A 【夜】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①は中国の社会と歴史を深く理解するべく、レジユメを作成し報告・討論。
②は中国史(政治・経済・社会の分野)及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

入江曜子『溥儀』岩波新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。
出席... % 報告と討論... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 B 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
中国語歴史音韻研究。古代の音韻研究のための言語資料および現代の各地方言資料を活用して、現代から古代へさかのぼる音韻の歴史を考察する。

教科書 /Textbooks
佐藤昭『中国語音史-中古音から現代音まで』 白帝社、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○ラムゼイ『中国の諸言語---歴史と現況』 大修館書店、1990年
 ○李思敬『音韻のはなし---中国音韻学の基本知識』 光生館、1987年
 ○大島正二『唐代の人は漢詩をどう詠んだか-中国音韻学への誘い』 岩波書店、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーションと打ち合わせ
 2回~ テキストおよび言語資料の輪読、方言資料を用いての音韻調査
 研究発表など

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況... 40% 課題・発表... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 B 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①は中国の社会と歴史を深く理解するべく、レジユメを作成し報告・討論。
②は中国史(政治・経済・社会の分野)及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

入江曜子『溥儀』岩波新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。

出席... % 報告と討論... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学史I【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 健一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国古典を読む。唐代以前の作品を対象とし、我が国に影響を及ぼした中国文学に対する知識と興味を深めたい。毎時限、中国の文語文(漢文)を訓読し、その構造・文法的知識等を習得する。この授業によって日本語の古典文法に基づいた漢文訓読の基礎と、中国文学に対する基礎的知識を身につけたい。

教科書 /Textbooks

「中国文学史」 倉石武四郎 中央公論社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『中国文学史』(前野直彬編・東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスとこれまでの知識の確認
- 2回 漢文訓読の基礎(返り点の付け方)
- 3回 漢文訓読の基礎(再読文字と特殊な読み方)
- 4回 漢文訓読の基礎(漢文訓読と古典文法)
- 5回 先秦時代の文学1(詩経1)
- 6回 先秦時代の文学2(詩経2)
- 7回 先秦時代の文学3(楚辞1)
- 8回 先秦時代の文学4(楚辞2)
- 9回 漢代の文学(漢詩1)
- 10回 漢代の文学(漢詩2)
- 11回 漢代の文学(その他)
- 12回 南北朝の文学1(志怪小説1)
- 13回 南北朝の文学2(志怪小説2)
- 14回 南北朝の文学3(漢詩1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・レジュメ... 30% 期末テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎時限、グループあるいは学生一人一人に発表してもらう形をとりながら、中国の文語文(漢文)を訓読し、その構造文法的知識等を学習する。疑問点があれば、その場で解決できるように、辞書は必携である。発表資料のレジュメ作りに図書館での下調べが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学史II【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 健一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国古典を読む。唐代以後の作品を対象とし、我が国に影響を及ぼした中国文学に対する知識と興味を深めたい。毎時限、中国の文語文(漢文)を訓読し、その構造・文法的知識等を習得する。この授業によって日本語の古典文法に基づいた漢文訓読の基礎と、中国文学に対する基礎的知識を身につけたい。

教科書 /Textbooks

「中国文学史」 倉石武四郎 中央公論社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『中国文学史』(前野直彬編・東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスとこれまでの復習
- 2回 南北朝の文学4(漢詩2)
- 3回 南北朝の文学5(漢詩3)
- 4回 南北朝の文学6(漢詩4)
- 5回 唐代の文学1(概論・初唐詩)
- 6回 唐代の文学2(盛唐詩・李白)
- 7回 唐代の文学3(盛唐詩・杜甫)
- 8回 唐代の文学4(中唐詩・晩唐詩)
- 9回 唐代の文学5(伝奇小説1)
- 10回 唐代の文学6(伝奇小説2)
- 11回 宋代の文学1(唐宋八家文1)
- 12回 宋代の文学2(唐宋八家文2)
- 13回 宋代の文学3(唐宋八家文3)
- 14回 元・明・清の文学
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・レジュメ... 30% 期末テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎時限、グループあるいは学生一人一人に発表してもらう形をとりながら、中国の文語文(漢文)を訓読し、その構造文法的知識等を学習する。疑問点があれば、その場で解決できるように、辞書は必携である。発表資料のレジュメ作りに図書館での下調べが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 中国概観～中華民族の偉大な復興
- 3回 エリート革命から人民戦争へ
- 4回 揺れる新国家建設
- 5回 中国独自の社会主義への挑戦
- 6回 プロレタリア文化大革命
- 7回 革命と近代化の確執
- 8回 改革開放・近代化へ邁進
- 9回 六四事件
- 10回 毛沢東と鄧小平
- 11回 大国化する中国の光と影
- 12回 21世紀中国～毛沢東と鄧小平を超えて
- 13回 中国の政治経済構造の構築と変化
- 14回 社会主義市場経済の帰結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の外交政策・対外関係・香港台湾の位置づけについて史的・総合的に学ぶ。国内政治・政策の変化あるいは国際環境の変化が中国外交に与えた影響について、主要国との二国間関係を中心に検討する。また、国共内戦後の中華民国の歩みと民主化について解説し、中台関係について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年
その他、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 中国の外交方針と国内政治
- 3回 中国外交と国際環境の変化
- 4回 日中関係I
- 5回 日中関係II
- 6回 米中関係I
- 7回 米中関係II
- 8回 台湾と中華民国～蒋介石時代
- 9回 台湾と中華民国～民主化へ
- 10回 台湾問題と米中関係
- 11回 香港・東南アジアと中国
- 12回 ロシア・中央アジアと中国
- 13回 WTOと中国
- 14回 大国外交
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の流れとそれに伴う中国経済・社会の変容をトピック別に解説し、中国経済が現在に至った経緯について理解を深めます。これによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解しそれらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者から配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
- ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年 ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 計画経済システム下の中国経済【経済体制】【開発】
- 3回 改革開放路線の選択(1)【比較優位】【労働集約型産業】
- 4回 改革開放路線の選択(2)【比較優位】【労働集約型産業】
- 5回 農業・農村改革(1)【インセンティブ】【請負制】
- 6回 農業・農村改革(2)【インセンティブ】【農村工業化】
- 7回 農業・農村改革(3)【土地請負制】【三農問題】
- 8回 企業改革(1)【国有企業】【規制緩和】
- 9回 企業改革(2)【非国有企業】【予算制約】【所有権改革】
- 10回 企業改革(3)【株式上場企業】【民営企業】
- 11回 金融改革(1)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 12回 金融改革(2)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 13回 金融改革(3)【銀行】【信用社】【不良債権】
- 14回 財政改革【税】【中央】【地方】
- 15回 まとめと解説

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論II 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論IIでは、経済改革に伴う各経済制度の変容と経済の構造的変化について理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者から配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
- ②南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年 ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 これまでの経済政策の流れ(1)【財政政策】【金融政策】
 - 3回 これまでの経済政策の流れ(2)【財政政策】【金融政策】
 - 4回 通貨・為替制度の変遷(1)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 5回 通貨・為替制度の変遷(2)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 6回 通貨・為替制度の変遷(3)【通貨】【変動相場制】【為替レート】
 - 7回 金融政策と金融システム(1)【銀行】【中央銀行】
 - 8回 金融政策と金融システム(2)【銀行】【中央銀行】
 - 9回 金融政策と金融システム(3)【銀行】【中央銀行】
 - 10回 労働市場の動向(1)【余剰労働力】【労働力不足】【賃金】
 - 11回 労働市場の動向(2)【賃金】【契約法】
 - 12回 貿易・直接投資の役割【輸出依存型】【資本移動】
 - 13回 持続的成長への課題(1)【効率性】【エネルギー】
 - 14回 持続的成長への課題(2)【効率性】【エネルギー】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文学 【夜】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『孫子』は、いわゆる「兵法書」の最高傑作とされるが、その内容は、単なる戦略・戦術論にとどまるものではなく、そこには古代中国の深い叡智が含まれている。その影響は、中国や日本はもとより、今や欧米を含む全世界に及んでいると言ってもよい。この講義では、『孫子』というテキストそのものを読み解くと共に、これまでこの書物がどのように読まれ、歴史や文化にどのような影響を与えてきたかについても学ぶことによって、『孫子』の世界の奥深さを窺うよすがとしたい。

教科書 /Textbooks

金谷治『新訂 孫子』（岩波文庫、岩波書店、2000年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに【孫子】
- 2回 二人の「孫子」と時代背景 【孫武】【孫ビン】【銀雀山竹簡】
- 3回 『孫子』の思想①【兵とは国の大事なり】
- 4回 『孫子』の思想②【国を全うするを上と為す】
- 5回 『孫子』の思想③【兵の形は水に象る】
- 6回 『孫子』の思想④【敵の情を知る】
- 7回 『孫子』と諸子百家①【老子】
- 8回 『孫子』と諸子百家②【莊子】
- 9回 『孫子』と他の兵法書①【武経七書】
- 10回 『孫子』と他の兵法書②【武経七書】
- 11回 『孫子』と曹操【魏武注孫子】
- 12回 『孫子』はどう読まれてきたか
- 13回 日本人と『孫子』①【山鹿素行】
- 14回 日本人と『孫子』②【荻生徂徠】
- 15回 現代と『孫子』

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの解説文や、授業で配布するレジюмеなどに、目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読A 【夜】

担当者名 /Instructor 渡辺 茂彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

改革開放期の小説（短編または中編）を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。小説を読むことは、現代中国の今を生きる人々の内面の世界に立ち入ることになるので、中国理解のためにも有益な授業となる。

教科書 /Textbooks

コピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国当代文学概説
- 2回 裘山山<愛情传奇> (1)
- 3回 裘山山<愛情传奇> (2)
- 4回 裘山山<愛情传奇> (3)
- 5回 裘山山<愛情传奇> (4)
- 6回 裘山山<愛情传奇> (5)
- 7回 范小青<准点到达> (1)
- 8回 范小青<准点到达> (2)
- 9回 范小青<准点到达> (3)
- 10回 范小青<准点到达> (4)
- 11回 范小青<准点到达> (5)
- 12回 范小青<准点到达> (6)
- 13回 范小青<准点到达> (7)
- 14回 范小青<准点到达> (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業での発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

全員参加の輪読形式なので予習は欠かせない。辞書にない言葉は、中国語のGoogleやYahooで検索するとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読B 【夜】

担当者名 渡辺 茂彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

改革開放期の小説（短編または中篇）を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。文学作品講読Aを履修し、さらに小説を読み続けたいという人の参加を想定しているが、文講A未履修者も歓迎する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 何玉茹<天外之音> (1)
- 2回 何玉茹<天外之音> (2)
- 3回 何玉茹<天外之音> (3)
- 4回 何玉茹<天外之音> (4)
- 5回 何玉茹<天外之音> (5)
- 6回 何玉茹<天外之音> (6)
- 7回 迟子建<草原> (1)
- 8回 迟子建<草原> (2)
- 9回 迟子建<草原> (3)
- 10回 迟子建<草原> (4)
- 11回 迟子建<草原> (5)
- 12回 迟子建<草原> (6)
- 13回 迟子建<草原> (7)
- 14回 迟子建<草原> (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業での発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

全員参加の輪読形式なので予習は欠かせない。辞書にない言葉は、中国語GoogleやYahooで検索するとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語A【夜】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBC T上級級に短期間で合格することを目的とする。
講義全体のキーワード：ビジネス専門用語、BC T受験の内容と特徴。

教科書 /Textbooks

中国政府公認『BC Tビジネス中国語検定試験要綱』を使用する。
(日本BC T事務局 セリングビジョン株式会社出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BC T試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。他のBC T問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語・ヒアリングテスト練習
- 3回 単語・閲読テスト練習I
- 4回 単語・閲読テスト練習II
- 5回 単語・ヒアリングテスト練習
- 6回 単語・閲読テスト練習I
- 7回 単語・閲読テスト練習II
- 8回 単語・ヒアリングテスト練習
- 9回 単語・閲読テスト練習I
- 10回 単語・閲読テスト練習II
- 11回 単語・ヒアリングテスト練習
- 12回 単語・閲読テスト練習I
- 13回 単語・閲読テスト練習II
- 14回 単語・ヒアリングテスト練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、出席状況15%、単語テスト42%、定期試験43%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語B【夜】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBCCT上級級に短期間で合格することを目的とする。
講義全体のキーワード：ビジネス専門用語、BCCT受験の内容と特徴。

教科書 /Textbooks

中国政府公認『BCCTビジネス中国語検定試験要綱』を使用する。
(日本BCCT事務局 セリングビジョン株式会社出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期(B)
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCCT問題集を学習する。
「ヒアリング・閲読」と「会話・作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
他のBCCT問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語・ヒアリングテスト練習
- 3回 単語・閲読テスト練習I
- 4回 単語・閲読テスト練習II
- 5回 単語・ヒアリングテスト練習
- 6回 単語・閲読テスト練習I
- 7回 単語・閲読テスト練習II
- 8回 単語・ヒアリング練習
- 9回 会話テスト練習I
- 10回 会話テスト練習II
- 11回 会話テスト練習III
- 12回 会話テスト練習IV
- 13回 作文テスト練習I
- 14回 作文テスト練習II
- 15回 まどめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、出席状況15%、単語テスト42%、定期試験43%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (東南アジア) 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在11カ国で構成される東南アジアについて、各国の現在の概況と歴史を理解する。また、東南アジアを事例とした政治学、経済学、文化人類学など様々なディシプリンにおける代表的な研究をおさえ、東南アジアから世界を見る視点を養う。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回~4回東南アジア国家のプロフィール
- 5回 歴史的背景(1)港市国家の形成と外来文明との接触【港市国家、インド文明】
- 6回 歴史的背景(2)交易の時代【朝貢貿易、華人/ムスリム商人、イスラム教の受容】
- 7回 歴史的背景(3)植民地時代【帝国主義、徴税請負制、アジア間貿易】
- 8回 歴史的背景(4)脱植民地・国民国家形成の時代【独立、革命、交渉】
- 9回 ナシヨナリズム、エスニシティ【「想像の共同体」】
- 10回 政治体制と民主主義【開発独裁、権威主義、民主化、ポリテイカル・エコノミー】
- 11回 宗教と社会【仏教、イスラム教、キリスト教】
- 12回 ムラの論理から人類をとらえる【モラル・エコノミー論、劇場国家論】
- 13回 文学・文化・芸能
- 14回 東南アジアと日本【からゆきさん、南進論、福田ドクトリン、日系企業進出】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【夜】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。日韓関係に関しては、主に、靖国問題、従軍慰安婦問題、強制連行問題、教科書問題などの歴史問題について検討し、日朝関係に関しては、国交正常化問題、拉致問題、安全保障問題について検討する。尚、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題に関しては、「韓国・北朝鮮の政治外交II」で更に詳しく検討する。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房<ちくま新書>、2005年。その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。朝鮮半島と日本との近現代史の概要①
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要②
- 3回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要③
- 4回 冷戦後の日韓関係①：日韓関係の概要
- 5回 冷戦後の日韓関係②：歴史問題①：概要(強制連行問題など)
- 6回 冷戦後の日韓関係③：歴史問題②：従軍慰安婦問題①
- 7回 冷戦後の日韓関係④：歴史問題③：従軍慰安婦問題②
- 8回 冷戦後の日韓関係⑤：歴史問題④：日韓交渉の記録開示からの考察①
- 9回 冷戦後の日韓関係⑥：歴史問題⑤：日韓交渉の記録開示からの考察②
- 10回 冷戦後の日朝関係①：日朝関係の概要
- 11回 冷戦後の日朝関係②：国交正常化交渉の始まりと中断(拉致問題、核問題との関係)
- 12回 冷戦後の日朝関係③：日朝首脳会談
- 13回 冷戦後の日朝関係④：核問題の再燃と拉致問題を巡る日朝関係の悪化
- 14回 冷戦後の日朝関係⑤：日朝関係改善の方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
詳細は第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【夜】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後本格化した北朝鮮の核兵器や弾道ミサイルなどの大量破壊兵器開発問題に焦点を当て、その背景と、日韓米中露の対応とその問題点を検討し、この問題についての理解を深めるとともに、北東アジアの国際政治についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

○リッツ・ピース・メッセンジャーズ『北朝鮮の核実験をどう見るか』かもがわ出版、2006年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ドン・オーバードーフアー『二つのコリア：国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2002年
○船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。北朝鮮の核開発問題の概要
- 2回 冷戦の終焉と韓国・北朝鮮の国際関係の変化
- 3回 北朝鮮の核開発とミサイル開発問題(第1次核危機の発生)
- 4回 核危機の収束：米朝枠組み合意
- 5回 南北関係と日朝関係の改善：南北首脳会談、日朝首脳会談
- 6回 北朝鮮の核開発問題の再燃(第2次核危機)
- 7回 6カ国協議の始まり
- 8回 米朝対立の悪化と北朝鮮の核実験
- 9回 6カ国協議の進展と中断
- 10回 オバマ政権と第2回目の核実験
- 11回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応①
- 12回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応②
- 13回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応③
- 14回 北朝鮮の核・ミサイル問題の解決方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要(出版社は問わない)。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国(訳)『現代国際法入門』(成文堂、1999年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 紛争社会としての国際社会【国内社会と国際社会】
- 2回 国際紛争の解決方法の歴史I【正戦論】【中立】【不戦条約】
- 3回 国際紛争の解決方法の歴史II【憲章第2条4項】【自衛権】【司法的解決手続】
- 4回 国際裁判制度I【国際司法裁判所】【選択条項】【仮保全措置】
- 5回 国際裁判制度II【国際海洋法裁判所】【みなみマグロ事件】
- 6回 国際法の法源I【ICJ規程第38条】【慣習国際法】【条約】
- 7回 国際法の法源II【法の一般原則】【衡平と善】
- 8回 国際責任I【国際責任の発生】【国際責任の解除】
- 9回 国際責任II【外交的保護】【対抗措置】【無過失責任主義】
- 10回 国際責任III【国際責任の限界】【事例研究】
- 11回 条約法I【重大な違反】【不遵守手続】【条約の無効】
- 12回 条約法II【条約の批准と承認】【国会承認条約】【条約の自動執行性】
- 13回 条約法III【条約の国内実施】【一元論と二元論】
- 14回 法システムとしての国際法【合意原則としての国際法】【慣習国際法の形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要(出版社は問わない)。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国(訳)『現代国際法入門』(成文堂、1999年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際社会における犯罪の取り締まり【外国人犯罪】【戦争犯罪人】
- 2回 犯罪の国際的取り締まりI【刑外国外犯規定】【国家管轄権】【属人主義】
- 3回 犯罪の国際的取り締まりII【通貨偽造】【海賊】【逃亡犯罪人】【政治犯】
- 4回 犯罪の国際的取り締まりIII【ハイジャック】【麻薬密輸】【国際刑事裁判所】
- 5回 犯罪の国際的取り締まりIV【事例検討】
- 6回 人権の国際的保障【国籍】【難民】【人権の履行メカニズム】
- 7回 領域主体としての国家I【属地主義】【領域主権】【領域使用の管理責任】
- 8回 領域主体としての国家II【領海】【接続水域】【排他的経済水域】【大陸棚】
- 9回 領域主体としての国家III【無害通航権】【国際海峡】【深海底】
- 10回 領域主体としての国家IV【領域権原】
- 11回 国際法上の国家I【国家の権利義務】【国家承認】【政府承認】
- 12回 国際法上の国家II【外交関係】【領事関係】
- 13回 国際法上の国家III【主権免除】【国内問題不干涉】【破綻国家】
- 14回 国際法上の国家IV【国際組織】【国連】【NGO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 同上
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 同上
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 同上
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 同上
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 同上
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 同上
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論I【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、特に中国語の音声、文字、語彙について論ずる。

教科書 /Textbooks

『中国語学概論』（王占華他編著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、言語学の基礎知識
- 2回 中国語とはどんな言語か(概説)：中国語の特徴、歴史、共通語と方言
- 3回 中国語と日本語
- 4回 中国語の音声1：言語学における音とは
- 5回 中国語の音声2：母音・声調
- 6回 中国語の音声3：複母音・子音
- 7回 中国語の音声4：中国語の音節構造・綴りの規則
- 8回 中国語の音声5：音変化、多音語、異読語
- 9回 音声のまとめ
- 10回 中国語の文字1：文字と言葉
- 11回 中国語の文字2：漢字の起源と変化
- 12回 中国語の文字3：漢字の構造、簡体化と規範化
- 13回 中国語の語彙1：語彙の形成、語の構造、形態素、語
- 14回 中国語の語彙2：語の意味、同音語、異形語、同形語
- 15回 文字・語彙のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・課題...70% 平常点(出席・受講態度等)...30%
出席・課題が全体の3分の1に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は原則として講義形式で行うが、内容によってはグループ討論を取り入れる。また、ほぼ毎回、予習や課題を課す。
(注)今年度のみ2学期に開講する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現について論ずる。

教科書 /Textbooks

『中国語学概論』（王占華他編著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語の文法1：文法基礎知識
- 2回 中国語の文法2：中国語の品詞1
- 3回 中国語の文法3：中国語の品詞2
- 4回 中国語の文法4：フレーズと文法関係1
- 5回 中国語の文法5：フレーズと文法関係2
- 6回 中国語の文法6：文1
- 7回 中国語の文法7：文2
- 8回 文法のまとめ
- 9回 中国語の表現1：情報構造
- 10回 中国語の表現2：数量表現
- 11回 中国語の表現3：呼称
- 12回 中国語の表現4：省略
- 13回 中国語の表現5：リズム
- 14回 中国語とコンピューター
- 15回 表現のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・課題...70% 平常点(出席・受講態度等)...30%
出席・課題が全体の3分の1に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は原則として講義形式で行うが、内容によってはグループ討論を取り入れる。また、ほぼ毎回、予習や課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化研究 A 【夜】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化研究B 【夜】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化演習B 【夜】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 小川 郁夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○		○	○

授業の概要 /Course Description

中国語学習の動機付け、及び入門・初級教育における発音指導について検討する。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲持続に大きな影響力を持つ。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学力習得を左右する。講義ではまず学習者をいかにして楽しく積極的な学習に導くかについて考え、その後に発音指導をどのような順序でどのように行うかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領：外国語』『高等学校学習指導要領：外国語』（文部科学省）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語科教育法と発音教育
- 2回 中国の社会・文化について
- 3回 中国語の各種検定試験について
- 4回 学習指導要領について、中国語学習の動機付け
- 5回 発音指導の順序と方法、学習指導案について
- 6回 声調に関する問題点
- 7回 基本母音に関する問題点
- 8回 子音に関する問題点
- 9回 複母音に関する問題点
- 10回 軽声・アル化に関する問題点
- 11回 声調に関する模擬授業
- 12回 基本母音に関する模擬授業
- 13回 子音に関する模擬授業
- 14回 軽声に関する模擬授業
- 15回 まとめ：模擬授業の検討会、レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育 軽声 アル化

中国語科教育法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 小川 郁夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○		○	○

授業の概要 /Course Description

中国語学習におけるピンインの役割、ピンインによる分かち書きの方法、及び初級教育における文法指導について検討する。中国語の初級学習者にとってピンインの果たす役割は大きい。しかし、ピンインは様々な問題点を含んでいる。講義ではまずピンインに関する問題点を取り上げ、その後に初級教育においてどのような文法事項をどのように指導するかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領：外国語』『高等学校学習指導要領：外国語』（文部科学省）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語科教育法とピンイン、文法教育
- 2回 ピンインの概説
- 3回 ピンインの諸問題
- 4回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む(1)【語の認定】
- 5回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む(2)【轻声表示】
- 6回 『漢語ピンイン正詞法基本規則』を読む(3)【大文字】
- 7回 中国語テキストにおけるピンインの検討
- 8回 初級教育で扱う文法事項の選定と指導方法
- 9回 初級教育で扱う語彙の選定
- 10回 年間授業計画表について
- 11回 “有”を用いる文の模擬授業
- 12回 量詞を用いる文の模擬授業
- 13回 “了”を用いる文の模擬授業
- 14回 助動詞を用いる文の模擬授業
- 15回 まとめ：模擬授業の検討会、レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育 ピンイン 初級文法

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|-------------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 【刻々 |
| の教材研究】 【学習指導案】 | | |
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 | |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 | |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 | |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 | |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|-------------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 【刻々 |
| の教材研究】 【学習指導案】 | | |
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 | |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 | |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 | |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 | |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族と教育（1） 【家族の諸形態・機能】
- 3回 家族と教育（2） 【家族の変容】 【子どもの社会化の課題】
- 4回 学校と教育（1） 【学校・教室空間と教育過程】
- 5回 学校と教育（2） 【教師文化と生徒文化の生成・葛藤】
- 6回 学校と教育（3） 【若者と職業をめぐる課題】
- 7回 社会と教育（1） 【地域と学校の歴史】
- 8回 社会と教育（2） 【「地域の教育力」をめぐる課題】
- 9回 社会と教育（3） 【生涯学習社会における学び】
- 10回 現代社会と青少年（1） 【友人関係における葛藤】
- 11回 現代社会と青少年（2） 【高度消費社会に生きる若者】
- 12回 現代社会と青少年（3） 【新たなメディアのなかの関係】
- 13回 教育問題（1） 【少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育問題（2） 【教育における格差】
- 15回 まとめ

(※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体现しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(ルールを変えたスポーツ)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(ストレッチ、頭とからだの体操)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【夜】

担当者名 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳)『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』丸善(1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳)『沈黙の春』新潮社(1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳)『奪われし未来』翔詠社(1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M・ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人-デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会-ウェーバーの方法-『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語7 (総合) 【夜】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

杉野元子・黄漢青『大学生のための現代中国12話』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	復習(ウォーミングアップ)
2回	第1課
3回	第1課
4回	第2課
5回	第2課
6回	第3課
7回	第3課
8回	確認テスト
9回	第4課
10回	第4課
11回	第5課
12回	第5課
13回	第6課
14回	第6課
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 確認テスト・宿題...30%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語8 (総合) 【夜】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

杉野元子・黄漢青『大学生のための現代中国12話』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	復習(ウォーミングアップ)
2回	第7課
3回	第7課
4回	第8課
5回	第8課
6回	第9課
7回	第9課
8回	確認テスト
9回	第10課
10回	第10課
11回	第11課
12回	第11課
13回	第12課
14回	第12課
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 確認テスト・宿題...30%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合(居眠り、携帯操作、私語等)は減点対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Picture Questions Reading
- 2回 Picture Questions Reading
- 3回 Picture Questions Reading
- 4回 Question-Response Reading
- 5回 Question-Response Reading
- 6回 Question-Response Reading
- 7回 Short Conversations Reading
- 8回 Short Conversations Reading
- 9回 Short Conversations Reading
- 10回 Short Conversations Reading
- 11回 Short Talks Reading
- 12回 Short Talks Reading
- 13回 Short Talks Reading
- 14回 Short Talks Reading
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とイギリス文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化と英米文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とアメリカ文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化とアメリカ文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks
 No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 中夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか？」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか？」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在 不規則動詞、直接目的格、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現集
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords